

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
安藤 哲也			

授業形態	講義（グループディスカッション、グループワーク等を含みます） 15回		担当者
授業計画	第1回	なぜ「教育学」を学ぶのか？ 本講義の目的、展開予定、受講上の注意に関する説明と本講義の到達目標の展望。 自分にとって教育学を学ぶことの意味について考える。	安藤哲也
	第2回	教育とは？ 先人(大村はま、斎藤喜博、東井義雄)の教育観や教育実践を知り、自身が経験してきた教育を振り返ることを通して、教育の在り方について考える。	安藤哲也
	第3回	戦後日本の学校教育 学習指導要領の変遷を基に、改訂当時の社会状況などを知ることを通して、それぞれの時期に目指した学校教育の有り様の背景について考える。	安藤哲也
	第4回	現在の学校教育が目指すもの 近年の中教審答申や学習指導要領を基に、自身が経験した教育内容を振り返ることを通して、現在の学校教育が目指す教育の有り様について考える。	安藤哲也
	第5回	世界の教育思想Ⅰ ※提出課題あり 代表的な先人(コメニウス、ロック、ルソー)の教育思想について調べ、交流することを通して、社会の有り様と教育との関連や現代の教育との関連について考える。 提出された課題は、学習資料として全体で共有し、学びを広げる。	安藤哲也
	第6回	世界の教育思想Ⅱ ※提出課題あり 代表的な先人(ペスタロッチ、ヘルバルト、デューイ)の教育思想について調べ、交流することを通して、社会の有り様と教育との関連や現代の教育との関連について考える。提出された課題は、学習資料として全体で共有し、学びを広げる。	安藤哲也
	第7回	潜在的なカリキュラムとは？ 複数の事例を基に潜在的なカリキュラムが及ぼす影響について考えることを通して、教育行為の基盤となるものにまで視野を広げる。	安藤哲也
	第8回	子どもの思いに基づく教育 子どもの自発性や主体性を大切にする幼児教育に焦点を当て、その基本を理解することを通して、自身の専門領域における指導の在り方を考える。	安藤哲也
	第9回	子どもの思いを理解する ビデオ映像を基に、一連の保育場面における子どもの思いを読み取ることを通して、子ども理解の方法とその重要性について具体的に考える。	安藤哲也
	第10回	子どもの思いを指導に活かす ビデオ映像を基に、子どもの思いを環境構成や保育者の関わり方に重ね合わせることを通して、子どもへの指導の在り方を具体的に考える。	安藤哲也
	第11回	活動を通して学ぶということ 自身の学校経験を振り返るとともに、特別活動を具体的に体験することにより、活動を通して学ぶことの意義を見出す。	安藤哲也
	第12回	集団で活動することの意義 小集団での活動を具体的に体験することにより、特別活動を指導する上で重要視する3つの視点から、子どもにとっての困難さや意義について考える。	安藤哲也
	第13回	特別活動で何を育てるのか？ 特別活動を具体的に体験し、活動を通しての学びを実感することにより、教師の視点から特別活動の意義や指導の在り方を考える。	安藤哲也
	第14回	チームの重要性 前回までの活動に基づくカンファレンスを通して、教職員同士の協働性や同僚性、学び合いの大切さについて考える。	安藤哲也
	第15回	「教育学」をどう活かすか？ ※課題レポートあり 「教育学」で得た学びの活かし方に関する考えを交流することを通して、自身のキャリア形成について幅広い視野から考えを深める。	安藤哲也

科目の目的	学校教育を中心とした自身の教育経験を対象化し、教育内容や教育方法、教師の資質などについて、幅広い視点から振り返り、具体的に考察することを通して、対人援助職に共通して必要となる知識を見出すことを目的とします。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】
到達目標	本授業で得た教育に関する学びを自身の専門領域に引き寄せ、何を、どのように活かせるかについて考えを深め、自分の言葉で述べるができる。
関連科目	教育心理学
成績評価方法・基準	①毎回の授業で使用するワークシートの内容（課題解決過程や振り返りの内容）と②課題レポートの内容を総合して評価します。配点は、①が70%、②が30%です。 ①は、毎回のめあてに近づく思考がなされているか、鍵概念を理解できているかという観点で評価します。そして、評価に基づいたコメントを付し、次回に返却することを通して、個々の学びを深めていきます。 ②は、本授業のまとめとして作成し、本授業での学びを自分の将来像(生き方)に意味付けているかという観点で評価します。第15回に他者と交流することを通して、幅広い視点から自分の学びを見つめ直します。その上で、評価の観点に基づいたコメントを付し、個々に返却します。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前に配布する講義資料を基に予習をするとともに、返却されたワークシートを基に復習をしましょう。予習・復習に必要な時間の目安はそれぞれ90分程度です。
教科書・参考書	教科書は使用しません。必要な資料は適宜配布します。
オフィス・アワー	授業の前後(場所:非常勤講師室)でお願いします。
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	講義で使用する資料は、原則として前回授業の翌日にActive Academyにより事前配布します。各自、事前に取得しておいて下さい。
アクティブ・ラーニングの実施	グループディスカッション、グループワーク等

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
鎌田 依里			

授業形態	講義（演習を含む）15回		担当者
授業計画	第1回	教育心理学を学ぶ意義 ガイダンス 学校教育とは 子供の誕生と消滅 演習（思い出に残る先生）	鎌田 依里
	第2回	乳幼児期① 乳幼児の発達について知る。定型発達の内容について詳しく知り、発達の特徴を考慮した上での医療従事者としての具体的な関わりについて考える。	鎌田 依里
	第3回	乳幼児期② 乳幼児の心身の健康を守るために、日本でおこなわれている、法整備、乳幼児健康診査や新生児マススクリーニング等について学ぶ。DVD視聴の時間も設ける。	鎌田 依里
	第4回	児童期 こころの発達理論、アンとサリーの課題等について知り、児童期の心身の発達の特徴について理解をする。	鎌田 依里
	第5回	思春期、青年期 思春期、青年期の心身の発達について理解をする。また青年期に該当する自らの心身の状態についても客観的に知り、自己理解を深める機会とする。	鎌田 依里
	第6回	各発達段階での心理と課題 エリクソンの発達課題 自分史グラフを作成することによって、自らの発達の過程を振り返り、これまでの成長において周囲の援助があったことを再確認するとともに、周囲の人への感謝の気持ちを確認する。	鎌田 依里
	第7回	ジェンダー アイデンティティ LGBTQ+、SOGI、身体の性、こころの性、ジェンダーアイデンティティ、にまつわる現状と課題について知り、ステレオタイプや偏見が歴史的にどのように変化してきたかについて知る。そのうえで、差別のない平等な社会とは何かを考える。	鎌田 依里
	第8回	いじめの実情とその課題と支援 いじめの実情とその課題を知り、具体的な支援方法を検討する。	鎌田 依里
	第9回	不登校や非行の実情とその課題と支援 不登校や非行の背景について知ることによって、不登校や非行における表面上の課題だけではなく、その背景にある問題にまで目を向け、支援をすることの必要性について理解をする。 学校教育相談の歩み チェーン・インタビュー	鎌田 依里
	第10回	医療的ケアの必要な子どもたちの現状と課題 医療的ケアを必要とする子どもたちの実際について、映像を視聴し、現状と課題について知る。そのうえで、支援をする際の配慮について考える。また医療的ケアの必要な子どもが、どのように自己実現をおこなっていかについても知る。 エクササイズ（聞く態度で信頼関係はつくられる）	鎌田 依里
	第11回	様々なハンディキャップ 遺伝的な問題、各種の障害（視覚障害、聴覚障害、等）についての知識を学ぶ。その知識を基にして、専門職としての業務をおこなう際の配慮事項について考える。	鎌田 依里
	第12回	虐待の種類と実情 具体的な虐待について知り、その早期発見早期対応、予防を実際に行うことができるようにする。	鎌田 依里
	第13回	特別支援教育とは何か 特別支援教育に至る経緯について知るとともに、神経発達症の概念について整理をする。また、神経発達症だけではなく、医療的ケアの必要な子ども、また身体障害、身体疾患、いじめ、虐待等様々な配慮を必要とする子どもへの取り組みが、特別支援教育であることを知る。	鎌田 依里
	第14回	スクールカウンセリングの実際 スクールカウンセリングの実際について映像を視聴する。学校現場において、こころのケアがどのように行われているかを知り、医療現場と学校現場の連携についても検討する。	鎌田 依里

	第15回 教育心理学と医療との関係、自己肯定感 これまで教育心理学で学んだことを医療の現場ではどのように活かすかについて改めて検討する。また、自己実現のために何が出来るかを検討する。自己肯定感や自尊感情が、人の成長において、効果的な役割を担っていることを知る。またそれら を高める方法について知り、自分自身やその周囲の人に対して、自己肯定感や自尊感情を高めるために何が出来るかを具体的に考える。	鎌田 依里
科目の目的	自分や周囲が体験してきた教育を振り返り、その心理的意味を考察することで、人間を理解し、人との関係の取り方や自分自身の有り様を見つめる。【コミュニケーション能力】 【論理的思考・多様性理解】 【知的探求心と創造性】 【社会に貢献する能力】	
到達目標	教育心理学の概要を自分および周囲の人々の体験から理解し、自分自身を考察し、他者との効果的な関係づくりを習得するとともに、支援の必要な子どものための援助方法について習得する。	
関連科目	教育学 心理学 臨床心理学	
成績評価方法・基準	定期試験（レポート形式・55％）に、毎回の受講後に作成する小レポートの評価（45％）を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業後に復習を45分程度おこなうこと。	
教科書・参考書	【教科書】 鎌田依里・峯村優一（2023）「難病療養者のこころ 心理臨床と生命倫理の視点から」創元社 【参考書】 授業内で適宜、配布する。	
オフィス・アワー	授業前後	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	とくになし	
アクティブ・ラーニングの実施	アクティブラーニングをおこなっている	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
衣川 隆			

授業形態	講義（14回）・演習（1回）	担当者
授業計画	第1回 健康管理概論 1. ヘルスプロモーション（健康づくり） 2. 予防医学 3. 生活習慣病（NCD）概論	衣川隆
	第2回 健康づくり施策概論 1. 健康日本21（2011）のこれまでの取り組み 2. 健康日本21（第二次）（2013）とは？ 1. 健康日本21（2011）のこれまでの取り組み 3. 日常生活の歩数の増加 日常生活のなかで積極的に体を動かそう 4. ライフスタイルと生活習慣病	衣川隆
	第3回 生活習慣病（NCD） 1. メタボリックシンドローム 2. 高血圧 3. 糖尿病 4. ロコモティブシンドローム 5. 悪性新生物（がん） 6. 認知症	衣川隆
	第4回 運動生理学 1. 呼吸・循環器系と運動 2. 脳・神経系と運動 3. 骨格筋系と運動	衣川隆
	第5回 機能解剖学 1. ハムストリングスの肉離れ ～アスリートを悩ます重大な障害～ 2. 筋肉の種類や分類法	衣川隆
	第6回 健康づくり運動の理論（トレーニングと筋肥大・栄養・骨） 1. 体力トレーニングの原理と原則 2. 強度の条件（主にコンセントリック） 3. 筋トレセット間の休憩時間 4. 筋力トレーニングと栄養（トレーニング50対栄養50） 5. 骨について	衣川隆
	第7回 健康づくり運動の理論（ストレッチ） 1. ストレッチの種類は大きく分けて2種類	衣川隆
	第8回 スポーツ障害と予防健康管理概論 1. スポーツ障害とは	衣川隆
	第9回 体力測定と評価 1. 体組成とは	衣川隆
	第10回 運動プログラムの実際 1. 健診結果と特定保健指導の基準値 2. メディカルチェック	衣川隆
	第11回 運動と心の健康増進 1. 喫煙とメンタルヘルス、運動 2. 多くの現代人を悩ませる「睡眠負債」とは？	衣川隆
	第12回 栄養摂取を考察する 1. 栄養素の種類と働きを考察する	衣川隆
	第13回 健康についての雑学（食事・栄養） 1. ダイエットに関する情報 2. 危険な4つの食べ物	衣川隆
	第14回 健康についての雑学（心・体） 1. 健康とこころ（心理学に学ぶ） 2. アナトミートレイン 3. その他	衣川隆

	第15回 スポーツ小テスト 1. 授業中に課題を出した柔軟性的小テスト（昨年度は前屈ストレッチング）を実施する 小テストの評価は、総合評価10/100とする 小テストの評価ポイントとして、広義には柔軟性であるが狭義には講義中に説明する	衣川隆
科目の目的	「健康と運動」、「老化と運動」に関しその維持と増進方法について、なぜ運動が重要なのかを学ぶ。特に有酸素運動と筋トレの効果は、心肺機能、呼吸器の向上、筋力の向上と筋肥大だけでなく、肥満防止や生活習慣病の予防・改善、姿勢の改善、高齢者生活の障害を低減すること等を説明する。本講義では有酸素運動や、筋力トレーニングを体験しながらその効果をも医療従事者として、地域社会に発信できるよう基礎を学ぶ。 またスポーツを行なうことや、その能力を高めることに心の問題は切り離せない。本講義では、スポーツ心理学の概要と自己の目標設定の考え方、情動の自己コントロールについて振り返り、起り得る問題の対策を学習する。そして生涯にわたって専門分野を探求し、その発展に貢献できるよう考え方を学ぶ。 【QOLの向上を支援するための言語聴覚療法学に必要な基本的知識・技術】 【リハビリテーションに関わる多職種、家族、地域住民とのコミュニケーション能力と協調性】 【新たな課題、未知の課題に取り組み解決しようとする姿勢】 【人間の個性と尊厳を尊重し、言語聴覚療法に必要な知識と技術を生涯にわたり学習しようとする倫理観】	
到達目標	「健康と運動」、「老化と寿命」等に関しその維持と増進方法について考えるにあたって、日常生活とスポーツ、機能的な筋力トレーニングやストレッチの方法を理解し、自発的に生涯に渡ってスポーツに取り組む心を身に着ける。またスポーツ心理学において、自己の目標設定と情動の自己コントロールを中心に学び、知識・行動を身に付ける。	
関連科目	健康スポーツ実技	
成績評価方法・基準	定期試験（90%）、授業内的小テスト（10%） 定期試験は100点満点で実施するが90点満点に換算。授業内的小テストは1回実施して10点満点とする。 定期試験は講義で学んだ中から実施する。 小テストは講義中に課題として出した柔軟性的小テスト（昨年度は前屈ストレッチング）を実施する。 小テストの評価ポイントとして、広義には柔軟性であるが狭義には講義中に説明する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1日（24時間）の生活リズムにおいての、自分自身の健康や体力、栄養について管理をしておくこと。よって1日1回はどこかで運動を行い、食事についてもタイミングと栄養について考えてもらいたい。	
教科書・参考書	教科書 アクティブアカデミーにて授業資料を配布します。 参考書 「トレーニング：健康・スポーツ科学講義 第2版」出村慎一監修 杏林書院 「これから学ぶスポーツ心理学」荒木雅信監修 大修館書店	
オフィス・アワー	講義室または体育棟で、講義の前後	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	正しい知識の修得ではなく、正解のない議論（課題）を通して問題解決へのアプローチ方法を身につける。 具体的には、以下のことを講義に取り入れていく。 1. 学生は、授業を聞く以上の関わりをしていること 2. 学生は高次の思考（分析、総合、評価）に関わっていること 3. 学生が自分自身の態度や価値観を探求することに重きが置かれていること 4. 問題解決のために知識を使ったり、人に話したり書いたり発表したりすること	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
衣川 隆			

授業形態	実技	担当者
授業計画	第1回 オリエンテーション アクティブ・ラーニングの実施説明 オリエンテーションと班編成&トレーニング	衣川隆
	第2回 球技・トレーニング 基礎体力作りと班対抗戦：バレーボール・バスケットボール、バドミントン、フットサル、ドッジボール等から選択する。	衣川隆
	第3回 球技・トレーニング 基礎体力作りと班対抗戦：バレーボール・バスケットボール、バドミントン、フットサル、ドッジボール等から選択する。	衣川隆
	第4回 体力測定記録会 体力測定記録会の種目（長座体前屈、握力、背筋力、立ち幅跳び、反復横跳び、プッシュアップ30秒、ボール投げ、上体起こし、20m）。 体力測定記録会は小テストになる。小テストの評価は、総合評価10/100とする。小テストの評価ポイントとして、記録会の成績を自己分析したレポートを提出する。 広義には「健康とスポーツ」であるが狭義には講義中に説明する。	衣川隆
	第5回 球技・トレーニング 基礎体力作りと班対抗戦：バレーボール・バスケットボール、バドミントン、フットサル、ドッジボール等から選択する。	衣川隆
	第6回 球技・トレーニング 基礎体力作りと班対抗戦：バレーボール・バスケットボール、バドミントン、フットサル、ドッジボール等から選択する。	衣川隆
	第7回 球技・トレーニング 基礎体力作りと班対抗戦：バレーボール・バスケットボール、バドミントン、フットサル、ドッジボール等から選択する。	衣川隆
	第8回 球技・トレーニング 基礎体力作りと班対抗戦：バレーボール・バスケットボール、バドミントン、フットサル、ドッジボール等から選択する。	衣川隆
	第9回 球技・トレーニング 基礎体力作りと班対抗戦：バレーボール・バスケットボール、バドミントン、フットサル、ドッジボール等から選択する。	衣川隆
	第10回 心肺持久力記録会 20mシャトルランを実施する。この心肺持久力記録会は小テストとする。心肺機能や走力の向上を図るとともに、有酸素運動とATPの関係も学ぶ。	衣川隆
	第11回 球技・トレーニング 基礎体力作りと班対抗戦：バレーボール・バスケットボール、バドミントン、フットサル、ドッジボール等から選択する。	衣川隆
	第12回 球技・トレーニング 基礎体力作りと班対抗戦：バレーボール・バスケットボール、バドミントン、フットサル、ドッジボール等から選択する。	衣川隆
	第13回 球技・トレーニング 基礎体力作りと班対抗戦：バレーボール・バスケットボール、バドミントン、フットサル、ドッジボール等から選択する。	衣川隆
	第14回 球技・トレーニング 基礎体力作りと班対抗戦：バレーボール・バスケットボール、バドミントン、フットサル、ドッジボール等から選択する。	衣川隆

	第15回 スポーツ小テスト 授業中に課題を出した柔軟性の小テスト（昨年度は股関節ストレッチングポーズ）を実施する。 小テストの評価は、総合評価10/100とする。小テストの評価ポイントとして、広義には柔軟性であるが狭義には講義中に説明する。	衣川隆
科目の目的	運動やスポーツが得意な人もあまり得意でない人も、手軽にできるトレーニングやストレッチを行い、体力をつけることを狙いとする。一人で簡単にできる筋力トレーニングやストレッチを行って、少しずつ無理なく自分のペースでスポーツを楽しめるようにする。 各種スポーツでの身体活動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、その保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活が送れるよう自覚を促す。スポーツを通して自己研鑽に励み、自ら疑問や課題を設定し、問題解決のために調査・検討・分析できる能力を身につける。 各種室内での軽運動・スポーツ・トレーニング等に親しみ、積極的に参加し、将来健康で豊かなライフスタイルの形成を目指す。加えて、大学生活のスタート時が、より豊かで協同的な人間関係の構築と学生生活の充実の一助となるよう、そして多職種連携による問題解決の重要性の理解し、学生相互のコミュニケーションの学びを積み重ねた豊かで幅広い教養を身につける。	
到達目標	1. 健康と体力の重要性を理解し、維持向上をさせる。 2. 生涯にわたって健康と体力を維持向上するための知識・行動を身に付ける。 3. 自らの生活習慣を観察し、その問題点を把握して対策を立て心身の健康状態を整える。	
関連科目	健康スポーツ理論	
成績評価方法・基準	授業時間内の実技（80%）。小テスト（20%）。 実技の評価ポイントは、科目目的やアクティブラーニングに記載されていることが実施できているかを基準にする。 1回目の小テストの評価は、総合評価10/100とする。 小テストの評価ポイントとして、記録会の成績を自己分析したレポートを提出する。広義には「健康とスポーツ」であるが狭義には講義中に説明する。 2回目の小テストは、授業中に課題を出した柔軟性の小テスト（昨年度は股関節ストレッチングポーズ）を実施する。 小テストの評価は、総合評価10/100とする。小テストの評価ポイントとして、広義には柔軟性であるが狭義には講義中に説明する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1日（24時間）の生活リズムにおいて、心と体の健康管理と生活状況管理をしておくこと。よって1日1回は運動が出来るような生活リズムを心がけてほしい。	
教科書・参考書	参考書 「トレーニング：健康・スポーツ科学講義 第2版」出村慎一監修 杏林書院 「運動学」伊東元 高橋正明編集 医学書院	
オフィス・アワー	体育棟で授業の前後	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	正しい知識の修得ではなく、正解のない議論（課題）を通して問題解決へのアプローチ方法を身につける。 具体的には、以下のことを講義に取り入れていく。 1. 学生は、授業を聞く以上の関わりをしていること 2. 情報の伝達より学生のスキルの育成に重きがおかれていること 3. 学生は高次の思考（分析、総合、評価）に関わっていること 4. 学生は活動（例：読む、議論する、書く）に関与していること 5. 学生が自分自身の態度や価値観を探究することに重きが置かれていること 6. 問題解決のために知識を使ったり、人に話したり書いたり発表したりすること	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
徳本 善彦			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 ガイダンス：「文学」とは何か 日本の近代化と「文学」について歴史的観点から学ぶ。</p> <p>第2回 文学テキストを（読む） 文学作品をテキストとして読む方法について、実践例を通して学ぶ。</p> <p>第3回 寺田寅彦「団栗」を読む 「写実」的な作品を通して、小説世界の時間・空間を整理し小説を立体的に読む。</p> <p>第4回 志賀直哉「焚火」を読む テキストをじっくり読むことで、ストーリーに頼らない小説の読み方を学ぶ。</p> <p>第5回 芥川龍之介「トロッコ」を読む 小説の物語的要素を捉え、小説世界の構造を理解する。</p> <p>第6回 群馬県の作家：萩原朔太郎の詩を読む 日本の近代詩に多大な影響を与えた萩原朔太郎の詩を鑑賞する。</p> <p>第7回 川端康成「葬式の名人」を読む 小説に書かれた、言葉の身体／身体という言葉について考える。</p> <p>第8回 野上弥生子「茶料理」を読む ストーリーに抗って読むことで、小説の表現形式の特徴を理解する。</p> <p>第9回 小レポート：矢田津世子「茶粥の記」 矢田津世子「茶粥の記」を事前に読んだ上で、授業内小レポートに取り組む。</p> <p>第10回 解説：矢田津世子「茶粥の記」を読む 小レポートの講評と、課題小説の読解の一例を解説する。</p> <p>第11回 坂口安吾「真珠」を読む 戦争と文学について、歴史的事実が物語として受容される過程を読み解く。</p> <p>第12回 戦後詩を読む 『荒地』や『権』といった戦後の現代詩誌を中心に現代詩について学ぶ。</p> <p>第13回 石牟礼道子「死民たちの春」を読む 経済成長と公害、東京と地方など戦後社会の問題を文学を通して考える。</p> <p>第14回 古井由吉「祈りのように」を読む 小説の中でハッキリと語られないものについて、語りの形式に注目して読解する。</p> <p>第15回 村上春樹「アイロンのある風景」を読む とらえようのないものを比喩を通して語ること、災害と文学について考える。</p>	<p>徳本善彦</p> <p>徳本善彦</p> <p>徳本善彦</p> <p>徳本善彦</p> <p>徳本善彦</p> <p>徳本善彦</p> <p>徳本善彦</p> <p>徳本善彦</p> <p>徳本善彦</p> <p>徳本善彦</p> <p>徳本善彦</p> <p>徳本善彦</p> <p>徳本善彦</p> <p>徳本善彦</p> <p>徳本善彦</p> <p>徳本善彦</p> <p>徳本善彦</p>
科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文学作品を読み、不明な事柄を調べることで当時の時代状況や社会問題などを理解する。 2. テキストの中に問題を読み取り、深く考えることで筋道の通った読解を見出す。 3. 小レポートの作成を通して、自分の考察を論理的に表現する力を身につける。 <p>【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文学作品の書かれた当時の時代状況からの視点を体験することで、読む視点の複数性を理解する。 2. テキストの中に問題を見出すことを通して、情報を批判的に評価する読解力を養う。 3. 小レポート・期末レポートの作成に取り組むことで、自分の意見を客観的・論理的に表現する技術を身につける。 	
関連科目	芸術・哲学・社会学	
成績評価方法・基準	授業内小レポート（50%）、期末レポート（50%）。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前＝講義で使用するテキストを読み問題を整理する。（1.0時間） ・授業後＝授業内容の復習。（0.5時間） 	
教科書・参考書	教科書：使用しない（講義資料は1週間前を目処にActive Academyを通して配布します。各自で印刷して授業に持参して下さい）。	
オフィス・アワー	授業の前後（非常勤講師室）。	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
竹村 一男			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 宗教を学ぶにあたって 宗教を学ための必要な基礎的事項について説明する。講義の前半は宗教の種類、宗教の研究分野、さらに、3大宗教について、その概要と現状に言及する。後半は芸術作品や世界遺産の中から宗教に関する画像を中心に紹介する。	竹村 一男
	第2回 宗教本質論 宗教とは何か 過去から現在に至る哲学、神学、心理学などの代表的な思想や、昨今の脳科学は、宗教をどのように解釈してきたかを解説する。更に、最も難解なテーマである「宗教とは何か」について考えてみたい。	竹村 一男
	第3回 キリスト教概説 世界最多の宗教人口をもつキリスト教の教義と歴史、現状について講述する。また、その文化・歴史などを画像を交え解説する。特に新約聖書、福音書の解説については、ジョットの絵画による概要説明を行う。	竹村 一男
	第4回 イスラム教概説 イスラム教の教義と歴史、現状について講述する。その文化・歴史など画像を交え説明する。コーランの記述内容、スンニ派とシーア派の相違点、更に昨今の国際情勢におけるイスラームなどその現状にも言及する。	竹村 一男
	第5回 仏教概説 仏教の教義と歴史、現状について講述し、その文化・歴史や伝播の経緯など画像を交え説明する。インドにおける仏教の成立と展開を中心に、中国仏教、南伝仏教、チベット仏教にも言及する。	竹村 一男
	第6回 日本の仏教 日本の仏教の教義と歴史、現状について講述する。日本への仏教の伝来とその展開、各宗派による仏教思想の比較などを中心に解説し、更に寺院建築や仏像、曼荼羅など仏教文化遺産についても画像を交え解説する。	竹村 一男
	第7回 日本の民俗宗教 日本の宗教の基層をなす民俗宗教について、祖霊信仰や民俗神道、神社神道などを中心に、その文化と歴史について講述する。日本の民俗宗教には様々な儀礼や祭祀が含まれるが、仏教との神仏習合も多々みられる。それらの特徴的な事例についても、画像を交え紹介する。	竹村 一男
	第8回 世界の民族宗教 特定民族に受け継がれる民族宗教ユダヤ教とヒンドゥー教について、その文化・歴史などを講述する。ユダヤ教はキリスト教・イスラム教の、ヒンドゥー教は仏教の起源となった宗教であるが、現在においても多数の信徒をもつ。その経緯と、なぜ民族の枠内に留まったかについて解説し、旧約聖書の記述については、地球環境史との関係もふまえて、画像を交え解説する。	竹村 一男
	第9回 中国の民族宗教 中国の民族宗教である儒教と道教について、その文化・歴史など画像を交え講述する。特に儒教については礼教（道徳）面が強調されることが多いが、その宗教面についても解説する。さらに、両宗教が日本に与えた影響などにも言及する。	竹村 一男
	第10回 新宗教 1830年代以降に成立した新宗教について、天理教、創価学会、モルモン教会を例に、その概要と歴史、教義について講述する。現在はこれらの新宗教も多くの信徒を持つに至り、家庭の宗教として信仰される例も多い。上記以外の幾つかの宗教団体、海外の新宗教などについても画像を交え解説する。	竹村 一男
	第11回 宗教と科学 宗教研究の事例 宗教を対象とする研究には、神学などの信仰者の視点によるものと、比較宗教学のように中立的な視点からのものがある。本講座は後者に属するが、ここでは比較宗教学、宗教社会学、宗教心理学などの中立的な社会科学の視点からなされてきた研究学説について解説する。さらに、反社会的教団の特徴や、講師の研究事例なども交えて講述する。	竹村 一男

	第12回 宗教と文化・芸術 宗教文化と芸術について講述する。古来より、宗教は芸術にも様々な影響を及ぼしてきた。その中で、特に美術と音楽、舞踊について、画像や映像を参考に解説する。また、宗教史跡、宗教建造物などの文化遺産にも言及する。	竹村 一男
	第13回 グローバル化と宗教 グローバル化が進む現在における宗教の諸問題について解説する。現状の宗教動向に加え、反社会的教団による事件、IS問題、民族紛争などの事例について講述する。	竹村 一男
	第14回 宗教と医療 宗教と医療に関する歴史や現状の諸問題について講述する。宗教団体と医療組織、特定教団の教義と輸血問題、終末医療などの医療現場における宗教の事例についても紹介する。	竹村 一男
	第15回 神話・文学における宗教、及びまとめ 前半は、内村鑑三の宗教について講師の事例研究も交え講述する。後半は、聖典などに見られる印象的な言説や、文学作品における記述の紹介と、全講義のまとめを行う。	竹村 一男
科目の目的	宗教は私達の身近に存在する。多くの家庭には仏壇や神棚が置かれ、年中行事や冠婚葬祭も宗教により執り行われる。旅行などで各地に足を運ぶと、おおよそ神社仏閣、宗教施設が存在しない地域はない。その一方で、宗教戦争の様相を呈した民族紛争がニュースに登場することも多い。本講義においては、このように多くの諸相において人間に関わりをもつ「宗教」とは何かについて考え、さらに様々な宗教を取上げ、その教義、歴史、さらに文化社会的側面について講述する。宗教理解は私達人間の理解、さらに文化・社会の理解にも繋がる。 なお、本講義は特定の宗教の視点によるものではなく、中立的な観点から広範に宗教を扱う。受講生各自の宗教観は人それぞれであろうが、医療現場における患者（被治療者）の宗教観も様々であるため、医療者には中立的かつ広範な視点での宗教理解が必要となってくる。医療に携わろうとする者はそのことを理解したうえで、私達人間に与えられた生命をまもること、与えられた生命をよりよく生きることが大切かと考える。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ● それぞれの宗教を比較し、その歴史や教義、死生観などを分析、説明することが出来る。 ● 宗教にかかわる文化や時事問題などを理解し、適切に説明することが出来る。 ● 将来の医療現場において、患者や関係者の宗教観を理解し、適切かつ発展的な行動がとれる。 	
関連科目	哲学 心理学 社会学 芸術	
成績評価方法・基準	定期試験（100%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1時間程度（計15回15時間）、講義内容の再確認と復習を行う。より深く学びたい受講生には、興味のある教典・聖典や、宗教に関連した文学作品などの読書に加えて、比較宗教学による文献の読解もお勧めする。最初は簡単な概説書でもよいが、以下に推薦文献をあげる。文献例：『イスラーム文化』井筒俊彦（岩波文庫）、『ヒンドゥー教』森本達雄（中公新書）、『儒教とは何か』加地伸行（中公新書）、『神道とは何か』伊藤 聡（中公新書）、『日本の民俗宗教』宮家 準（講談社学術文庫）、『世界の宗教』岸本英夫編（大明堂 絶版）、『森林の思考・砂漠の思考』鈴木秀夫（NHKブックス）、『現代医学と宗教』日野原重明（岩波書店）など。また、信仰者以外の人にとっては「聖書」や「コーラン」は難読な書物であろうが、聴講によって基礎知識を得た後に読むと、理解が変わってくる。	
教科書・参考書	教科書 使用しない。毎回、講義用のプリントを配付する。 参考書1 『共同訳聖書』（日本聖書協会） 参考書2 『ブッダの言葉』中村 元訳（岩波文庫） 参考書3 『コーラン』井筒俊彦訳（岩波文庫）	
オフィス・アワー	講義終了後の教室。または講師出校時の非常勤講師室。	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	毎回、講義用のプリントを配付しますが、同じものを事前にActive Academyにアップロードしておきます。	
アクティブ・ラーニングの実施	授業形態としての実施はなし。出席票での質問、口頭での質問は、毎回受け付ける。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
東 晴美			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回</p> <p>ガイドダンス：オペラ、歌舞伎から現代演劇まで。舞台芸術の幅広さと、他の芸術ジャンルとの交流 舞台芸術は、言語、音楽、身体、美術などの要素を備えた総合芸術であることを紹介します。また、舞台芸術が様々なジャンルの芸術と深い関係があることを理解し、その上で舞台芸術を学ぶ意義について考えます。</p>	東 晴美
	<p>第2回</p> <p>ドラマ（物語）：創作された物語から、証言まで ギリシャ悲劇やシェイクスピアの作品において、ドラマはどのような構造を持っているかを考えます。またそのようなドラマを突き崩そうとしたベケットの作品や、ストーリーテリングや証言などポストドラマとしての現代演劇の取り組みを紹介します。</p>	東 晴美
	<p>第3回</p> <p>劇場：社会と劇場、劇場と舞台芸術の関係 ギリシャ劇場から額縁舞台を経て、現代に至る劇場の変遷が、西洋の舞台芸術の歴史と呼応していることを学びます。また、舞台芸術における劇場の役割を考察します。</p>	東 晴美
	<p>第4回</p> <p>観客：もう一人の作り手として 舞台芸術の観客は、他の芸術と異なり物語をともに作りあげる存在でもあります。舞台芸術と観客の関係性について、ギリシャ時代から現代までの変遷を考えます。</p>	東 晴美
	<p>第5回</p> <p>身体：身体文化とことばの関係 俳優によって登場人物が表現されるリアリティについて、近代に絶大な影響を与えた俳優訓練法・スタニスラフスキーシステムを例に考察します。また、物語をつむぎだす言葉と身体の関係性を再考する実践も紹介します。</p>	東 晴美
	<p>第6回</p> <p>ジェンダー：演じる性と演じられる性（小レポート） 演じる性として女優について考察します。また、舞台芸術では女性をどのように表現してきたか、演じられる性についても紹介します。翌週にレポートについてコメントをします。</p>	東 晴美
	<p>第7回</p> <p>能：物語のビジュアルイメージ化 能楽の基礎について学びます。また物語がビジュアルにイメージ化され定着していくことを平家物語を題材にした作品を例に考えます。また、600年前に生まれた芸能が、今もなお息づいている理由に迫ります。</p>	東 晴美
	<p>第8回</p> <p>狂言：笑いの表現 笑いは文化を象徴するキーワードです。笑いの芸能である狂言の基礎について学びます。またシェイクスピアの作品をもとにした新作狂言など、狂言師の新しい挑戦を紹介します。</p>	東 晴美
	<p>第9回</p> <p>歌舞伎：現代に生きる古典芸能 歌舞伎の基礎について学びます。歌舞伎は冷凍保存された古典ではなく、常に同時代のエンターテインメントであろうとしています。能の物語を継承しながら、江戸時代としての現代劇として再生した「京鹿子娘道成寺」を例に考えます。</p>	東 晴美
	<p>第10回</p> <p>文楽：人形の表現と語る表現（小レポート） 文楽の基礎について学びます。北野武の映画「ドールズ」を紹介しながら、今日における文楽の可能性を考えます。翌週にレポートについてコメントをします。</p>	東 晴美
	<p>第11回</p> <p>ゲームと物語：日本の物語の再生 日本の歴史上の人物の伝記がゲームのコンテンツとなり、さらにその物語が、アニメ、漫画、舞台へと展開しています。このような流れを例に取りながら、日本の物語の新たな再生について考察します。</p>	東 晴美
	<p>第12回</p> <p>アニメ・マンガ：絵画と文学、舞台メディアの交流史 欧米と異なり、大人も愛する日本のマンガ文化について、江戸時代における絵画、文学、演劇のメディアミックス文化を源流として考察します。また、能や、歌舞伎など日本の伝統的なコンテンツがどのようにアニメやマンガに取り入れられているかを探求します。</p>	東 晴美

	<p>第13回 「ライオンキング」と文楽 文楽の人形の技術は、世界的にも大きなインパクトを与え続けています。「ライオンキング」や「キングコング」など、文楽にインスパイアされた表現を紹介します。</p> <p>第14回 2.5次元ミュージカル 現代日本では、舞台芸術、アニメ、ゲームなどが、メディアの垣根を越え縦横に入り交じりつつあります。代表例として漫画「テニスの王子様」のアニメ、ゲーム、ミュージカル化を紹介します。また、二次創作と日本の著作権意識の源流について考察します。</p> <p>第15回 まとめ:ひろがる芸術の世界 ボーカロイド初音ミクによる近松門左衛門作「曾根崎心中」の道行きのパフォーマンスを例にとりながら、新しいメディアと既存の文化との関係について考察します。これまでの授業について振り返り、ポイントを整理します。その上で、講義全体を振り返ったレポートを書いてもらいます。</p>	東 晴美 東 晴美 東 晴美
科目の目的	<p>この授業では、オペラ、歌舞伎から現代演劇までを含む舞台芸術を例にとり、芸術について学びます。</p> <p>まず、他の芸術と異なる舞台芸術ならではの特色について、西洋舞台芸術の歴史を通して考えます。</p> <p>次に、西洋とは異なる独自の発展をとげた日本の舞台芸術を概観します。また、難解だと思われるがちな古典芸能の鑑賞のポイントも紹介します。</p> <p>最後に、漫画、アニメ、ゲーム、ミュージカルなどの現代の表象文化を、芸術の視点から考察します。</p> <p>これまでに舞台芸術が扱ってきたテーマを通して、人と社会に深い関心を持って、社会人としての教養を身につけます。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】</p>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台芸術を例に、芸術学の基本を学ぶ。 ・日本の芸能の特色を学ぶ。また、伝統芸能は、江戸時代以前の文化でありながら、近代以降も同時代の文化の影響も受けていることを理解する。 ・現代のメディアに、伝統的なコンテンツがどのように取り入れられているかを学ぶ。 ・舞台芸術が扱っているテーマを通して、人と社会に深い関心を持つ力を身につける。 	
関連科目	社会学	
成績評価方法・基準	授業中の小テスト（2回）各20%、期末教場レポート20%、授業中リアクションペーパー40%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	新聞、雑誌、テレビなどで紹介される舞台芸術や芸能に関する情報に関心を持つことがのぞましい。授業中のアンケートや授業後のレポートを提出に備えて1時間程度の学習をすることが望ましい。	
教科書・参考書	webポータルシステムにて講義資料をデータで配布(授業日前にデータを掲載、授業終了後1週間はダウンロード可)	
オフィス・アワー	木曜日 12:30～13:00	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	各テーマと、自分が現在関心をもっていることと関連づけながら学ぶことを求めます。	
アクティブ・ラーニングの実施	発見学習（教員が示した芸術の事例をもとに、自分が親しんでいる芸術ジャンルの特色を発見し考察する）	

講義科目名称： 法学(日本国憲法含む)

授業コード： 1S011

英文科目名称： Law(the Constitution of Japan)

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
道下 洋夫			

授業形態	講義形式にて行なう		担当者
授業計画	第1回	法とは何か なぜ法を学ぶのか、法とは何かについて様々な角度から考える	道下 洋夫
	第2回	法と社会・法の種類 法と社会との関わりあい方、法と医療の関わり合い方について理解する	道下 洋夫
	第3回	日本の法システム 日本の法令にはどのようなものがあるか、どのような性質を持つかについて理解する	道下 洋夫
	第4回	日本の司法制度 法的責任、訴訟事件にはどのようなものがあるかについて理解する	道下 洋夫
	第5回	憲法1 憲法の基本理念及び構造について理解する	道下 洋夫
	第6回	憲法2 基本的人権（平等権、受益権、平和的生存権）について理解する	道下 洋夫
	第7回	憲法3 基本的人権（自由権、社会権、包括的基本権）について理解する	道下 洋夫
	第8回	憲法4 統治機構（三権分立、地方自治）について理解する	道下 洋夫
	第9回	民法1 私法とは何か、債権債務とは何か、契約とは何かについて理解する	道下 洋夫
	第10回	民法2 不法行為など契約外の債権について、及び債権の一般的な規則について理解する	道下 洋夫
	第11回	民法3 物権とは何か、担保とは何かについて理解する	道下 洋夫
	第12回	民法4 行為能力、時効など民法の一般的な規則について理解する	道下 洋夫
	第13回	刑法1 刑法の基本原理について理解する	道下 洋夫
	第14回	刑法2 個々の犯罪、および特別法について理解する	道下 洋夫
	第15回	刑法3 構成要件、違法性、責任とは何かについて理解する	道下 洋夫
科目の目的	日本は、法治国家である。法治国家においては、法令が社会の仕組みを規定しており、その実施こそが社会を動かしているといつて過言ではない。したがって、諸君がこれから社会人として羽ばたいていくということは、いかに細かい法令であろうと「知りませんでした」では済まされない世界に飛び込んでいくということでもある。法学を学ぶ意義はここにこそある。【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・憲法を中心とした日本の法システムの概要について理解する。 ・憲法、民法、刑法を通じて実際の法規定を概観する。 ・社会人として生きていくのに必要な法知識を習得するだけでなく、2年生以降の専門領域における各種医療関係法規・医療倫理の学習へつなげる。 		
関連科目	社会福祉制度・関連法規、生命倫理		
成績評価方法・基準	定期試験(100%)		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	前回講義で扱った内容について目を通しておくこと(90分程度)。		
教科書・参考書	教科書：特にないが適宜、資料・法令を配布するので、各自事前に印刷して用意すること。		
オフィス・アワー	質問等があれば、講義中あるいは講義後に受け付ける。		
国家試験出題基準			
履修条件・履修上の注意	2年生以降の各種医療関係法規や社会保障制度の学習の前提となる。ただし、習得すべき知識量が極めて多いことに留意すること。		
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
坂本 祐子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 家族をとらえる（1） 近代家族の基本概念 近代家族の特徴 近代家族の誕生 家族とはなにか あなたが考える家族とは①（小レポート）</p> <p>第2回 家族をとらえる（2） 家族の変動 家族と世帯 世帯の動向 家族周期</p> <p>第3回 家族の機能（1） 近代家族が担ってきた基本機能=生活保障</p> <p>第4回 家族の機能（2） 生産機能 消費機能 社会的・個人的機能</p> <p>第5回 家族のつながり（1） 家族のつながりの変化と現状 家族行動の個別化</p> <p>第6回 家族のつながり（2） 家族のつながりの変化による影響 子育て負担の偏り</p> <p>第7回 家族をめぐる制度 “夫婦別姓”とはどういう問題か あなたが考える家族とは（小レポート）</p> <p>第8回 家庭経済（1） 家庭経済内部の4つの活動とその循環（小レポートのフィードバック含む）</p> <p>第9回 家庭経済（2） 生活とお金 ワーキングプア</p> <p>第10回 性別役割分業（1） 性別役割分業の始まり</p> <p>第11回 性別役割分業（2） 社会保障とジェンダー</p> <p>第12回 ワーク・ライフ・バランス（1） ワーク・ライフ・バランス 働く人の生活への配慮</p> <p>第13回 ワーク・ライフ・バランス（2） 家庭責任をもつ人の仕事への支援</p> <p>第14回 ワーク・ライフ・バランス（3） 看護職としての成長と私生活の運営・充実 求められる家族への支援とは何か</p> <p>第15回 ふりかえり 家族とは 「家族」の存在や意味・社会のあり方</p>	坂本 祐子 坂本 祐子 坂本 祐子 坂本 祐子 坂本 祐子 坂本 祐子 坂本 祐子 坂本 祐子 坂本 祐子 坂本 祐子 坂本 祐子 坂本 祐子 坂本 祐子 坂本 祐子 坂本 祐子 坂本 祐子
科目の目的	<p>学生は皆、家族関係の中にあり、今後その多くは自ら新しい家族を形成していく。また、保健医療サービスの対象者の多くは家族関係の中にあり、サービス提供にあたっては、その人だけでなく、家族や家族関係をも対象とすることが必須である。この科目は、職業人、生活者、市民としての家族に関する見識と“家族する力”の養成と、家族を踏まえた適切な保健医療サービスの提供を可能にする知識の形成を目的とする。</p> <p>【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】</p>	
到達目標	<p>1. 近代家族の特徴、家族機能など、家族を理解し、考察し、ひいては将来サービス対象とするための基本的な概念を習得する</p> <p>2. 自分と定位家族、自らが将来つくるかもしれない家族、そこにおける家庭生活、家庭生活と職業生活のバランス等についてより具体的に考えられるようになる</p> <p>3. サービス対象者が家族関係の中にあることや、当事者だけでなく家族関係もサービス対象となることが認識できる</p>	
関連科目	<p>法学（日本国憲法含む） 生命倫理、人間と宗教、生活文化と医療、経済学、人工知能・ロボットと社会、人間関係・コミュニケーション論、地域ボランティア活動論、大学の学び入門、大学の学び一専門への誘い、多職種理解と連携</p>	
成績評価方法・基準	<p>講義時間内に、何度か小レポートを実施（次回講義以降に返却）。定期試験70%・小レポート30%</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>Active Academyにより資料を配布するので、資料内の不明な用語等を調べてくること。また、前回講義の重要事項を見直しておくこと。日頃から新聞に目を通すことを習慣にし、1週間で4時間半以上を自己学習に必要な時間の目安とする。</p>	
教科書・参考書	<p>使用しない</p>	
オフィス・アワー	<p>授業の前後（場所：非常勤講師室）</p>	
国家試験出題基準		

履修条件・履修上の注意	Active Academyにより資料を配布するので（前回講義翌日から当該日まで）、各自講義中に使用できるように準備しておくこと。
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
鈴木 英恵			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 オリエンテーション 本講義の目的と到達目標、授業の進め方（第1回から第15回までの講義内容の簡単な説明）についてお話をします。	鈴木 英恵
	第2回 患者にとってのお守り 病院内と病院外（訪問看護・在宅看護）を対象に、医療従事者である臨床看護師、在宅看護師が経験あるいは見聞した患者とお守りのエピソードを紹介し、患者にとってのお守りとはどのようなものか、その特徴について考えてみます。	鈴木 英恵
	第3回 死生観について 人は皆、それぞれ死生観を持っています。ここでは死生観とは何か、を考える時間を設けます。授業の後半部でGWのレポート課題「死生観」の説明をします。あわせてレポートの書き方、文章の組み立て等のお話をします。	鈴木 英恵
	第4回 名づけとキラキラネーム 現代社会では、読み方が困難な子どもが増えてきています。これをキラキラネームと呼びます。医療現場や実生活において、読むのが難しいキラキラネームは問題になっているようです。ここでは伝統的な名づけの方法と、現代におけるキラキラネームの命名方法の特徴を考えます。	鈴木 英恵
	第5回 道祖神と民間信仰 路傍に佇む地蔵、道祖神などの石仏は、人びとの信仰対象（主に病気治癒や旅の神等）として古くから造立されてきました。ここでは近世後期に盛んに造られた道祖神を取り上げ、その信仰内容を説明します。あわせて、現代社会における道祖神の役割も考えてみます。	鈴木 英恵
	第6回 医療民俗学とは？！ 医療民俗学が対象とするのは、世間の人びとが日々の生活の中で経験し、知識として実践してきた医療習俗です。ここでは、医療民俗学の創設と医療習俗の対象となるもののお話をします。	鈴木 英恵
	第7回 医療民俗学にみる年中行事の役割 日本では、それぞれ季節の節目に病魔や災厄を払う年中行事が存在します。ここでは年中行事の意味を考えながら、病い除ける行事や祭りをみていきます。	鈴木 英恵
	第8回 映像鑑賞 盲目の旅芸人瞽女 かつて、越後や北陸地方の村々をめぐる盲目の女性、瞽女さんがいました。幼いころに目を患うと自立した生活を送るために、幼少時から師匠に付いて三味線と唄の技術を身につけました。ここでは、瞽女さんの生活様式をみていきましょう。	鈴木 英恵
	第9回 いのち観と人生儀礼 授業の前半部では、テキストを中心にいのちの捉え方を『徒然草』、熊野観心十界曼荼羅図から人の一生のあり方を考えます。授業の後半部では、人の「いのち」についてじっくり考える時間を持ちます。テキストの内容をもとに、赤子の出生における誕生儀礼を中心にお話をします。	鈴木 英恵
	第10回 課題レポートの説明 本講義では、「生活文化と医療」をテーマにしたレポート課題があります。ここでは、ていねいにレポートの書き方の説明をします。近い将来、皆さんは医療従事者として患者やその家族と接する機会があると考えます。レポートでは、皆さん自身の生活に目を向けてもらい、医療に関連する事柄をまとめてもらいます。	鈴木 英恵
	第11回 病気をめぐる民俗 テキストを中心にお見舞いの品やカレンダーの暦と病気の関係など、病気をめぐる治癒祈願の方法を理解します。あわせて、看取りと臨終についても取り上げます。	鈴木 英恵
	第12回 一日の時間にみる民俗 テキストを中心に、夜の民俗の意味について考えます。また一日の時間、朝・昼・晩の時間の使い方を皆さん自身にも考えてもらいます。また、高齢女性の暮らしを例に、一日の時間の使い方についてみていきます。	鈴木 英恵

	第13回	ものに宿る靈魂 普段私たちが何気なく使うもの、たとえば食事で使う箸にはその人自身の靈魂が宿るといわれています。テキストの内容を中心に、ものに宿る靈魂観とは何かを考えてみます。	鈴木 英恵
	第14回	長寿祝いと老人観 テキストから全国各地の長寿祝いの方法を学びます。高齢化社会を象徴する儀礼の特徴をみていきます。老いと福祉に関する回想法についても理解します。	鈴木 英恵
	第15回	まとめ（看取りと先祖供養） 死の儀礼と伝統的な葬送習俗について、テキストを中心に考えます。ここでは供養とは何かを考え、故人を偲ぶ方法と供養をみていきます。	鈴木 英恵
科目の目的	本講義では、現代医療以前の伝統的な医療習俗を取り上げます。具体的にいうと、伝統的な医療習俗とは民間に伝承する病気の捉え方、治癒の方法など、いわゆる民間療法が対象となります。民間療法は、医師や医療従事者より古くから存在し、私たちの生活に根付いてきました。民間療法の一つに伝統的な医療体系があります。医療技術は日々進歩し病院では科学的な医療が施されますが、その一方で、人は重い病気や完治の困難な病気を抱えると、お守り、お札（護符）など神仏の力に頼り、それらを心の拠り所にしようとします。このように、よりよい健康状態を求めようとする人びとの心意も、伝統的な医療習俗に属します。地域医療の対象となる人びとが病いをどのように考え、日々どのように過ごしているのかを考えていきます。本講義とおし、現代を生きている人びとの生活から医療との接点を実感し、患者やその家族の精神的な面を考慮できる保健医療従事者になることを目的とします。 【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】		
到達目標	現代医療に通じる伝統的な医療習俗を学ぶことは、いまの生活の質を向上させる可能性を持っています。今後、医療従事者を目指す皆さんは赤子から高齢者まで、さまざまな世代の患者やその家族と接するときがきます。伝統的な医療習俗や地域医療の対象となる人びとの生活文化を、知識として有していれば、患者らとの円滑なコミュニケーションを取ることが期待できます。本講義では、「死生観」と「生活文化と医療」に関するレポート課題がありますが、履修者の課題に対する取り組みへの姿勢とその内容を鑑み、成績に反映させます。レポート課題を達成した後、履修者が獲得できる能力は①患者の視点に立って物事をみる力を養うこと、②患者やその家族らの心の動きが理解できることの2点と考えます。医療技術のみならず、患者らの気持ちに寄り添えるような保健医療従事者となる能力の獲得を目標とします。		
関連科目	生命倫理、家族社会学		
成績評価方法・基準	死生観に関するレポート課題（40%）、生活文化と医療に関するレポート課題（40%）、講義内容について理解できているのかを測るミニテスト（20%）を実施します。 2つレポート課題（死生観に課するレポート及び、生活文化医療に関するレポート）の提出は必須です。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	自分の日常生活から、医療や看護、病気などに関連すること（衣食住の面から病気にならないために気を付けていること、病気を治すための治癒祈願、病気にならないように日々心掛けていること、健康維持の方法など）に興味を持ってください。そして日常生活の中から、本講義の名称「生活文化と医療」に関するキーワードを自分で探し出してみてください。講義内で皆さんが考えるキーワードについても、触れていきたいと考えます。人は生きている限り、常に病いと向き合っている生きていきます。皆さんは、自分の身体が体調が悪いとき、あるいは病気や怪我をしたとき、どのような行動をして健康な身体を取り戻すでしょうか。自分自身を含み、身近な人たち（父母、祖父母、友人、知人など）は如何にして病いと向き合い、正常な身体を取り戻しているのかを考えてみましょう。私たちの日常生活を注意深く観察することで、医療との接点を発見しそれに結びつく課題の獲得ができます。それら課題（疑問点）の意味をひとつずついねいに考えることで、「なぜ」という疑問を解決することができます。授業前までに、90分ほど時間をかけてテキストをじっくり読み、授業内容と合わせて自分なりの考えをまとめてみてください。		
教科書・参考書	教科書：『叢書・いのちの民俗学3 生死 看取りと臨終の民俗 ゆらぐ伝統的生命観』 板橋春夫（2019 社会評論社） 参考書1：『図解案内 日本の民俗』 福田アジオ・内山大介・小林光一郎・鈴木英恵・萩谷良太・吉村風編（2019 吉川弘文館） 参考書2：『医療民俗学論』根岸謙之助（1991 雄山閣） 必要に応じて、講義に関する資料を配布します。		
オフィス・アワー	授業の前後（場所：非常勤講師室）		
国家試験出題基準			
履修条件・履修上の注意			
アクティブ・ラーニングの実施	講義では、履修者の能動的な学習への参加を取り入れたアクティブ・ラーニングを行います。そのため自主的な授業参加をもとめ、think, Pair, Shareを重視します。講義内で生活文化と医療に関連する質問を投げかけますので、それに対する自分の意見を考え（Think）を持ってください。そのあとに、隣・前後の履修者と2～3名（Pair）とその内容について話し合ってください。そして、数名の履修者に質問に対する自分の考えを発表してもらい、全体で共有（Share）します。		

講義科目名称： 経済学

授業コード： 1S014

英文科目名称： Economics

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
飯島 正義			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 経済学で何を学ぶのか 経済学を学ぶことの意義、授業内容と進め方、成績評価等について説明します。	飯島 正義
	第2回 経済学の歩み アダム・スミスからケインズまでの流れを取り上げます。	飯島 正義
	第3回 国民経済の仕組み 経済の3主体（家計・企業・政府）とその関係について説明します。	飯島 正義
	第4回 市場メカニズム 市場メカニズムとは何か、市場メカニズムのメリット・デメリットについて説明します。	飯島 正義
	第5回 政府の役割 市場の失敗の是正について説明します。	飯島 正義
	第6回 景気循環 景気循環とは何か、日本の「景気指標」を読んでいきます。	飯島 正義
	第7回 物価 物価とは何か、物価指数、インフレ・デフレと私たちの生活について説明します。	飯島 正義
	第8回 金融政策と経済の安定化 金利政策、公開市場操作、預金準備率操作、ゼロ金利政策、金融の量的緩和等について説明します。	飯島 正義
	第9回 財政政策と経済の安定化 税制、財政支出、日本の財政状況について説明します。	飯島 正義
	第10回 国内総生産（GDP）（1） 国内総生産とは何か、三面等価の原則について説明します。	飯島 正義
	第11回 国内総生産（GDP）（2） 「国民経済計算」（内閣府）のデータを読んで日本のGDPの状況を確認します。	飯島 正義
	第12回 経済成長 経済成長とは何か、成長の要因、日本の経済成長の推移を確認します。	飯島 正義
	第13回 貿易・国際収支 貿易に関する理論、国際収支とは何か、日本の貿易・国際収支の現状を「国際収支表」で確認します。	飯島 正義
	第14回 為替レート 為替レートとは何か、為替レートの変動と日本経済への影響について説明します。	飯島 正義
	第15回 少子高齢化と日本経済 少子高齢化とは何か、少子高齢化が今後の日本経済にどのような影響を及ぼすのかについて説明します。	飯島 正義
科目の目的	経済学は、私たちの経済生活の中に存在する本質を明らかにすることを目的とした学問です。したがって、経済学を学ぶということは、私たちの経済生活そのものを知ることにつながります。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】	
到達目標	1. 経済学の基礎知識を身につけることができます。 2. 経済学の基礎知識を使って、現実の経済ニュース等を理解できるようになります。	
関連科目	特にありません。	
成績評価方法・基準	授業内における復習プリント40%（3～4回、授業資料参照可）、授業内試験60%で総合的に評価します。 なお、復習プリントのプリントは授業時に回収し、次週返却します。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業資料で前回の授業内容を復習するとともに、次回の授業内容をシラバス、Web上の資料で大筋をつかんでおいて下さい。その際、授業で紹介する参考文献等を利用して2時間復習・予習にあてて下さい。	
教科書・参考書	教科書は使用しません。授業ではWebに添付する授業資料を使います。また、参考書については必要に応じて紹介します。	
オフィス・アワー	授業の前後の時間に講師室で対応します。	
国家試験出題基準	該当しません。	

履修条件・履修上の注意	授業資料をWeb上に添付しますので、各自印刷して持参して下さい。なお、資料の添付期間は前回授業翌日から2週間とします。
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
佐藤 満			

授業形態	講義15回	担当者	
授業計画	第1回	人工知能の定義，ロボットの定義 未来社会に多大な変革をもたらす技術とされる人工知能技術、およびロボット技術の位置づけを類似従来技術との差から考察することで、人工知能、ロボットの技術的特徴を理解する。	佐藤 満
	第2回	人工知能の歴史 これまでの人工知能技術開発の歴史と経過を考察し、その折々での技術水準と技術の限界を確認することで、現在の人工知能技術の到達水準と弱点を理解する。	佐藤 満
	第3回	人工知能の仕組みとその学習方法 人工知能技術の仕組みとしての人工ニューロンのネットワークの概念を理解する。また人工知能に学習させる方法の種類とその特徴について理解する。	佐藤 満
	第4回	身のまわりにある人工知能技術① 我々の日々の暮らしのまわりには、すでに多くの人工知能技術が導入されている。これらの事例に関してグループ単位で割り当てられたキーワードを頼りに自己探索による能動的学習の学習項目を決定する。	佐藤 満
	第5回	身のまわりにある人工知能技術② 人工知能技術の社会応用事例に関してグループ単位で割り当てられたキーワードを頼りに決定した学習項目の資料探索を各自で行い、その成果をサマリーに集約して提出する。	佐藤 満
	第6回	身のまわりにある人工知能技術③ 人工知能技術の社会応用事例に関して個人で学習した成果をグループ内で共有し、必要に応じて不足している学習内容を追加で探索して、グループとしての成果報告居を作成する。	佐藤 満
	第7回	身のまわりにある人工知能技術④ 前回までにグループでまとめた自己探索学習の成果を発表し、討論を経ることで、人工知能の社会応用に関する学習成果へのフィードバックを得る。	佐藤 満
	第8回	人工知能技術と医療① 人工知能技術の応用は、医療とリハビリテーションの分野にも技術的進歩をもたらすと予想されている。これらの事例に関してグループ単位で割り当てられたキーワードを頼りに自己探索による能動的学習の学習項目を決定する。さらに学習項目の資料探索を行い、成果をサマリーに集約する。	佐藤 満
	第9回	人工知能技術と医療② 人工知能技術の医療応用事例に関して学習した成果をグループで共有し、グループとしての成果報告居を作成する。	佐藤 満
	第10回	人工知能技術と医療③ 前回までにグループでまとめた自己探索学習の成果を発表し、討論を経ることで、人工知能の医療応用に関する学習成果へのフィードバックを得る。	佐藤 満
	第11回	ロボットと社会 ロボット技術の応用により、社会のあり方も大きく変化すると予想されている。既に社会に実装されている事例と、研究段階あるいは応用が試みられている事例を概観することで、ロボット技術が近未来社会に与える影響について理解する。	佐藤 満
	第12回	ロボットと医療① ロボット技術の応用は、医療とリハビリテーションの分野にも技術的進歩をもたらすと予想されている。これらの事例に関してグループ単位で割り当てられたキーワードを頼りに自己探索による能動的学習の学習項目を決定する。さらに学習項目の資料探索を行い、成果をサマリーに集約する。	佐藤 満
	第13回	ロボットと医療② ロボット技術の医療応用事例に関して学習した成果をグループで共有し、グループとしての成果報告居を作成する。	佐藤 満

	<p>第14回 ロボットと医療③ 前回までにグループ単位でまとめた自己探索学習の成果を発表し、討論を経ることで、ロボットの医療応用に関する学習成果へのフィードバックを得る。</p> <p>第15回 人工知能とロボットの未来 人工知能やロボット技術が際限なく進歩すると、人間や社会との共存という視点からさまざまな問題が生じると予想されている。それら課題を踏まえて、今後の社会生活と職業領域に与える変化とその対応について検討し理解する。</p>	<p>佐藤 満</p> <p>佐藤 満</p>
科目の目的	<p>本科目はこれからの医療と社会に大きな変革をもたらす人工知能とロボット技術に関して医療人として必要な基礎的知識と教養を身に付けることが目的です。また、主体的に疑問や課題を発見して、主体的に調査や検討を実施する課題解決のプロセスを通して、将来的に人工知能とロボット技術に適切に向き合うことができる能力を身に付けます。以上より、リハビリテーション学部のデュプロマ・ポリシーの「人間や社会に関する幅広い教養に根差し、リハビリテーションを取り巻く諸問題を認識できる能力」および「自己研鑽に励み、人格的成長を目指す姿勢」の獲得を目的とします。【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】</p>	
到達目標	<p>人工知能技術やロボット技術がもつ特色、期待される役割、技術の到達レベルを説明することができる。</p> <p>人工知能技術が医療の進歩や社会の発展に与える効果や影響を説明することができる。</p> <p>ロボット技術が医療の進歩や社会の発展に与える効果や影響を説明することができる。</p> <p>人工知能技術やロボット技術が多大な進歩を遂げた際に生じる課題や問題を説明することができる。</p>	
関連科目	<p>教養科目群・共通基盤科目群：基礎統計学 専門基礎科目群：リハビリテーション概論、リハビリテーション医学</p>	
成績評価方法・基準	<p>成績は講義内で作成する課題（60%）と定期試験（40%）にて評価します。定期試験の出題範囲は全ての講義で扱った内容とし、講義資料だけでなく講義で言及した内容を含めます。講義内で作成する課題は講義中に発表します。その際に課題へのフィードバックを行います。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>事前にシラバスの講義内容に目を通し、関連する単語や概念について調べてください。講義中に十分理解できなかった内容については、講義後に調べて、それでも解決しなかった際にはメールで質問してください。予習と復習を合わせて1講義につき1時間の時間を掛けることが望ましいです。</p>	
教科書・参考書	<p>【教科書】 指定しません。 【参考書】 講義の中で紹介します。</p>	
オフィス・アワー	<p>日時: 講義日の17:50~18:20 場所: 1号館6階611研究室</p>	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	<p>講義開始前までに講義資料を配布する。</p>	
アクティブ・ラーニングの実施	<p>グループによる自己探索型学習を実施（3回）。</p>	

講義科目名称： 環境学

授業コード： 1S018

英文科目名称： Environmental Studies

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
西菌 大実			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 環境とは 環境問題の範囲と背景、SDGs 第2回 地球の環境の構造 地球の自然の成り立ち 第3回 生活を支える資源と持続可能社会 再生可能資源と再生不能資源、持続可能性とは 第4回 環境問題の変遷 公害問題から地球環境問題へ 第5回 典型七公害 大気・水・土壌の汚染、足尾鉍毒、四大公害病 第6回 有害物質による環境汚染 イタイイタイ病を事例として 第7回 水質汚濁（Ⅰ） 水質汚濁の原因、生活排水、BOD 第8回 水質汚濁（Ⅱ） 水質汚濁の対策、下水道と浄化槽、多自然川づくり 第9回 気候変動（Ⅰ） 気候変動の具体的な影響、豪雨・熱中症・感染症等の増加 第10回 気候変動（Ⅱ） 温室効果ガス、気候変動の状況と将来予測 第11回 気候変動（Ⅲ） 予防原則、先進国・途上国の責任、パリ協定 第12回 エネルギー問題と低炭素社会への流れ 1次エネルギー、再生可能エネルギー 第13回 廃棄物問題と循環型社会への流れ 一般廃棄物・産業廃棄物・感染性廃棄物と3R 第14回 低炭素社会と循環型社会の融合 再生可能エネルギー・再生可能資源を中心とした社会づくり 第15回 持続可能社会の構築をめざして 低炭素社会と循環型社会を具体化した未来社会の在り方を考える	西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実
科目の目的	環境問題への認識は、現代社会を生きていくために不可欠の要素である。また、疾病の発症するバックグラウンドとして、その時代の環境が色濃く反映している。環境理解を深めることによって、社会人としてよりよく生き、適切な保健医療サービスを提供できるようになることを目指す。 【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	1. 環境問題の背景と発生原因を理解する 2. 公害問題、地球環境問題とその対策の考え方を理解する 3. 資源・エネルギーの適切な利用と低炭素社会・循環型社会・持続可能社会構築への認識を持つ	
関連科目	特になし	
成績評価方法・基準	定期試験（100%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義資料をもとに授業該当箇所の予習・復習（自筆ノートの整備）を行う。準備学習に必要な学習時間の目安は1コマ当たり4時間。	
教科書・参考書	使用しない（プリント配布）	
オフィス・アワー	授業の前後・非常勤講師室	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	特になし	
アクティブ・ラーニングの実施	教室内でのグループ・ディスカッション	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
佐藤 久美子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 ヒトへの進化 生命を支える物質 (1) ①生命の誕生と進化、ヒトへの進化について概説 ②生命現象の普遍的な特質、一様性、多様性、連続性について ③生命活動に主要な役割を持つ構成成分(1) ・水の重要性 ・タンパク質	佐藤久美子
	第2回 生命を支える物質 (2) 生命活動に主要な役割を持つ構成成分(2) ・炭水化物 (糖質) ・脂質 ・核酸 ・無機質 (無機塩類)	佐藤久美子
	第2回・3回 生命の単位 ①ウイルス、原核細胞 (細菌類を含む)、真核細胞 ②真核細胞の構造と機能 ・細胞膜の構造と機能 ・細胞質基質の役割 ・核の構造と機能 ・粗面小胞体の構造と機能 ・滑面小胞体の構造と機能 ・ゴルジ体の構造と機能 ・リソソーム ・ペルオキシソーム ・ミトコンドリア ・色素体 ・細胞骨格の種類とその役割	佐藤久美子
	第4回・5回 細胞の増殖・生殖細胞の形成 ①細胞周期 ②間期 (S期、G2期、G1期) ③細胞周期の調節 ④分裂期 (M期) ・体細胞分裂～染色体の構造、娘細胞への染色体 (遺伝子) の分配～ ・減数分裂～生殖細胞の形成、配偶子の形成～	佐藤久美子
	第6・7回 受精、発生、分化 ①無性生殖と有性生殖 ②受精 ③発生と分化のしくみ 卵割と胞胚形成、遺伝子の働き ④胚葉形成 (中期胞胚変 (遷) 移と母性胚性変 (遷) 移) ⑤器官形成 ⑥形態形成とアポトーシス	佐藤久美子
	第8回 ヒトの染色体と遺伝子、メンデルの法則と形質の遺伝 ①ヒトの染色体と遺伝子 ②メンデルの法則と形質の遺伝 ③A B O血液型の遺伝 ④家系図の書き方 ⑤遺伝病の原因———遺伝子変異	佐藤久美子
科目の目的	基礎生物学 (前期)、生物学 (後期) では、高等学校「生物基礎」履修済みを前提に、医療系専門職の専門課程の学習を理解するために必要な生命現象の基礎知識を深めることを目的とする。特に基礎生物学では生体を構成する基本単位である細胞について、その構造と機能、細胞の増殖と生殖細胞の形成などを学び、さらに生命の連続性を担保する受精、発生、形質の遺伝について知識を深めることを目的とする。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】	
到達目標	ヒトの生命活動の全体像を理解するために次の事項を理解し、説明できる力を身につける。 ①生命の起源からヒトへの進化、生命現象の特質について理解する。 ②細胞構成成分である水の重要性を理解し、タンパク質、糖、脂質、核酸、無機質について説明できる。 ③細胞の構造、細胞構成成分、細胞内小器官の働きや仕組みを理解する。 ④細胞の周期とその調節、体細胞分裂と減数分裂を図示して詳細に説明できる。 ⑤生殖、発生、分化のしくみ、形態形成とアポトーシスについて理解する。 ⑥ヒトの染色体と遺伝子、メンデルの法則とヒト正常形質の遺伝について説明できる。	
関連科目	化学、解剖学 I、生理学 I、生化学	
成績評価方法・基準	定期試験の成績 (75%) 及び講義終了時に提出するリアクションペーパー (25%) により評価する。	

準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回ともシラバスの講義内容に一致する高等学校生物の教科書または補助教材を1時間程度復習しておくこと。特に、授業範囲の専門用語についてはわからないときには生物学事典（岩波書店、東京化学同人社など）で調べ、理解しておくこと。
教科書・参考書	教科書：「人の生命科学」 佐々木史江、堀口 毅、岸 邦和、西川純雄（医歯薬出版株式会社） 参考書：1. 「Essential細胞生物学原書第4版」中村桂子、松原謙一 監訳（南工堂） 2. アメリカ版「大学生物学の教科書1巻～3巻」 D. サダヴァ他著 ブルーバックス（講談社） 3. 「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」 和田 勝（羊土社）
オフィス・アワー	授業終了後に教室で、または随時e-mailで質問を受ける。
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	講義資料は事前に（4～5日前）アップロードするので、予め印刷して目を通し、当日持参すること。生物学全般、特に生命活動を支えるエネルギーの産生や生物学分野の基礎研究が医療に生かされている現状、ヒトの遺伝などを理解するために、後期に開講される生物学を併せて履修することが望ましい。
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし。

講義科目名称： 基礎数学

授業コード： 1S021

英文科目名称： Basic Mathematics

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
井上 浩一			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 数と式 多項式の四則演算を復習する。日常で数や式を操作するセンスを伸ばすことを促す。	井上 浩一
	第2回 方程式と不等式 1次不等式、2次方程式の復習をする。日常や医療の場でもそのセンスを役立てることを促す。	井上 浩一
	第3回 2次関数 関数とグラフの概念を復習する。 関数の最大・最小の求め方を整理する。 2次関数のグラフと2次方程式・2次不等式の関係。 生活の中で数量的なセンスを発揮することを促す。	井上 浩一
	第4回 図形と計量 三角比、正弦定理と余弦定理、図形の計量に関して復習する。 生活の中でそのセンスを磨くことを考える。	井上 浩一
	第5回 個数の処理 集合とその要素の個数、場合の数、順列、組み合わせ・二項定理の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを促す。	井上 浩一
	第6回 確率 事象と確率、確率の性質、反復試行の確率、期待値の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを考える。	井上 浩一
	第7回 論理と命題 命題と条件、必要条件、十分条件、逆、裏、対偶の復習。生活や医療の場で論理的なものごとをとらえるセンスを磨くことを促す。	井上 浩一
	第8回 基礎統計学 資料の整理を復習し、データの特徴的な値を求める。	井上 浩一
科目の目的	高校数学の基礎を復習し、数学の各分野の概念を再確認し、それを医療を含む生活での現象に結びつけて応用するセンスと技能を伸ばし、将来、医療従事者として数理現象を見出し、定量的に表現し、その上で分析、評価するための基礎的な能力を磨く。具体的には、数と式、方程式と不等式、二次関数、図形と計量、場合の数と確率、論理と命題、基礎統計学について学ぶ。【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	1. 基礎的な数学の概念の復習をする。 2. 数学の概念や道具を自力で扱えるようにする。 3. 定量的なものごとを評価するセンスを磨く。	
関連科目	基礎統計学, 基礎物理学, 物理学, 基礎化学, 化学	
成績評価方法・基準	筆記試験(90%) + 小テスト(10%) なお、社会情勢に応じて、筆記試験の代わりにレポート試験をすることもありうる。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	・高校数学の教科書の相当部分を読んでおく。(30分程度) ・プリントや問題集の問題を解く。(90分程度)	
教科書・参考書	教科書・参考書：特になし。 毎回、講義内容のプリントをActive Academyで配布する。 配布期間：前回授業翌日から当該日まで 持参方法：各自印刷して授業に持参すること	
オフィス・アワー	授業前後の休憩時間	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	実施しない	

講義科目名称： 基礎統計学

授業コード： 1S022

英文科目名称： Basic Statistics

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
井上 浩一			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 オリエンテーションおよび高校数学 授業の内容・進め方、成績評価の仕方を説明した後、講義に必要な高校数学(微分・積分など)を復習する。	井上浩一
	第2回 確率分布 確率変数および確率分布の概念を学び、離散型確率変数の基本事項(期待値、分散など)を学ぶ。	井上浩一
	第3回 代表的な確率分布(1) 代表的な離散型確率分布である二項分布を学ぶ。	井上浩一
	第4回 代表的な確率分布(2) 連続型確率変数の基本事項(期待値、分散など)を学び、とりわけ正規分布を学ぶ。	井上浩一
	第5回 相関 2変数データを散布図にまとめて、その分布を視覚的に把握する方法を学ぶ。	井上浩一
	第6回 標本調査 母集団の特徴を表す母平均・母分散、また基本的な統計量である標本平均とその分布を学ぶ。	井上浩一
	第7回 推定 母集団のある値を、標本のデータから推定する方法を学ぶ。	井上浩一
	第8回 検定 母集団についてのある仮説が、標本のデータに基づいて、その仮説を否定できるかどうかを判定する方法を学ぶ。	井上浩一
科目の目的	データを処理する上で必要となる統計的な見方・考え方および手法を学び、将来、仕事などで統計を用いる際の土台をつくる。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	1. 確率分布の概念を理解し、その特徴を表す値(期待値、分散など)を求めることができる。 2. データの相関を把握し、それらを的確に表現することができる。 3. 推定・検定の意味を理解して、母集団の考察に活用できる。	
関連科目	基礎数学、データサイエンス入門	
成績評価方法・基準	筆記試験(90%) + 小テスト(10%) なお、社会情勢に応じて、筆記試験の代わりにレポート試験をすることもありうる。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習：授業前に配布したプリントに目を通しておく。(30分程度) 復習：教科書または参考書の演習問題を解いてみる。(90分程度)	
教科書・参考書	教科書：「Excelによるメディカル/コ・メディカル統計入門」勝野恵子・井川俊彦(共立出版) 参考書1：「はじめての統計学」道家暎幸・伊藤真吾・宮崎直・酒井祐貴子(コロナ社) 参考書2：高校数学Bの教科書	
オフィス・アワー	授業前後の休憩時間	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	○履修条件 講義「基礎数学」も履修することが望ましい。 ○履修上の注意 教科書の第3章から始めて、目次通りに授業を進めるが、時間の制約上、すべてを網羅できないことをご了承していただきたい。なお、第1、2章の内容は講義「基礎数学」に含まれています。 また、講義内容をまとめたプリントをActive Academyに登録しておくので、講義日までに各自でダウンロードしておいてください。	
アクティブ・ラーニングの実施	実施しない	

講義科目名称：基礎化学

授業コード：1S023

英文科目名称：Basic Chemistry

対象カリキュラム：2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
日置 英彰			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 化学の立場から医療を考える 歴史的に重要な化学物質を取り上げて、化学物質がどのように医療に貢献してきたか考える。	日置 英彰
	第2回 物質の成り立ち 物質を構成している分子と原子の構造、原子軌道、分子軌道について解説する。	日置 英彰
	第3回 元素と周期表 自然にはどのような元素があるのか、元素の分類と周期表の読み方について解説する。	日置 英彰
	第4回 イオン イオンとイオン結合の原理、生体内でのイオンの役割について解説する。	日置 英彰
	第5回 共有結合化合物と有機分子 生体を構成している物質のほとんどは有機分子である。有機分子の結合様式、特異な形、一般的な性質について解説する。	日置 英彰
	第6回 水の性質と物質の状態変化 ヒトの体の半分以上を占める水の性質と物質の三態（気体、液体、固体）について解説する。	日置 英彰
	第7回 物質の変化における速度論と平衡論 物質の変化は、速度論と平衡論の両面から考察する必要がある。これらについて概説する。	日置 英彰
	第8回 放射線と放射能 放射性崩壊と半減期、医療における放射性同位体の利用について解説する。	日置 英彰
科目の目的	地球上に生きるすべての生命を持つものを物質から見れば、巨視的に見えるものから究極を突き詰めれば見えないものは原子や分子の世界まで行きつくことになる。本科目では、物質の科学であると言われる化学について、物質についての基本的な事項を高校化学の基礎にさかのぼり学び、専門課程の理解のための基礎的知識を身につけることを目的とする。 【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	専門課程で学習する内容を理解するために、化学分野の基礎的知識を習得する。	
関連科目	生化学	
成績評価方法・基準	試験（80%）、毎講義ごとのリアクションペーパー（Active Academyのアンケート機能を利用）の提出（20%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習は必要ないが、毎回の講義の理解度を確認するために、各講義ごとに出席されるチェックテストを活用して復習してください。準備学習時間の目安：1時間	
教科書・参考書	教科書：看護系で役立つ化学の基本 有本淳一・西沢いづみ著 化学同人 参考書：特に指定なし	
オフィス・アワー	講義前後の時間	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	特にありません。	
アクティブ・ラーニングの実施	受講内容に関連することで興味を持ったことを積極的に調べるなど、能動的な学習を行ってください。各回ごとに提出するリアクションペーパーにはその内容を記述してください。	

講義科目名称： 化学

授業コード： 1S024

英文科目名称： Chemistry

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
日置 英彰			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 病気と関わる化学物質 くすりは体の中でどのように作用するのか概説しながら、医療と化学がどのように関わっているのか考える。	日置 英彰
	第2回 生体内ではたらく有機化合物 ホルモンや神経伝達物質をはじめ多くの有機化合物が生命活動を維持する上で重要な役割を果たしている。これら有機化合物の性質を官能基別に解説する。	日置 英彰
	第3回 酸と塩基 酸、塩基、緩衝液について解説する。	日置 英彰
	第4回 酸化と還元 物質の酸化と還元、生体内での酸化還元反応について解説する。	日置 英彰
	第5回 生体高分子 糖、タンパク質、核酸の化学構造とその性質について解説する。	日置 英彰
	第6回 触媒と酵素 生体内の化学反応は酵素が触媒している。化学反応における触媒の役割、酵素の構造と触媒作用について解説する。	日置 英彰
	第7回 合成高分子 医療材料には多くの高分子素材が使われている。各種高分子の性質と医療材料への応用について解説する	日置 英彰
	第8回 拡散と浸透現象 細胞への物質の出入りや人工透析などを考える上で重要な拡散と浸透現象原理について解説する。	日置 英彰
科目の目的	医療と化学の関係は深い。生命活動自身が秩序だった化学反応であり、医薬品、医用材料、臨床検査薬等を扱うには化学的な見方・考え方は重要である。本講義ではその基本的知識を習得する。 【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	生体関連物質、医薬品、医用材料など医療に密接に関係している化学物質の性質や反応を理解する。	
関連科目	生化学	
成績評価方法・基準	試験（80%）、毎講義ごとのリアクションペーパー（Active Academyのアンケート機能を利用）の提出（20%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習は必要ないが、毎回の講義の理解度を確認するために、各講義ごとに出席されるチェックテストを活用して復習してください。準備学習時間の目安：1時間	
教科書・参考書	教科書：看護系で役立つ化学の基本 有本淳一・西沢いづみ著 化学同人 参考書：特になし	
オフィス・アワー	講義前後の時間	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	特にありません。	
アクティブ・ラーニングの実施	受講内容に関連することで興味を持ったことを積極的に調べるなど、能動的な学習を行ってください。各回ごとに提出するリアクションペーパーにはその内容を記述してください。	

講義科目名称： 基礎物理学

授業コード： 1S025

英文科目名称： Basic Physics

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
山崎 真			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 物理量の次元と単位 補助単位、組立単位、同次元の単位の変換。	山崎真
	第2回 静止系 力の釣り合い、モーメントの釣り合い、バネの力	山崎真
	第3回 運動 瞬間の速度、加速度。等速直線運動、等加速度運動。	山崎真
	第4回 運動方程式 1 力学の問題の標準的な手続き。	山崎真
	第5回 運動方程式 2 坂道、バネなどの典型問題。	山崎真
	第6回 仕事とエネルギー 位置エネルギー、運動エネルギー、弾性エネルギー。エネルギー保存則。	山崎真
	第7回 円運動 等速円運動。	山崎真
	第8回 バネと単振動 単振動。	山崎真
科目の目的	高等学校で物理を履修していない学生を想定し、物理の基礎を身につける。 高校物理を履修済みの学生にとっても新たな発見があるよう、別の視点の紹介も行う。 【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	物理学の基礎的な概念を知り、標準的なアプローチを身につけ、物理現象を定量的・定性的に取り扱えるようになる。 分野は概ね初等力学。	
関連科目	物理学	
成績評価方法・基準	定期試験(90%)，講義内レポート(10%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	高校物理教科書や参考書を読んでから講義に臨めばより効果的だが、受講生には予習よりも講義の復習を期待する。前回分の演習問題を解いておくこと。 30分～1時間程度(定期試験前の復習は別)	
教科書・参考書	教科書：自作テキスト	
オフィス・アワー	随時。	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	特になし	
アクティブ・ラーニングの実施	問題解決学修	

講義科目名称： 物理学

授業コード： 1S026

英文科目名称： Physics

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
山崎 真			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 熱現象 1 熱と温度、比熱	山崎真
	第2回 熱現象 2 気体の状態方程式、仕事と熱	山崎真
	第3回 熱現象 3 気体分子運動論	山崎真
	第4回 波動 1 回折、屈折、波の式、干渉	山崎真
	第5回 波動 2 ドップラー効果	山崎真
	第6回 電気の基礎 1 抵抗回路の基礎、電位の概念	山崎真
	第7回 電気の基礎 2 キルヒホッフの法則、電力	山崎真
	第8回 電磁波・放射線 電磁波と各種核崩壊	山崎真
科目の目的	高等学校で物理を履修していない学生を想定し、物理の基礎を身につける。 基礎物理学に続き熱と波動、電気の基礎を学ぶ。 【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間性と倫理観】	
到達目標	物理学の基礎的な概念を知り、標準的なアプローチを身につけ、物理現象を定量的・定性的に取り扱えるようになる。	
関連科目	基礎物理学	
成績評価方法・基準	定期試験(90%)，講義内レポート(10%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	高校物理教科書や参考書を読んでから講義に臨めばより効果的だが、受講生には予習よりも講義の復習を期待する。前回の演習問題を解いておくこと。 30分～1時間程度(定期試験前の復習は別)	
教科書・参考書	教科書：自作テキスト	
オフィス・アワー	随時。	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	基礎物理学も履修しておくことを強く勧める。	
アクティブ・ラーニングの実施	問題解決学修	

講義科目名称： 英語リーディング

授業コード： 1S027

英文科目名称： General English Reading

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
井上まゆみ			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 Introduction、Self Introduction 授業の説明、自己紹介 第2回 Lesson 1 Communication Communicationの持つ力についての会話練習、英文読解。 第3回 Lesson 2 Friendship 様々なfriendshipの形についての会話練習、英文読解。 第4回 Lesson 3 Health Healthに留意することの意義についての会話練習、英文読解。 第5回 Lesson 4 Environment 絶滅危惧種を守るためにすべきことについての会話練習、英文読解。 第6回 Lesson 5 Fashion 着物の変遷に関する会話練習、英文読解。 第7回 Lesson 6 Food 人気のある食べ物についての会話練習、英文読解。 第8回 Lesson 8 Study Abroad 海外留学の意義についての会話練習、英文読解。 第9回 Lesson 9 College Life in the U. S. 日本とアメリカの大学生活の違いについての会話練習、英文読解。 第10回 Lesson 10 Steve Jobs Steve Jobsの生涯に関する会話練習、英文読解。 第11回 Lesson 11 Volunteer Work ボランティア活動の意義に関する会話練習、英文読解。 第12回 Lesson 12 Internship インターンシップの意義に関する会話練習、英文読解。 第13回 Lesson 13 Travel 交通手段の発展の歴史に関する会話練習、英文読解。 第14回 Lesson 14 Culture カルチャーショックに関する会話練習、英文読解。 第15回 Lesson 15 An International World 留学を通して得られたものについての会話練習、英文読解。	井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ
科目の目的	専門分野の英語に取り組むための基礎力、特にリーディング力、リスニング力を養成する。英語を学ぶことを通じて、将来の医療人として人間や社会に対する興味・関心の幅を広げ、関心・興味を持った事柄に関して調べ、自分の考え・意見を持ち、それらを表現する。【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストや各自の力と興味に合わせた本を読むことを通じて、多くの英文に接し、構文を正しく理解し、英文の内容を理解することができる。 ・テキストのトピックについて調べ、自分の考え・意見を持ち、グループやペアでの話し合いを通じて、他者の考え・意見も聞き、最終的に自分の考え・意見をまとめ、表現することができる。 ・テキスト教材の音声聞いて、単語や文章を聴き取り、発音することができる。 ・extensive readingの目標は10,000words。易しい英文を楽しみながら読むことができ、口語表現、日常生活での英語表現が理解できる。 	
関連科目	医療英語会話、医療英語リーディング、英語会話、英語アカデミックリーディング・ライティング	
成績評価方法・基準	定期試験 (60%) 課題(30%) extensive reading(10%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習：次回に学習する範囲の英文を読んで、わからない単語は辞書で調べ、英文の大まかな内容をつかむ。どこがわからないのかを明確にする。exercise等もあらかじめやっておく。 復習：その日に学習したことを整理し、英文を理解する。課題を行う。予習復習合わせて約1時間。 extensive readingについては、目標達成に向けて、各自のペースで計画的に進める。	
教科書・参考書	教科書：Journeys: Communication for the Future 阿野幸一ほか4名 (朝日出版社)	
オフィス・アワー	授業の前後 (場所：非常勤講師室)	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	高校までの基本的英文法は理解しておいてください。	

アクティブ・ラーニングの実施	実施なし
----------------	------

講義科目名称： 医療英語会話

授業コード： 1S028

英文科目名称： Medical English Conversation

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
David Andrews			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 Introduction/Icebreaking イントロダクション、本授業について（シラバスや成績評価方法等）。 初対面で使う表現および授業中よく使われる表現の紹介、練習。	David Andrews
	第2回 Unit 1: Meeting patients	David Andrews
	第3回 Body Partsの小テスト（1） + Unit 2: Taking a medical history	David Andrews
	第4回 Unit 2の小テスト + Unit 3: Assessing symptoms	David Andrews
	第5回 Unit 3の小テスト + Unit 4: Taking vital signs および第1回目のプレゼンテーション準備	David Andrews
	第6回 第1回目のプレゼンテーション + Unit 4: Taking vital signs	David Andrews
	第7回 Unit 4の小テスト + Unit 5: Taking a specimen	David Andrews
	第8回 Unit 5の小テスト + Unit 6: Conducting a medical examination	David Andrews
	第9回 Body Partsの小テスト（2） + Unit 7: Assessing pain	David Andrews
	第10回 Unit 7の小テスト + Unit 8: Advising about medication および第2回目のプレゼンテーション準備	David Andrews
	第11回 第2回目のプレゼンテーション + Unit 8: Advising about medication	David Andrews
	第12回 Unit 8の小テスト + Unit 9: Improving Patients' mobility	David Andrews
	第13回 Unit 9の小テスト + Unit 10: Maintaining a good diet	David Andrews
	第14回 Body Partsの小テスト（3） + Unit 11: Caring for inpatients	David Andrews
	第15回 Unit 12: Coping with emergencies および定期試験（プレゼンテーション）の準備	David Andrews
科目の目的	現在、医療は、間違いなくグローバルな分野であり、「国際語」である英語を通じて様々なアイデアが世界中に共有されている。本授業では、医療分野において必要な医療用語や表現を知識として身に付け、実際の場で使えるように実用的なコミュニケーションスキルを学ぶ。[キーワード：【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】]	
到達目標	医療業界において様々なシチュエーションに対応できるようになる。また、医療業界でよく使われている専門用語や表現等を聞き取り、言えるようになる。	
関連科目	英語会話、医療英語リーディング、英語リーディング、英語アカデミックリーディング・ライティング	
成績評価方法・基準	小テスト（30%）、中間プレゼンテーション（2回；1回目＝15%、2回目＝20%）、定期試験（プレゼンテーション）（35%） 授業中に小テストの結果を毎回確認させ、プレゼンテーションへのフィードバックを口頭で行う。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	復習：前回の授業で学んだことを定着させる。予習：テキストに目を通して、オーディオを聞き、練習問題をやる。学習時間は合わせて1.5時間程度。また、中間プレゼンテーションの準備時間は合わせて4～6時間程度。	
教科書・参考書	教科書：Caring For People	
オフィス・アワー	授業日の昼休み（1号館 ANNEX 6階619研究室）	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	予習は必ずすること。授業に辞書を持ってくる。	
アクティブ・ラーニングの実施	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
井上 まゆみ			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 Introduction Test Your Reading Skill 授業の説明、各自のreading skillのチェック、単語力のチェック。 第2回 Unit 1 How Food Passes Through Our Body topicの英文読解、内容の把握。 第3回 Unit 2 Coping with Cancer topicの英文読解、内容の把握。 第4回 Unit 3 Where Medicine Meets Religion topicの英文読解、内容の把握。 第5回 Unit 4 Before Calling It Malpractice topicの英文読解、内容の把握。 第6回 Unit 5 How Are Drugs Developed? topicの英文読解、内容の把握。 第7回 Unit 6 What Comes First when Helping Others topicの英文読解、内容の把握。 第8回 Unit 7 How to Identify Reliable Health Information topicの英文読解、内容の把握。 第9回 Unit 8 What Is "Upstream" Thinking? topicの英文読解、内容の把握。 第10回 Unit 9 Actions Speaks Louder than Words topicの英文読解、内容の把握。 第11回 Unit 10 Genetic Counseling as an Emerging Field topicの英文読解、内容の把握。 第12回 Unit 11 Can Medical Tourism Be a White Knight? topicの英文読解、内容の把握。 第13回 Unit 12 Hopes in Regenerative Medicine topicの英文読解、内容の把握。 第14回 Unit 13 Traditional Medicine in the Modern World topicの英文読解、内容の把握。 第15回 Unit 14 Japan's Healthcare System Is the Envy of the World Reading Skill のチェック topicの英文読解、内容の把握。各自のreading skillの再チェック。単語力の再 チェック。	井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ
科目の目的	専門分野の英語に取り組むためのリーディング力、リスニング力、表現力の養成と強化。 医療系の基本的英語語彙力と英語表現力の強化。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療全般に関するトピックを読み、構文を正しくとらえ、内容を理解することができる。 ・トピックの内容をまとめ、関連する事柄について、自分の意見・考えを表現できる。 ・テキストの音声聞いて単語や文章を正しく聴き取ることができる。 ・医療の基本的英単語、英語表現を覚え、声に出して読んで書くことができる。 	
関連科目	英語リーディング 医療英語会話 英語会話 英語アカデミックリーディング・ライティング	
成績評価方法・基準	定期試験 (90%) 課題(10%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習：次回に学習する範囲の英文、英単語の音声を聴く。英文を読んで、わからない単語は辞書で調べ、英文のたまかな内容をつかむ。どこがわからないのかを明確にする。 復習：その日に学習したことを整理し、英語構文を理解する。英単語、英語表現は覚え、正しく発音できるように音声教材をよく聴き、また、正しく書けるまで練習する。課題を行う。 予習復習合わせて約1時間。	
教科書・参考書	教科書：Medical World Walkabout 大野直子&ダシルヴァ石田牧子 (成美堂)	
オフィス・アワー	授業の前後 (場所：非常勤講師室)	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	高校までの基本的英文法は理解しておいてください。	
アクティブ・ラー	実施なし	

講義科目名称： 英語会話

授業コード： 1S030

英文科目名称： General English Conversation

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
David Andrews			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 Course introduction/Icebreaking Explanation of the syllabus and grading. Introduction of phrases that will commonly be used in the class.	David Andrews
	第2回 Unit 1: Which do you prefer, dogs or cats? Talking about yourself, your hobbies, and your interests.	David Andrews
	第3回 小テストU1 および Unit 2: Where would you like to visit? Talking about countries and places that interest you.	David Andrews
	第4回 小テストU2 および Unit 3: Let's talk about money Expressing money amounts, dealing with currency exchange, and using an ATM.	David Andrews
	第5回 小テストU3 および Unit 4: Let's go to Hawaii! (part 1) および第1回目のプレゼンテーション準備 Making reservations and checking in to a hotel および各Unitより会話の作成。	David Andrews
	第6回 第1回目のプレゼンテーションおよび Unit 4: Let's go to Hawaii! (part 2) 第1回目のプレゼンテーションおよび Making reservations and checking in to a hotel (continued)	David Andrews
	第7回 小テストU4 および Unit 5: Let's do this! Talking about resort activities and making plans.	David Andrews
	第8回 小テストU5 および Unit 6: How do I get to the Koi Pond? Asking and giving directions.	David Andrews
	第9回 小テストU6 および Unit 7: Where are you headed? Asking for a taxi and making small talk.	David Andrews
	第10回 小テストU7 および Unit 8: Let's take a tour! (part 1) および第2回目のプレゼンテーション準備 Talking about various island tours and activities および各Unitより会話の作成。	David Andrews
	第11回 第2回目のプレゼンテーションおよび Unit 8: Let's take a tour! (part 2) 第2回目のプレゼンテーションおよび Talking about various island tours and activities (continued)	David Andrews
	第12回 小テストU8 および Unit 9: How much is this T-shirt? Going shopping and buying things.	David Andrews
	第13回 小テストU9 および Unit 10: Let's go out to eat! Ordering food at a restaurant.	David Andrews
	第14回 小テストU10 および Unit 11: Lost and Found Describing an item you have lost.	David Andrews
	第15回 Unit 12: How was your vacation? および定期試験 (プレゼンテーション) の準備 Talking about your experiences および各Unitより会話の作成。	David Andrews
科目の目的	本授業では、英語でコミュニケーションをとる際に役立つ用語や表現、異文化に対する寛容さを身に付け、様々な状況や場面で使えるように実用的なコミュニケーションスキルを学ぶ。【キーワード：【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】】	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことや身の回りのことについて英語で伝えることができる。 ・様々な場面において実用的なコミュニケーションスキル(要求、指示など)を習得する。 ・英語圏の文化や風習を理解する。 	
関連科目	医療英語会話、英語リーディング、医療英語リーディング、英語アカデミックリーディング・ライティング	
成績評価方法・基準	小テスト (30%)、中間プレゼンテーション (2回; 1回目=15%、2回目=20%)、定期試験 (プレゼンテーション) (35%) 授業中に小テストの結果を毎回確認させ、プレゼンテーションへのフィードバックを口頭で行う。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	復習：前回の授業で学んだことを定着させる。学習時間は1.5時間程度。また、中間プレゼンテーションの準備時間は合わせて4~6時間程度。	
教科書・参考書	教科書：使用せず 適宜、教材用資料を配布	

オフィス・アワー	授業日の昼休み（1号館 ANNEX 6階619研究室）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	予習は必ずすること。授業に辞書を持ってくる。
アクティブ・ラーニングの実施	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション

講義科目名称： 中国語

授業コード： 1S031

英文科目名称： Chinese

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
深町 悦子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 ガイダンス、中国語とは？ 発音、漢字、声調	深町 悦子
	第2回 中国語の発音のきまり 単母音、複合母音、声調	深町 悦子
	第3回 子音の発音と音節 母音、子音、音節表の読み方	深町 悦子
	第4回 発音のまとめ 自分の名前を中国語で読む練習	深町 悦子
	第5回 第1課の学習 第1課 [私は日本人です] 文法 単語 本文 置換練習	深町 悦子
	第6回 第1課の復習と第2課の学習 第2課 [これは中国語の教科書です] 文法 単語 本文 置換練習	深町 悦子
	第7回 第2課の復習と第3課の学習 第3課 [マクドナルドに行きましょう] 文法 単語 本文 置換練習	深町 悦子
	第8回 発音の総合復習と第1課から第3課までの復習 中間レポート提出	深町 悦子
	第9回 第3課の復習と第4課の学習 第4課 [明日の天気はあまりよくない] 文法 単語 本文 置換練習	深町 悦子
	第10回 第4課の復習と第5課の学習 第5課 [私は今年18歳です] 文法 単語 本文 置換練習	深町 悦子
	第11回 第5課の復習と第6課の学習 第6課 [食堂は図書館のむかいにあります] 文法 単語 本文 置換練習	深町 悦子
	第12回 第6課の復習と第7課の学習 第7課 [私は11時に寝ます] 文法 単語 本文 置換練習	深町 悦子
	第13回 第7課の復習と第8課の学習 第8課 [私は中日辞典を1冊買いに行きたい] 文法 単語 本文 置換練習	深町 悦子
	第14回 第8課の復習と第9課の学習 第9課 [私は本屋でアルバイトをしています] 文法 単語 本文 置換練習 文法 単語 本文 置換練習	深町 悦子
	第15回 第1課から第9課までの復習 総合復習	深町 悦子
科目の目的	現代のグローバル化の社会の中で、一国際人として、多言語ができる人材を育成する。【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	日常生活及び仕事の中で、簡単な会話ができること。	
関連科目	特になし	
成績評価方法・基準	期末に筆記試験を行う。基準は筆記試験が80%、授業内にレポート及び感想文の提出が20%。提出されたレポートについては次回授業内でフィードバックを行う。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業前の予習と授業後の復習をすること。1時限ごとに30分ぐらい必要である。発音の練習は必ずしっかりする事、特に四声については、音声ファイルを聞きながら発声して覚えるように。	

教科書・参考書	教科書：グッと入門中国語 改訂版（金星堂） 参考書：なし
オフィス・アワー	講義の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	教科書の購入が必要である
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
青木 順			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 ハングルの読み方 基本母音 朝鮮半島、ソウル市などを簡単に紹介し、ハングルの由来、構造を簡単に説明。 基本母音10個の読み方、基本母音を含んだ単語、挨拶言葉等を学習する。	青木 順
	第2回 ハングルの読み方 基本子音 基本子音4個の読み方、その基本子音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。 文化として伝統料理を紹介する。	青木 順
	第3回 ハングルの読み方 基本子音 基本子音4個の読み方、その基本子音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。	青木 順
	第4回 ハングルの読み方 激音（濃音と比較しながら） 濃音と比較しながら激音5個の読み方、激音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。 文化として伝統茶を紹介する。	青木 順
	第5回 ハングルの読み方 濃音（激音と比較しながら） 激音と比較しながら濃音5個の読み方、濃音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。	青木 順
	第6回 ハングルの読み方 合成母音 合成母音11個の読み方、合成母音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。	青木 順
	第7回 ハングルの読み方 パッチム パッチムの読み方、パッチムを含んだ単語、挨拶言葉を学習する。 文化として食事のマナー、1歳の誕生日を紹介する。	青木 順
	第8回 「私は青木順です」① サンパッチム、連音の説明、練習を行う。	青木 順
	第9回 「私は青木順です」② 「は」「です」「～と申します」という文法の学習、関連会話文の読み、訳を行う。 文化として伝統家屋、伝統舞踊を紹介する。	青木 順
	第10回 「私は青木順です」のまとめと「何人家族ですか？」① 韓国語での自己紹介を一人一人行う。 関連単語、「ます」「ますか」等の文法の学習と練習を行う。 文化として伝統的結婚式、楽器等を紹介する。	青木 順
	第11回 「何人家族ですか」② 「お～になります」「が」「と」などの文法の学習と練習を行う。	青木 順
	第12回 「何人家族ですか」③ 固有数字、関連会話文の読み、訳、会話練習等を行う。 文化として伝統遊びを紹介する。	青木 順
	第13回 「すみません」① 関連単語、「～してください」、意志を含んだ「ます」等の文法の学習と練習を行う。	青木 順
	第14回 「すみません」② 「いる（いない）」「ある（ない）」の説明と練習。 固有数字を使う助数詞、関連会話文の読み、訳を行う。 文化として伝統刺繍を紹介する。	青木 順
	第15回 「すみません」③とまとめ 会話練習、文法のまとめ、試験問題の説明を行う。	青木 順
科目の目的	グローバルな視点を養い、限定的な場面でのコミュニケーション能力を身に付けることができる。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ハングル文字を正確に読み書きできるようになる。 ・正確な発音をマスターする。 ・挨拶をはじめ、簡単な日常会話を身につける。 	
関連科目	特になし。	
成績評価方法・基準	課題への取り組み（40%）・期末テスト（60%）	

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	授業で学習した内容はその都度復習しておくこと。 外国語の学習は反復・継続することが何より大切なので、毎日10分でもよいので、積極的に取り組むこと。
教科書・参考書	講師作成教材使用予定(コピー)
オフィス・アワー	コリア語の授業のある日12:30~12:50非常勤教員室
国家試験出題基準	特になし。
履修条件・履修上の 注意	講師作成の教材を使用する。 配布期間：前回の授業翌日から当該日まで。 持参方法：各自印刷して授業に持参すること（課題も含まれているため、印刷必須）。
アクティブ・ラー ニングの実施	二人一組で、与えられた課題に取り組む方法をとる。

講義科目名称： ドイツ語

授業コード： 1S033

英文科目名称： German

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
菅谷 優			

授業形態	講義	担当者
授業計画	Lektion1 動詞の現在人称変化1	菅谷 優
	Lektion2 名詞と冠詞の格変化	菅谷 優
	Lektion3 名詞の複数形・人称代名詞	菅谷 優
	Lektion4 動詞の現在人称変化2・命令法	菅谷 優
	Lektion5 定冠詞類・不定冠詞類	菅谷 優
	Lektion6 前置詞	菅谷 優
	Lektion7 話法の助動詞・未来形・非人称動詞	菅谷 優
	Lektion8 分離動詞と非分離動詞・接続詞	菅谷 優
	Lektion9 動詞の三基本形・過去人称変化	菅谷 優
	Lektion10 現在完了・再帰表現	菅谷 優
	Lektion11 形容詞の格変化	菅谷 優
	Lektion12 形容詞と副詞の比較変化・zu不定詞	菅谷 優
	Lektion13 関係代名詞・指示代名詞	菅谷 優
	Lektion14 受動態	菅谷 優
	Lektion15 接続法	菅谷 優
科目の目的	ドイツ語の基礎文法を一巡する。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】	
到達目標	講師のいない独習においても辞書と教科書を用いてドイツ語の文章が理解できるようにする。	
関連科目	健康スポーツ実技 現代文学 英語リーディング 医療英語会話 中国語 コリア語 ポルトガル語 情報処理	
成績評価方法・基準	期末試験100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各文法事項一課につき予習復習込みで二時間	
教科書・参考書	教科書は郁文堂からでているDeutsche Grammatik System und Praxis Leicht ISBN978-4-261-01272-9を使用。辞書は郁文堂：新キャンパス独和辞典978-4-261-07306-5をお買い求めください。参考書として朝日出版社から出ている単語帳：ドイツ語基礎単語帳をお勧めいたします	
オフィス・アワー	授業終了後、教室前、あるいは講師室にて	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし	

講義科目名称：ポルトガル語

授業コード：1S034

英文科目名称：Portuguese

対象カリキュラム：2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
Hilda Harumi Handa			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 Introduction / Apresentacao Explaining how the class will be given, and grades / Explicar como serao as aulas e as notas. Introduction / Apresentacao Explaining how the class will be given, and grades / Explicar como serao as aulas e as notas.	Hilda Harumi Handa
	第2回 Brazil and the other nine countries that speak Portuguese / Brasil e os outros nove paises que falam português. A brief lecture about Brazil and nine other countries whose official language is Portuguese	Hilda Harumi Handa
	第3回 Greetings and Pronouns Greetings / Cumprimentos/Apresentacao Possessive adjectives/pronouns / Pronomes possessivos Saying hello and goodbye / Encontrar-se/despedir-se	Hilda Harumi Handa
	第4回 Alphabet and pronunciation / Alfabeto e pronuncia Syllables / Formacao das silabas Introduction to Portuguese Alphabet	Hilda Harumi Handa
	第5回 Stress / Acentuacao Stress rules Oxitonas/paroxitonas/proparoxitonas Rules for stressing.	Hilda Harumi Handa
	第6回 Nouns / Substantivos Adjectives / Adjetivos We'll talk about kinds of nouns and adjectives.	Hilda Harumi Handa
	第7回 Articles / Artigos definidos/indefinidos Prepositions / Preposicoes Verbs / Verbos Adverbs / Adverbios Nouns / Substantivos Adjectives / Adjetivos Learning about articles, prepositions, verbs, and adverbs.	Hilda Harumi Handa
	第8回 Conjunctions / Conjuncoes Time / Horas Seasons/Weather / Estacoes/climas Class about conjunctions, and how to talk about time and the weather.	Hilda Harumi Handa
	第9回 Cardinal/ordinal numbers / Numeros Cardinais/ordinais Phone / Telefone Email All about numbers.	Hilda Harumi Handa
	第10回 Subject pronoun / Pronomes Pessoais Verb Be I / Verbos ser e estar I More pronouns and the verb Be, that means more than one verb in Portuguese.	Hilda Harumi Handa
	第11回 Verb Be II / Verbos Ser e estar II Continuing with the verb Be.	Hilda Harumi Handa
	第12回 Family / Familia Week/month/year / Semana/meses/ano Colors / Cores Light class about family, dates, and colors.	Hilda Harumi Handa
	第13回 Human Body / Corpo Humano Clothing / Roupas Special class about the human body.	Hilda Harumi Handa
	第14回 Food & Culture / Gastronomia e cultura Let's learn about Brazilian food, and maybe taste some of it.	Hilda Harumi Handa

	第15回 Exam Let's see how much you learned from the previous classes.	Hilda Harumi Handa
科目の目的	<p>ポルトガル語は主にブラジルで話される言語で、1万人以上のブラジル系住民が生活する群馬県内でも接する機会の多い言語です。群馬県内(特に東毛地区)において地域に関わる仕事(例えば、公務員や教員、医療関係など)を希望している学生にはポルトガル語の習得をお勧めします。</p> <p>また、ポルトガル語はブラジル以外の国々でも公用語とされているところがあり、国際的に活動したいという際にも役立てることができます。</p> <p>ポルトガル語は英語に近い構造のヨーロッパ言語で、英文法や語彙の知識が応用できる項目もあり、一方で英語の理解にも役立ちます。</p> <p>本授業の目標はポルトガル語の入門にとどまりますが、初級、中級へと学習を進めるためのきっかけとなると同時に、「英語以外のヨーロッパ言語」に関心を持っていただくこと、加えて可能な限り、ブラジルを中心としたポルトガル語圏の文化についても授業内で紹介し、ポルトガル語に関わる事柄の知見を広めることも目指します。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】</p>	
到達目標	<p>本授業では欧州言語共通参照枠(CEFR)のA1レベルを習熟目標とし、ポルトガル語の基本中の基本となる以下の基礎文法と基礎的なコミュニケーション表現を習得することを目指します。</p> <p>(1)ポルトガル語を読める (2)名詞や形容詞の性数の考え方が理解できる (3)挨拶など基礎的な表現ができる (4)基礎的な語彙を使うことができる (5)動詞の活用ができる</p> <p>これらに加え、とりわけブラジル人との日常的なコミュニケーションに関わる文化の知識(食文化、交通など)を身につけることも目標とします。</p>	
関連科目	特になし	
成績評価方法・基準	50% from final exam, and 40% participation (not attendance) in class, 10% assignments.	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	No special knowledge is required for it's a class for beginners. However, students should prepare by reviewing the handouts from the previous class and reading the newspapers or magazines mentioned in class. Students are advised to study about 2-3 hours per week in preparation for each 90-minute lesson.	
教科書・参考書	Teacher will provide handouts. Students will be encouraged to read some books, newspapers or magazines, that will be mentioned during class.	
オフィス・アワー	Students can communicate through email that will be provided on the first class.	
国家試験出題基準	特になし	
履修条件・履修上の注意	<p>5回以上の欠席がある場合は期末試験を受けられません。 また、特別な事情がない場合の30分以上の遅刻は欠席と見なします。 就職活動や特別な事情による欠席は考慮いたします。</p> <p>大学生として相応な英語力と意欲、情熱があることが望ましいです。</p>	
アクティブ・ラーニングの実施	discussion , conversation and pair work	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
西谷 泉			

授業形態	演習	担当者
授業計画	第1回 本講義の概要、1章&2章 本講義の概要とOfficeの基本について学ぶ テキスト（目次） 本書と連携サイトの活用法	西谷 泉
	第2回 3章 Word 文書作成 Wordを使った具体的な文書作成について学ぶ テキスト（第1章） コンピューターの仕組み	西谷 泉
	第3回 3章 Word 画像や図形を活用した文書作成 Wordを使って画像や図形を活用した文書作成について学ぶ	西谷 泉
	第4回 4章 Excel 表計算のデータ入力 Excelを使って表計算のデータ入力の基本について学ぶ	西谷 泉
	第5回 4章 Excel 関数を使った表計算 Excelを使って重要な関数を活用した表計算を具体例を通して学ぶ	西谷 泉
	第6回 4章 Excel グラフ作成 Excelを使って表の内容をグラフに表現することを学ぶ	西谷 泉
	第7回 4章 Excel 検索関数の利用 Excelを使って条件を満たすデータを検索することを学ぶI	西谷 泉
	第8回 4章 Excelの便利な機能 Excelの便利な機能を使った分かりやすい表作成を学ぶ	西谷 泉
	第9回 4章 Excel 実習問題 これまで学んだ内容についての実習問題に取り組む テキスト（第7章） レポート作成（Word） ▼レポート作成サンプルファイル	西谷 泉
	第10回 万年カレンダーの作成 Excelに関して学んだことを使って、万年カレンダーを作成する	西谷 泉
	第11回 5章 PowerPoint プレゼンテーションの基本について学ぶ PowerPointの使い方とスライド作成の基本について学ぶ テキスト（第9章） グラフ作成（Excel）	西谷 泉
	第12回 5章 PowerPoint アニメーションなどの活用 PowerPointのアニメーションを使った分かりやすいスライド作成について学ぶ テキスト（第9章） グラフ作成（Excel） ▼集計表、グラフ作成サンプルファイル	西谷 泉
	第13回 5章 PowerPoint スライドショーと資料作成 PowerPointのスライドショーとプレゼン資料について学ぶ テキスト（第10章） プレゼンテーション作成（PowerPoint）	西谷 泉
	第14回 6章 Office フォトレタッチ機能 Officeソフトを使った画像編集について学ぶ テキスト（第10章） プレゼンテーション作成（PowerPoint） ▼プレゼンテーション作成サンプルファイル	西谷 泉
	第15回 試験 これまでの学習の理解度を確認する	西谷 泉
科目の目的	膨大な情報が溢れる現代社会に生きている私たちは、適切に情報を収集・処理し、それらを有効に活用する能力を身に付けることが求められている。情報を適切に処理するためにはコンピュータとソフトウェアを活用することが重要である。本授業では、情報処理において世界的に活用されているソフトウェアのMicrosoft Officeを使った情報処理、情報伝達などについて、豊富な具体例を通して実習的に学習する。それによって情報処理の能力に向上を目指す。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間性と倫理観】	
到達目標	パソコンのソフトウェアであるOffice内の、Word,Excel,PowerPointを有効に活用できるようになることと、それによって適切な情報の処理、分析、さらにそれらを他者に伝達する能力を身に付けることを目標とする。	
関連科目	情報リテラシー	
成績評価方法・基準	課題(40%)、テスト(40%)、リアクションペーパー(20%) 合わせて100%	

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	この授業では、テキストを利用して、授業（60分）、自己学習（30分）を演習を通して実施します。 関連する項目を事後学習（40分）で理解を深め、課題にも取り組むことを想定している。
教科書・参考書	教科書：「30時間でマスター Office2019」実教出版
オフィス・アワー	未定
国家試験出題基準	
履修条件・履修上 の注意	MS-Office (MS-Word, MS-Excel, MS-PowerPoint) ウェブブラウザをインストールしたPC (Windows10対応) を持参してください。
アクティブ・ラー ニングの実施	実施無し

講義科目名称： 情報リテラシー

授業コード： 1S036

英文科目名称： Information Literacy

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
西谷 泉			

授業形態	講義と実習	担当者
授業計画	第1回 社会的問題や医療分野の諸課題等に関して、情報収集・整理・表現・伝達について学習する。テーマは毎回指示する。 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第2回 社会的問題や医療分野の諸課題等に関して、情報収集・整理・表現・伝達について学習する。テーマは毎回指示する。 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第3回 社会的問題や医療分野の諸課題等に関して、情報収集・整理・表現・伝達について学習する。テーマは毎回指示する。 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第4回 社会的問題や医療分野の諸課題等に関して、情報収集・整理・表現・伝達について学習する。テーマは毎回指示する。 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第5回 社会的問題や医療分野の諸課題等に関して、情報収集・整理・表現・伝達について学習する。テーマは毎回指示する。 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第6回 社会的問題や医療分野の諸課題等に関して、情報収集・整理・表現・伝達について学習する。テーマは毎回指示する。 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第7回 社会的問題や医療分野の諸課題等に関して、情報収集・整理・表現・伝達について学習する。テーマは毎回指示する。 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第8回 社会的問題や医療分野の諸課題等に関して、情報収集・整理・表現・伝達について学習する。テーマは毎回指示する。 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第9回 社会的問題や医療分野の諸課題等に関して、情報収集・整理・表現・伝達について学習する。テーマは毎回指示する。 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第10回 社会的問題や医療分野の諸課題等に関して、情報収集・整理・表現・伝達について学習する。テーマは毎回指示する。 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第11回 社会的問題や医療分野の諸課題等に関して、情報収集・整理・表現・伝達について学習する。テーマは毎回指示する。 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第12回 社会的問題や医療分野の諸課題等に関して、情報収集・整理・表現・伝達について学習する。テーマは毎回指示する。 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第13回 社会的問題や医療分野の諸課題等に関して、情報収集・整理・表現・伝達について学習する。テーマは毎回指示する。 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第14回 社会的問題や医療分野の諸課題等に関して、情報収集・整理・表現・伝達について学習する。テーマは毎回指示する。 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第15回 社会的問題や医療分野の諸課題等に関して、情報収集・整理・表現・伝達について学習する。テーマは毎回指示する。 課題等は返却はしない	西谷 泉
科目の目的	高度情報化社会である現在社会において、様々な情報が溢れている。そのような情報を収集・整理・分析し、それを適切に表現・伝達する能力の重要性が増している。本授業では、受講生の主体的な取り組みを重視し、Active Learningを生かした活動を通して、そのような能力の育成を目指す	

	す。合わせて、情報社会における守るべき情報倫理やルール、セキュリティなどについても学習する。これらの学習活動は、様々な課題に取り組む将来医療従事者として活動する上で、役立つものであると考える。【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】
到達目標	適切な情報収集と表現・伝達を通して、情報活用能力の重要性を理解する。 個別目標： 1. さまざまな情報メディアを通して情報を活用・伝達する能力を身につける。 2. マルチメディアによる情報表現・伝達の手法を理解し、基本的ルールやモラルを身に付ける。 3. 情報表現における倫理やルールを理解し、情報セキュリティを実践できる。
関連科目	情報処理
成績評価方法・基準	演習課題（授業毎のプレゼンテーションと課題提出70%、リアクションペーパー30%）100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	この授業では、インターネットを使って、様々な社会的課題について情報収集し、それを整理・分析し、さらに表現・伝達する過程を演習の形で学習する。授業の学習効果を高めるためには、常々現代社会や医療分野における様々な状況や課題等について、関心をもつことが大切である。関連する項目を1時間程度の事前学習で理解し、併せて関連サイトを自己学習することが望まれます。
教科書・参考書	テキストは使用しません。
オフィス・アワー	未定
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	MS-Office (MS-Word, MS-Excel, MS-PowerPoint) ウェブブラウザをインストールしたPC (WindowsPC、Mac等) を持参してください。
アクティブ・ラーニングの実施	プレゼンテーションを実施

講義科目名称： データサイエンス入門

授業コード： 1S037

英文科目名称： Introduction to Data Science

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
星野 修平			

授業形態	講義と演習	担当者
授業計画	第1回 社会におけるデータ・AI利活用 データサイエンスとは/社会における変化/本講義の概要と授業準備として、パソコンの利用方法、具体的な活用について学ぶ	星野修平
	第2回 社会で活用されているデータ	星野修平
	第3回 データ・AIの活用領域	星野修平
	第4回 データ・AI利活用のための技術	星野修平
	第5回 データ・AI利活用の現場	星野修平
	第6回 データ・AI利活用の最新動向	星野修平
	第7回 時系列データの可視化	星野修平
	第8回 平均、標準偏差の算出とその可視化	星野修平
	第9回 大量のデータを扱う方法	星野修平
	第10回 基本統計量の算出と箱ひげ図	星野修平
	第11回 度数分布表とヒストグラムの作成	星野修平
	第12回 散布図の作成と相関係数の算出	星野修平
	第13回 定性データの扱い方とクロス集計	星野修平
	第14回 データ・AIを扱う上での留意事項	星野修平
	第15回 データを守る上での留意事項	星野修平
科目の目的	現代社会においては、ICTの進歩に伴い、大容量データの収集、蓄積と解析によって、様々な情報・知識を得ることが可能となった。ビッグデータやAI、機械学習などを経て、様々な問題解決を行うデータサイエンスの基礎を学び、そのために必要なコンピュータの利用、統計学の知識、データ処理の手法を理解する。 【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	データサイエンスに関する基礎的概念について理解し、コンピュータによってデータ解析が実践できる。 個別目標： ・データサイエンスについて基礎的概念を説明できる。 ・データサイエンスに必要なコンピュータの基本的操作が行える。	
関連科目	情報処理・情報リテラシー・統計学・医療統計学	
成績評価方法・基準	授業中に実施するミニテスト（50%）と演習課題（50%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前学習（90分）で理解し、授業を通して学んだことの事後学習（45分）	
教科書・参考書	教科書：基礎学習 AIデータサイエンスリテラシー入門 吉岡剛志, 小林領, 照屋健作 共著 2022. 技術評論社 参考書：データサイエンスの考え方 小澤 誠一・斎藤 政彦 共著、オーム社	
オフィス・アワー	授業の前後、昼休み、4号館7階研究室 事前にE-mail にて予約(s-hoshino@paz.ac.jp)	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	MS-ExcelをインストールしたPC (WindowsPC、Mac等) を持参してください。	

アクティブ・ラーニングの実施	演習、事前課題、事後課題なその課題演習にて、学生の招待的な学びを実践的にこなう。
----------------	--

講義科目名称： 大学の学び—専門への誘い—

授業コード： 1S039

英文科目名称： Introduction to Healthcare Profession

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
白坂 康俊	齊藤 吉人	神山 政恵	三浦 康子
	丹下 弥生	岡野 由実	及川 翔

授業形態	演習 (15回)			担当者
授業計画	第1回	日本語表現演習 (AS) 言語聴覚療法の啓発 (言語障がい者の権利ならびに支援のために必要な情報) AS、座学		白坂 康俊
	第2回	日本語表現演習 (AS) ディスカッション (AS) 情報を共有するためにどのような方法がよいか?		白坂 康俊
	第3回	日本語表現演習 (AS) ディスカッション (AS) 臨床で言語聴覚士が果たすべき責任と、それを障がいのある方にどう伝えるか?		白坂 康俊
	第4回	日本語表現演習 (AS) ディスカッション (AS) AS 啓発活動の準備		白坂 康俊
	第5回	日本語表現演習 (AS) ディスカッション (AS) AS 啓発活動の準備		白坂 康俊
	第6回	日本語表現演習 (AS) 地域貢献活動 (AS) AS 啓発活動の実践		白坂 康俊
	第7回	日本語表現演習 (AS) 地域貢献活動 (AS) AS 啓発活動の実践		白坂 康俊
	第8回	日本語表現演習 (AS) ディスカッション (AS) 日本語表現演習 (AS) グループ 毎の発表とディスカッション 半分のグループ (AS) 成果発表		白坂 康俊
	第9回	日本語表現演習 (AS) ディスカッション (AS) 日本語表現演習 (AS) グループ 毎の発表とディスカッション 残り半分のグループ (AS) 成果発表		白坂 康俊
	第10回	日本語表現演習 (AS) 言語聴覚士の現場 - 小児 - (斎藤) 小児の現場におけるコミュニケーションの方法、内容、特徴		斎藤 吉人
	第11回	日本語表現演習 (AS) 言語聴覚士の現場 - 成人 - (白坂) 講義 成人の現場におけるコミュニケーションの方法、内容、特徴		白坂 康俊
	第12回	日本語表現演習 (AS) 臨床現場におけるコミュニケーションの重要性と方法 ディ スカッション (AS) ASと座学		神山 政 恵
	第13回	日本語表現演習 (AS) コミュニケーション技術の向上 (AS) ASと座学		三浦 康子
	第14回	日本語表現演習 (AS) ワークショップの活用方法 (AS) ASと座学		丹下 弥生
	第15回	日本語表現演習 (AS) 地域貢献活動 (AS) AS		白坂 康俊
科目の目的	課題学習、グループディスカッション、発表を通して専門関連の課題を理解し、チームアプローチのためのコミュニケーション能力ならびにプレゼンテーション能力を育成する。 言語聴覚学科独自のアクティブラーニング・ゼミ方式を理解し、慣れる。【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】			
到達目標	他の学生と協調してグループ学習ができる。テーマに合わせて課題を選択し、その解決方法を見つけることができる。自主的に学習するとともに、グループの他のメンバーを尊重し、協働することができる。			
関連科目	言語聴覚障害学概論、言語聴覚障害学演習、ICFとリハビリテーション、地域リハビリテーション学			
成績評価方法・基準	聴講票20%、ALの参加状況20%、ALの内容、発表60%とする。それぞれ、60/100点以上をとることが必要である。			
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	グループ内でのコミュニケーションをしっかりとる。グループ学習において他者の意見を聞くのはもちろんだが、それを尊重しながら発信する。また、他者の学修に対する姿勢なども参考にする。今後4年間の基礎的学習となる。AL=アクティブラーニング、AS=アクティブラーニング・ゼミ			
教科書・参考書	教科書は使用しない。必要な資料を授業時、または前の回の授業時に配布する。			
オフィス・アワー	研究室620 火曜日の昼休み。			
国家試験出題基準				

履修条件・履修上の注意	
アクティブ・ラーニングの実施	ディスカッション、テーマに沿った調査学習、実践

講義科目名称： 多職種理解と連携

授業コード： 1S040

英文科目名称： Multidisciplinary Understanding and Cooperation

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
白坂 康俊	白坂康俊・村田和香・佐藤 満	矢島正栄・廣田幸子・中島久美子	長田 誠・渡邊 浩・近土真由美
	金谷春代・宗宮 真	藤井裕哉・石井純子・平井 正利	

授業形態	講義および演習（グループ・ディスカッション）		担当者
授業計画	第1回	理学療法領域における最近のトピックス 科目ガイダンス含	佐藤 満
	第2回	看護師の役割および看護領域における最近のトピックス	矢島正栄
	第3回	臨床工学技士の役割および臨床工学領域における最近のトピックス	近土真由美
	第4回	診療放射線技士の役割および診療放射線領域における最近のトピックス	渡邊 浩
	第5回	臨床検査技士の役割および臨床検査領域における最近のトピックス	長田 誠
	第6回	言語聴覚領域における最近のトピックス	白坂康俊
	第7回	作業療法領域における最近のトピックス	村田和香
	第8回	保健師の役割および地域保健における最近のトピックス	廣田幸子
	第9回	助産師の役割および妊娠出産に関わる最近のトピックス	中島久美子
	第10回	リハ医の役割およびリハビリテーション医学領域の最近のトピックス	宗宮 真
	第11回	社会福祉士の役割および最近のトピックス	金谷春代
	第12回	精神保健福祉士の役割および最近のトピックス	藤井裕哉
	第13回	ケア・マネージャーの役割および最近のトピックス	石井純子
	第14回	義肢装具士の役割および最近のトピックス	平井正利
	第15回	多職種との連携に関する総括	白坂康俊
科目の目的	<p>リハビリテーションは多数の職種が参加するチームで展開される。より良いチームアプローチのためには、コミュニケーションと目標の共有が大切である。専門職間のコミュニケーションを高め、互いの専門性に対する理解を深め、どのように連携し、チームを推進するのか、他の専門職の役割や最近のトピックスなどを学ぶ。</p> <p>【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】</p>		
到達目標	<p>1. 各専門職種の業務内容の実際と期待される活動内容を述べるができる。</p> <p>2. 地域における多職種連携について、職種、連携の方法を述べるができる。</p>		
関連科目	言語聴覚学概論		
成績評価方法・基準	レポート100% 60%以上で合格とする		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業前学習として、各専門職団体および本学HPを確認しておくこと。わかりにくい概念などをチェックし、復習時に確認すること。目安となる時間は約30分程度。		
教科書・参考書	特に指定しないが、授業資料が提供される可能性がある。		
オフィス・アワー	全ての先生：講義終了後		
国家試験出題基準			
履修条件・履修上の注意			
アクティブ・ラーニングの実施	言語障害の体験学習		

講義科目名称： 医学概論

授業コード： 1S041

英文科目名称： Survey of Medical Science

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
湯本 真人			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 医学の定義・使命・歴史と医の倫理 医学とは何か、医学の使命、歴史、医の倫理、脳死判定と尊厳死について学ぶ	湯本真人
	第2回 人体の構造と機能 人体の構造と機能について学ぶ	湯本真人
	第3回 臨床医学総論 主要症状からその原因を探る手法・考え方を学ぶ	湯本真人
	第4回 臨床医学各論1（呼吸・循環・消化・代謝・腎臓・血液・造血器） 臨床医学各論のうち、呼吸・循環・消化・代謝・腎臓・血液・造血器疾患を学ぶ	湯本真人
	第5回 臨床医学各論2（神経・精神・アレルギー・膠原病・感染・中毒・運動器・皮膚） 臨床医学各論のうち、神経・精神・アレルギー・膠原病・感染・中毒・運動器・皮膚疾患を学ぶ	湯本真人
	第6回 臨床医学各論3（婦人科・産科・小児・眼・耳鼻咽喉・メタボリックシンドローム） 臨床医学各論のうち、婦人科・産科・小児・眼・耳鼻咽喉科疾患およびメタボリックシンドロームを学ぶ	湯本真人
	第7回 人口統計・疾病動態・健康と受療・医療保障制度 人口統計・疾病動態・健康と受療・医療保障制度について学ぶ	湯本真人
	第8回 医療施設の種類の現状・保健医療対策・関係法規 医療施設の種類の現状・保健医療対策・関係法規を学ぶ	湯本真人
科目の目的	医学の概要及び歴史を学び、医の倫理や医療従事者としての職業的倫理観を身につける。また、代表的な臓器における疾患について、その病気の成り立ちのメカニズム、症状、検査、診断、治療（外科を含む）といった臨床的問題解決過程について学ぶ。さらに言語聴覚療法に関連する代表的な病気を取り上げ、その症状や病態、治療等の概要から疾病と言語療法との関わり、及びわが国の保健・医療・福祉制度を総論的に学んで言語聴覚士の役割を概念化する。【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医の倫理や医療安全に関して、医療人としてとるべき対応を答えることができる。 ・代表的な感染症に関して、その感染経路や感染対策を簡潔に答えることができる。 ・代表的な疾患に関して、その発症メカニズム、症状、検査、診断、治療を簡潔に答えることができる。 ・難聴や摂食嚥下障害に対する言語聴覚士としての介入に関し、簡潔に答えることができる。 	
関連科目	解剖学総論、基礎生理学、基礎病理学、内科学、小児科学、精神医学、リハビリテーション医学、耳鼻咽喉科学、神経内科学、臨床心理学、音声学、言語学、音響音声学	
成績評価方法・基準	定期試験100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の講義内容を教科書を用いて1時間程度予習・復習することが望ましい	
教科書・参考書	教科書：コメディカルのための専門基礎分野テキスト 医学概論（中外医学社）	
オフィス・アワー	講義の前後	
国家試験出題基準	I-1-A-a~f I-1-B-a~c I-1-C-a~e I-1-D-a~b I-1-E-a~b I-1-F-a~c I-1-G-a I-1-H-a I-1-I-a I-1-J-a~b I-1-K-a~c	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	なし	

講義科目名称： 解剖学総論

授業コード： 1S042

英文科目名称： Introduction to Human Anatomy

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
後藤 遼佑			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 解剖学総論 解剖学の位置付け；人体の階層性；基準面；方向と位置を示す用語 第2回 筋骨格系 運動器の顕微構造；全身の主要な骨と筋 第3回 循環器系 体循環と肺循環；冠状血管系；主要な血管の走行と分布 第4回 呼吸器系、消化器系 気道部と呼吸部の基本構造；消化管の基本構造；肝臓、胆嚢、膵臓の基本構造；門脈系 第5回 泌尿器系、内分泌系 腎臓と膀胱の基本構造；生殖器の基本構造 第6回 感覚器 神経系の概要；眼の基本構造；内耳の基本構造 第7回 神経系1 中枢神経系の基本構造；大脳と小脳の皮質と神経核；脳幹と脳神経核 第8回 神経系2 脳神経と脊髄神経の起始、走行、分布；神経叢の基本構造	後藤 遼佑 後藤 遼佑 後藤 遼佑 後藤 遼佑 後藤 遼佑 後藤 遼佑 後藤 遼佑 後藤 遼佑
科目の目的	人体を構成する各器官系の位置と構造を学び、医療職に必要な基礎知識を身につける。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】	
到達目標	(1) 解剖学用語を正しく使うことができる。 (2) 各器官系が人体に占める位置を説明できる。 (3) 各器官系の構造と機能を説明できる。	
関連科目	局所解剖学、基礎生理学	
成績評価方法・基準	試験100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前学習として一時間程度をかけ教科書の該当範囲を精読すること。	
教科書・参考書	教科書：「言語聴覚士のための解剖・生理学 第1版」小林靖（医歯薬出版株式会社） 教科書：ネッター頭頸部・口腔顎顔面の臨床解剖学アトラス 原著第3版 前田健康監訳（医歯薬出版株式会社）	
オフィス・アワー	授業後に質問等に対応する。	
国家試験出題基準	I-2-A-a I-2-B-a~b I-2-C-a~h I-2-D-a~b	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし	

講義科目名称： 局所解剖学（言語・聴覚・発声・嚥下）

授業コード： 1S043

英文科目名称： Topographic anatomy (Speech and hearing)

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
浅見 知市郎			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 感覚器 聴覚器（外耳・中耳・内耳）について 第2回 神経系 1 言語・聴覚を中心とする中枢神経系について 第3回 神経系 2 言語・聴覚に関する脳神経を中心とする末梢神経について 第4回 骨格系 頭蓋を構成する骨について 第5回 筋系 発語、咀嚼、嚥下に関係する筋について 第6回 消化器系 口腔を中心とする諸器官について 第7回 呼吸器系 鼻腔・咽頭・喉頭を中心とする諸器官について 第8回 発生学 頭頸部の形成を中心とする発生学について	浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎
科目の目的	リハビリテーション専門職に重要と考えられる言語・聴覚・発声・嚥下に関わる頭頸部の局所解剖学を習得する。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】	
到達目標	言語・聴覚・発声・嚥下に関わる頭頸部の器官を解剖学的に説明できる。	
関連科目	解剖学総論	
成績評価方法・基準	試験100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Active Academyで配布する講義資料を理解しながら通読すると概ね1時間を要する。	
教科書・参考書	教科書：なし 参考書：「ネッター 頭頸部・口腔顎顔面の臨床解剖アトラス」前田健康監訳 医歯薬出版 「入門人体解剖学」藤田恒夫（南江堂）	
オフィス・アワー	講義終了後の休み時間に教室で質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する (asami@paz.ac.jp)。	
国家試験出題基準	【言語聴覚士】 I-2-C-d, e, f 3-B-a, b, c, d, e, f C-b E-a, b I-a, b, c, d	
履修条件・履修上の注意	Active Academyによる講義資料の配付期間：講義の1週間前から学期末まで。	
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし	

講義科目名称： 内科学

授業コード： 1S047

英文科目名称： Internal Medicine

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
岩崎 俊晴			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 概論 1 ＜内科疾患の分類、薬物療法、食事療法＞内科疾患の分類、薬物療法の実際。薬物の作用、濃度。処方箋、医薬品に関する法令。薬用量。食事療法の目的。栄養と疾患の関係。各種病態と食事療法の基本方針。病院食とは。嚥下と栄養補給。	岩崎
	第2回 概論 2 一般検査。血液検査。生化学検査。内分泌検査。感染症検査。免疫的検査。腫瘍マーカーとは。生理学的検査。画像検査。	岩崎
	第3回 消化器疾患 1 消化器疾患の食事・栄養療法。口腔、食道、胃疾患、腸疾患。	岩崎
	第4回 消化器疾患 2 肝、胆のう、膵臓疾患。腹膜疾患。急性腹症。	岩崎
	第5回 呼吸器疾患 1 感呼吸器疾患総論、染性呼吸器疾患。気管支疾患。産業界呼吸器疾患。	岩崎
	第6回 呼吸器疾患 2 間質性肺炎。COPD。肺腫瘍。肺循環障害。サルコイドーシス。	岩崎
	第7回 アレルギー、自己免疫疾患。 アレルギーとは。アレルギー性鼻炎。気管支喘息。アレルギー性肺疾患。膠原病。	岩崎
	第8回 循環器疾患 1 心不全。不整脈。	岩崎
	第9回 循環器疾患 2 虚血性心疾患。弁膜症。心筋炎。リウマチ熱。	岩崎
	第10回 循環器疾患 3 高血圧症。大動脈疾患。末梢動脈疾患。静脈・リンパ系の疾患。	岩崎
	第11回 内分泌・代謝疾患 1 内分泌疾患の特徴。間脳、下垂体疾患。甲状腺、副甲状腺疾患、副腎疾患。	岩崎
	第12回 内分泌・代謝疾患 2 糖代謝異常（糖尿病、低血糖）	岩崎
	第13回 内分泌・代謝疾患 3 脂質代謝異常。尿酸代謝異常。その他の代謝異常。	岩崎
	第14回 血液疾患 血液量の異常。脱水。貧血、多血症。血小板の異常。白血球の異常。	岩崎
	第15回 内科学における遺伝性疾患。環境因子と内科疾患。 遺伝性疾患の形式。家族性高コレステロール血症について。公害病について。原発事故における健康被害。	岩崎
科目の目的	臨床医学の中で内科学はすべての疾患を知る上で重要な学問である。特に、疾患の病理生理、診断、治療を学ぶことは臨床の現場で患者の状況を理解し、的確な判断に基づいて検査、治療を施す上で重要である。 【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	疾病の病態生理、診断、治療を一連の流れの中で理解する力を養う。国家試験に役立つ疾患について理解を深め、実際の問題に対応できるようにする。	
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、病理学、生理学Ⅰ・Ⅱ	
成績評価方法・基準	試験とレポートの総合評価（レポート50%、ミニテスト50%） [2022.5.27 訂正]	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	毎回の講義内容をよく復習し、重要事項を頭に覚えておくこと。講義前に授業資料に目を通し、どのような流れの授業なのかを把握しておくこと。授業内容を深く理解するためには30分以上の予習が必要である。	
教科書・参考書	参考書：「病気が見える」シリーズ 教科書なし	
オフィス・アワー	講義の後20分ほど学内に滞在している。講義した内容に質問があれば出席表を利用する。	
国家試験出題基準	＜専門基礎＞-Ⅱ-11-ABCDE-abcdefg	
履修条件・履修上	特になし。	

の注意	
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし

講義科目名称： 小児科学

授業コード： 1S048

英文科目名称： Pediatrics

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
秋元かつみ			

授業形態	講義(15回) 授業の前後にプレテスト、ポストテストを施行 授業終了後に内容についての問題1問作成		担当者
授業計画	第1回	小児科学概論 こどもの成長・発達および保健について学ぶ	秋元かつみ
	第2回	小児科学概論(つづき) ・診断と治療の概要 こどもの疾患の診断・治療について学ぶ	秋元かつみ
	第3回	新生児・未熟児疾患 一般的な疾患およびリハビリテーションの中核をなす疾患群を学ぶ	秋元かつみ
	第4回	先天異常、先天代謝異常 一般的な疾患およびリハビリテーションの中核をなす疾患群を学ぶ 3年生の臨床神経学Ⅱで詳細を学ぶ	秋元かつみ
	第5回	神経・筋・骨等疾患 一般的な疾患およびリハビリテーションの中核をなす疾患群を学ぶ 3年生の臨床神経学Ⅱで詳細を学ぶ	秋元かつみ
	第6回	循環器疾患 一般的な疾患およびリハビリテーションの中核をなす疾患群を学ぶ	秋元かつみ
	第7回	呼吸器疾患 一般的な疾患およびリハビリテーションの中核をなす疾患群を学ぶ	秋元かつみ
	第8回	感染症、消化器疾患 小児疾患を系統別に学ぶ	秋元かつみ
	第9回	内分泌・代謝疾患 小児疾患を系統別に学ぶ	秋元かつみ
	第10回	血液疾患 小児疾患を系統別に学ぶ	秋元かつみ
	第11回	免疫・アレルギー疾患、膠原病 小児疾患を系統別に学ぶ)	秋元かつみ
	第12回	腎・泌尿器疾患、生殖器疾患、腫瘍性疾患 小児疾患を系統別に学ぶ	秋元かつみ
	第13回	心身症、神経症など 小児疾患を系統別に学ぶ	秋元かつみ
	第14回	重症心身障害児 眼科・耳鼻科的疾患 特に重症心身障害児に焦点をあてて学ぶ	秋元かつみ
	第15回	小児における薬物動態 小児における薬物および投薬に関する重要事項	秋元かつみ
科目の目的	将来言語聴覚士として小児の訓練を行う場合、基礎として、小児の生理・病理を理解し、疾患について学び、将来他の医療スタッフと業務の上で協調できる能力をもつことを目的とする。特に頻回および長期入院が必要となる疾患の病態と注意点について理解する ディプロマポリシー：【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】		
到達目標	1) 小児の成長・発達を学び、小児の疾患についても総合的に学ぶ。2) 各疾患の特異性を理解し学習する。3) 患者の問題点について深く考え、医療チームで発言できるスキルを身につける。3) 積極的に発言できるスキルを身につける。		
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学Ⅰ・Ⅱ、人間発達学、内科学、精神医学、小児理学療法		
成績評価方法・基準	定期試験100%		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義資料を前日までに目を通しておくこと。1コマの授業に1時間ほどかけて要点を理解し疑問点を列記しておくこと。		
教科書・参考書	教科書 「標準理学療法学・作業療法学小児科学(第6版)」奈良勲/鎌倉矩子 2023年1月発行 医学書院 参考書 病気が見える vol.15小児科 第1版 2022年10月発行 メディックメディア 看護のための臨床病態学 改訂4版 浅野嘉延、吉山直樹		

オフィス・アワー	授業の前後10分間を講義室で待機します。
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	講義開始5分後までは出席扱い。その後は遅刻とします。
アクティブ・ラーニングの実施	予定なし（ただし時間があれば症例について討議しポイントや問題点を視覚化する

講義科目名称： 精神医学

授業コード： 1S049

英文科目名称： Psychiatry

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
石井 良和	井田 逸朗		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 精神医学とは 精神医学の定義・概念・歴史 第2回 精神障害の成因と分類 精神と精神症状の理解 第3回 精神疾患の診断と評価 第4回 脳器質性精神障害（てんかんを含む） 症状性精神障害 第5回 統合失調症 第6回 気分障害・神経症・摂食障害・心身症等 第7回 精神作用物質 アルコール、睡眠薬等の薬物関連障害 第8回 精神科医療 治療・薬の副作用・入院の種類	井田逸朗・石井良和 井田逸朗・石井良和 井田逸朗・石井良和 井田逸朗・石井良和 井田逸朗・石井良和 井田逸朗・石井良和 井田逸朗・石井良和 井田逸朗・石井良和 井田逸朗・石井良和
科目の目的	広汎な精神障害の概要を学び、将来言語聴覚士としての役割を学習する。【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】	
到達目標	言語聴覚士として将来遭遇する症例の実像を理解できる。	
関連科目	内科学 小児科学	
成績評価方法・基準	筆記試験（100%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	次回講義の該当ページを読んでおくこと。学習時間の目安は1コマあたり60分。	
教科書・参考書	教科書：「標準理学療法学作業療法学 精神医学」編：上野武治（医学書院） 参考書：特になし	
オフィス・アワー	授業当日は18時まで。	
国家試験出題基準	II-3-A-a [~] b II-3-B-a [~] b II-3-C-a [~] b II-3-D-a [~] j II-3-E-a [~] II-3-F-a [~] c	
履修条件・履修上の注意	特になし	
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
浅田 春美	鈴木学	黒川望	吉岡和哉
	近藤健	石代敏拓	

授業形態	講義2回, 演習6回		担当者
授業計画	第1回	講義：リハビリテーションにおける姿勢と動作 人の姿勢と基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり、歩行）の意義	浅田
	第2回	講義：移動補助具（1本杖・松葉杖、車いす） 移動補助具の種類、適応、使用方法（杖の合わせ方、歩行パターン、車いすの基本構造）	浅田
	第3回	演習：移動補助具（車いす）1 移動補助具車いすの使用方法（車いすの広げ方、たたみ方）、車いす操作、介助方法、キャスター上げ	浅田、鈴木、黒川、吉岡、近藤、石代
	第4回	演習：移動補助具（車いす）2 移動補助具車いすの使用方法（車いすの広げ方、たたみ方）、車いす操作、介助方法、キャスター上げ 講義に関する課題①（AAにて提出） 次回、講義時にFB	浅田、鈴木、黒川、吉岡、近藤、石代
	第5回	演習：移動補助具（1本杖・松葉杖）1 移動補助具の実践（杖の合わせ方、歩行パターン、歩行練習、介助のしかた、階段昇降）	浅田、鈴木、黒川、吉岡、近藤、石代
	第6回	演習：移動補助具（1本杖・松葉杖）2 移動補助具の実践（杖の合わせ方、歩行パターン、歩行練習、介助のしかた、階段昇降） 講義に関する課題②（AAにて提出） 次回、講義時にFB	浅田、鈴木、黒川、吉岡、近藤、石代
	第7回	演習：基本動作と介助法1 基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり）練習、介助方法、移乗動作（車いす⇄ベッド）	浅田、鈴木、黒川、吉岡、近藤、石代
	第8回	演習：基本動作と介助法2 基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり）練習、介助方法、移乗動作（車いす⇄ベッド） 講義に関する課題③（AAにて提出） 掲示にてFB	浅田、鈴木、黒川、吉岡、近藤、石代
科目の目的	臨床で対象となる高齢者や身体障がい者の姿勢や動作の特徴を理解し、その介助方法など学習する。 具体的には、高齢者、中枢神経疾患、骨・関節疾患（変形性関節症）などの移動・移乗動作の介助方法や歩行補助具（杖の合わせ方、杖の付き方）の使用法、車いすの操作方法や介助方法などを習得する。その際、対象者が安楽で安心して安全な方法で行えるようになることを目的とする。 【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】		
到達目標	1. 高齢者、片麻痺者、骨・関節疾患（変形性膝・股関節症）の障害像をイメージできる 2. 1本杖の合わせ方、つき方（代表的な歩行パターン）を説明し、杖歩行練習を実践できる 3. 車いすのパーツの名称を言うことができ、安全に車いすを操作できる（車いすの介助） 4. 寝返り、起き上がり、立ち上がりなどの基本動作の際の介助法を実践できる		
関連科目	チーム医療とリハビリテーション、リハビリテーション医学、運動系障害演習		
成績評価方法・基準	演習終了後の課題提出3回（30%）、定期試験＜実技試験＞（70%）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	技術習得を目標とするため、講義後の実技練習30分程度。扱う杖や車いすなどの基本的な構造や操作方法などの学習として30分程度の復習を要する。		
教科書・参考書	教科書：特になし（資料配布） 参考書：1. 飛松好子編著：新イラストによる安全な動作介助の手引き第3版，医歯薬出版株式会社，2016		
オフィス・アワー	講義日の12：10～13：00		
国家試験出題基準	II-4-b-a~d II-4-C-d'g		

履修条件・履修上の注意	演習では、実技中心となりますので、動きやすい服装と実習用靴に履き替えて受講して下さい。
アクティブ・ラーニングの実施	実技演習（グループワーク，体験学習）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
宗宮 真			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 総論 神経症候と神経学的診察法の概要について学習する。	宗宮 真
	第2回 脳血管障害1 脳血管障害の概要と脳出血について学習する。	宗宮 真
	第3回 脳血管障害2 脳梗塞1 病態と症候を中心に学習する。	宗宮 真
	第4回 脳血管障害3 脳梗塞2 検査と治療を中心に学習する。	宗宮 真
	第5回 脳血管障害4および外傷性疾患 くも膜下出血と頭部外傷について学習する。	宗宮 真
	第6回 神経変性疾患1 認知症疾患について学習する。	宗宮 真
	第7回 神経変性疾患2 大脳基底核障害（錐体外路系疾患）1 パーキンソン病を中心に学習する。	宗宮 真
	第8回 神経変性疾患3 大脳基底核障害（錐体外路系疾患）2 パーキンソン病以外の疾患について学習する。	宗宮 真
	第9回 神経変性疾患4 脊髄小脳変性症について学習する。	宗宮 真
	第10回 神経変性疾患5 運動ニューロン疾患について学習する。	宗宮 真
	第11回 脱髄疾患 多発性硬化症などの脱髄疾患について学習する。	宗宮 真
	第12回 末梢神経障害 ギラン・バレー症候群などの末梢神経障害について学習する。	宗宮 真
	第13回 筋疾患 筋ジストロフィーなどの筋疾患について学習する。	宗宮 真
	第14回 神経筋接合部疾患、機能的疾患 重症筋無力症などの神経筋接合部疾患、てんかんなどの機能的疾患について学習する。	宗宮 真
	第15回 感染性疾患 髄膜炎・脳炎などの感染性疾患について学習する。	宗宮 真
科目の目的	神経内科疾患の病態、症状、検査、診断、治療についての知識を習得する。【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	神経内科疾患の病態、症状、検査、診断、治療およびリハビリテーションを行う際の注意点について説明できる。	
関連科目	解剖学総論、基礎生理学、基礎病理学、内科学、小児科学、リハビリテーション医学、脳神経外科学	
成績評価方法・基準	定期試験（筆記試験。90%）、授業中の質問や確認問題への回答（10%）。確認問題については、講義内で解説を行うなど、フィードバックを行う。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業で解説した重要事項について、主に復習を中心とした自己学習を行い、次回授業までに、重要事項については自ら説明できるレベルまで理解しておくこと。1コマあたり1時間（実時間数45分）の授業外学習の時間を確保すること。	
教科書・参考書	教科書： 使用しない。 参考書1：「神経内科学テキスト（改訂第4版）」江藤文夫、飯島節（南江堂） 参考書2：「神経疾患のリハビリテーション（初版）」江藤文夫、和田直樹（南山堂）	
オフィス・アワー	講義終了後または水曜日昼休み（12時10分～50分、場所：6階研究室）。質問の内容により、別に時間を設定する場合がある。	
国家試験出題基準	II-6-C-a, b, c, d, e II-6-D-a, b, c II-6-E-a, b, c, d II-6-F-a, b, c II-6-G-a, b, c II-6-H-a, b, c II-6-I-a, b, c	

	II-6-J-a, b, c, d, e II-6-K-a, b, c
履修条件・履修上の注意	前回講義の復習に利用する必要があるため、前回の配布資料を持参すること。
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし

講義科目名称： 形成外科学

授業コード： 1S054

英文科目名称： Plastic and Reconstructive Surgery

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
浜島 昭人	山路佳久	古賀康史	佐々木淑恵
	山田有実		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 形成外科総論 形成外科とは、扱う疾患 第2回 創傷治癒 創傷治癒について 第3回 形成外科の基本手技 切開縫合、植皮、皮弁、筋皮弁、遊離組織移植など 第4回 顔面外傷 症状、診断と治療 第5回 顔面神経麻痺 症状、診断と治療 第6回 熱傷 症状、診断と治療 第7回 褥瘡、難治性潰瘍 症状、診断と治療 第8回 口唇口蓋裂1 分類、発生、治療 第9回 口唇口蓋裂2 手術法 第10回 口唇口蓋裂3 二次手術 第11回 頭蓋・顔面の先天異常1 顔面の先天異常 第12回 頭蓋・顔面の先天異常2 頭蓋骨早期癒合症 第13回 頭頸部再建手術 手術法 第14回 癬痕・ケロイド・癬痕拘縮 症状、診断と治療 第15回 総括 これまで学習した内容を総括する	浜島昭人 山田有実 山田有実 古賀康史 山路佳久 佐々木淑恵 山田有実 佐々木淑恵 佐々木淑恵 古賀康史 浜島昭人 山路佳久 山路佳久 古賀康史 浜島昭人
科目の目的	形成外科で扱う疾患、特に顔面に関連する外傷や再建、先天異常などを中心として学習するとともに、形成外科で扱う疾患や様々な治療法を学習する。特に口唇口蓋裂などの多職種で治療を行う疾患を学ぶことで、治療における言語聴覚士の役割を理解する。	
到達目標	1. 形成外科で治療を行う疾患について説明できる。 2. 創傷治癒、形成外科の基本手技を理解する。 3. 口唇口蓋裂などの多職種で治療を行う疾患を理解する。	
関連科目	歯科口腔外科、耳鼻咽喉科	
成績評価方法・基準	定期試験（筆記試験）100%により成績を評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業はスライド閲覧を中心とするため、予習より復習に重点を置くこと。授業内容、配布資料や参考書などで1時間程度。	
教科書・参考書	参考書：「言語聴覚士テキスト 第3版」大森 孝一、永井 知代子、深浦 順一、渡邊 修（編）、医歯薬出版 参考書：「標準形成外科（第6版）」平林慎一、鈴木茂彦（編）、医学書院 参考書：「こどもの口唇裂・口蓋裂の治療とケア」大久保文雄、メディカ出版	
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。	
国家試験出題基準	臨床医学 II-6-A~G	
履修条件・履修上の注意	講義の順序・担当者は、都合により変更となる場合があります。	
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし	

講義科目名称： 脳神経外科学

授業コード： 1S055

英文科目名称： Neurosurgery

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
湯本 真人			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 臨床解剖 脳神経外科領域の臨床解剖の基礎を学ぶ	湯本 真人
	第2回 診断法 神経眼科・耳科症候と大脳・脳幹・小脳・脊髄の局在機能の診かたと撮影法・検査法を学ぶ	湯本 真人
	第3回 頭痛・けいれん・頭蓋内圧亢進・意識障害 頭痛・けいれんの診断と治療，意識障害の診断と治療を学ぶ	湯本 真人
	第4回 脳腫瘍 代表的な脳腫瘍の症候・診断・治療を学ぶ	湯本 真人
	第5回 脳血管障害 代表的な脳血管障害の症候・診断・治療を学ぶ	湯本 真人
	第6回 外傷・先天奇形・水頭症 頭蓋・脳外傷と先天奇形，水頭症について学ぶ	湯本 真人
	第7回 炎症性疾患・機能的疾患 中枢神経系感染症とてんかんについて学ぶ	湯本 真人
	第8回 脊髄・脊椎・末梢神経 脊髄・脊椎疾患と末梢神経傷害の局在診断を学ぶ	湯本 真人
科目の目的	脳神経外科学の対象領域の臨床解剖，診断法，各種撮影法と検査法の基礎を押さえ，頭痛，けいれん，頭蓋内圧亢進，意識障害，脳腫瘍，脳血管障害，頭部外傷，先天奇形，水頭症，炎症性疾患，機能的疾患，脊髄・脊椎・末梢神経疾患の症候・診断・治療法を学ぶ。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】	
到達目標	言語聴覚士が臨床の現場で活躍する際に必要不可欠な，脳神経外科領域の知識を獲得する。	
関連科目	医学概論、解剖学総論、基礎生理学、基礎病理学、内科学、小児科学、精神医学、リハビリテーション医学、耳鼻咽喉科学、神経内科学、臨床心理学、音声学、言語学、音響音声学	
成績評価方法・基準	定期試験100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	30分の予習と復習	
教科書・参考書	参考書：標準脳神経外科学（医学書院）	
オフィス・アワー	講義の前後	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	なし	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
戸谷麻衣子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 歯科概論 歯・口腔・顎顔面の形態と構造 歯科医療の概要について説明する。歯・口腔・顎顔面の形態、構造について理解する。	戸谷麻衣子
	第2回 歯・口腔・顎顔面の機能 顔面・口腔・歯の発生 歯・口腔・顎顔面の咀嚼・摂食嚥下・言語機能について理解する。顔面・口腔・歯の発生について理解する。	戸谷麻衣子
	第3回 う蝕・歯髄炎・歯根膜炎 う蝕の原因、重症度、治療法について理解する。歯髄炎、歯根膜炎について理解する。	戸谷麻衣子
	第4回 歯周病 歯列不正 歯の欠損 歯の萌出 歯周疾患の原因、重症度、治療法について理解する。歯列不正や歯の欠損、萌出について理解する。	戸谷麻衣子
	第5回 口腔ケアについて 口腔ケアの種類、方法、意義、口腔衛生状態の評価、誤嚥性肺炎の予防などについて理解する。	戸谷麻衣子
	第6回 口唇・舌・口底・頬粘膜の異常 口唇・舌・口底・頬粘膜に異常をきたす疾患の病態と治療法について理解する。	戸谷麻衣子
	第7回 顎骨の先天異常・発育異常 顎骨の先天異常・発育異常をきたす疾患の病態と治療法について理解する。	戸谷麻衣子
	第8回 口腔・顎・顔面の外傷、炎症 口腔・顎・顔面の外傷、炎症、感染症の病態と治療法の概要を理解する。	戸谷麻衣子
	第9回 口腔・顎・顔面の嚢胞 口腔・顎・顔面に発生する嚢胞および類似疾患の病態と治療法の概要を理解する。	戸谷麻衣子
	第10回 口腔・顎・顔面の腫瘍 口腔・顎・顔面に発生する良性腫瘍および悪性腫瘍の病態と治療法の概要を理解する。	戸谷麻衣子
	第11回 唾液腺疾患、神経系疾患、顎関節疾患、口腔粘膜疾患 唾液腺疾患、神経系疾患、顎関節疾患、口腔粘膜疾患の病態と治療法の概要を理解する。	戸谷麻衣子
	第12回 咀嚼・摂食・構音障害に対する歯科的治療 咀嚼・摂食・構音障害に対する手術療法、機能回復、再建術などについて理解する。	戸谷麻衣子
	第13回 咀嚼障害について 咀嚼障害の特徴、検査、治療法の概要を理解する。	戸谷麻衣子
	第14回 摂食嚥下障害について 摂食嚥下障害の発症メカニズムと検査、治療、訓練などについて理解する。	戸谷麻衣子
	第15回 構音障害について 構音障害の発生メカニズムと特徴、検査、疾患による特徴などについて理解する。	戸谷麻衣子
科目の目的	言語聴覚士が言語聴覚療法を実施するために必要な口腔・顎・顔面の疾患について、病態、検査法、治療法を学ぶ。また、口腔・顎・顔面の機能障害の治療法と歯科口腔外科領域における言語聴覚士の役割を学ぶ。(DP1～DP4) 言語聴覚士として必要とされる科学技術や知識を備え、地域包括ケアの視点から、関連職種と連携しチーム医療を実践できる能力を身につけている。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】	
到達目標	1. 歯・口腔の構造・機能の概要が説明できる。2. 口腔の構造と構音摂食嚥下機能の関連と構音摂食嚥下障害に対する歯科的治療が説明できる。3. 誤嚥性肺炎の発生機序、予防のための口腔ケアについて説明できる。4. 口腔外科で取り扱う疾患と治療の概要について理解する。5. 唇顎口蓋裂の病態と治療法を説明できる。6. 各種の口腔外科疾患により生じる言語障害と治療法を理解する。	
関連科目	解剖学総論 局所解剖学（言語・聴覚・発声・嚥下） 口腔運動医学	
成績評価方法・基準	定期試験100%：60点以上を合格とし、誤りの多かった設問について解説を行う。	

準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業当該日までにActiveAcademyに資料を事前配布する。予習は予習用資料で授業内容について概要を理解しておく(20分)。復習は復習用資料を利用して講義内容の理解を深め知識の定着をはかること(40分)。事前配布資料の持参は必須ではないが、復習用資料は授業で使用するスライドを含むため、メモを取るなど授業で利用したい場合は各自印刷等して持参してもよい。
教科書・参考書	教科書：「言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学―器質性構音障害 第2版」道健一 (医歯薬出版)
オフィス・アワー	授業後 (場所：非常勤講師室)
国家試験出題基準	【言語聴覚士】Ⅲ-1-A-a～d, Ⅲ-1-B-a～b, Ⅲ-1-C-a～b, Ⅲ-1-D-a～b, Ⅲ-1-E-a～c, Ⅲ-1-F-a, Ⅲ-2-A-a～j, Ⅲ-2-B-a～c, Ⅲ-2-C-a～c, Ⅲ-2-D-a～c, Ⅲ-2-E-a～c
履修条件・履修上の注意	
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし

講義科目名称： 生涯発達心理学

授業コード： 1S061

英文科目名称： Life-Span Development Psychology

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
齊藤 吉人			

授業形態	講義15回 毎回の授業の最後に授業の「まとめ」を提出する。		担当者
授業計画	第1回	ヒトとは 直立二足歩行の直立・二足歩行からもたらされたヒト特有の疾患・ヒトの6大特徴	齊藤吉人
	第2回	生涯発達 発達の定義・人の生涯に影響を与える3つの要因・2025年問題・平均寿命と健康寿命の差・人間発達期の区分・成長・発達・成熟・発育の原則	齊藤吉人
	第3回	胎芽・胎児期 受精卵期・胎芽期・胎児期	齊藤吉人
	第4回	乳児期 ピアジェの認知構造・乳児実験における観察法・エリクソンのライフサイクル・コミュニケーションの発達段階・アタッチメント	齊藤吉人
	第5回	幼児期前期 粗大運動の発達・微細運動の発達・社会性・言語の発達・エリクソンの発達図式・児童虐待	齊藤吉人
	第6回	幼児期後期 粗大運動の発達・微細運動の発達・自己中心性・こころの理論・社会的遊びの発達の分類	齊藤吉人
	第7回	学童期 勤勉性と劣等感・脱中心化・向社会性	齊藤吉人
	第8回	青年期前期 思春期と青年期・自我同一性・モラトリアム・自己受容・エゴグラム性格診断テスト	齊藤吉人
	第9回	青年期後期 自我同一性・アイデンティティ・ステータス・マージナル・マン・ピーター・パン・シンドローム・シンデレラ・コンプレックス・合理的配慮・トランスジェンダー	齊藤吉人
	第10回	成人期前期 親密性と孤独・職業的アイデンティティ・仁術・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・ニート・人口置き換え水準	齊藤吉人
	第11回	成人期中期 世代性と停滞・コーピング・スタイル・M字カーブ・3歳児神話	齊藤吉人
	第12回	成人期後期 成熟期・同一性再確立・自己肯定感・熟年の自殺	齊藤吉人
	第13回	高齢期 統合と絶望・結晶性知能と流動性知能・人格の尖鋭化・サクセスフル・エイジング・プロダクティブ・エイジング・ロコモティブ症候群・サルコペニア・フレイル・地域包括ケア	齊藤吉人
	第14回	発達理論 単一要因説・生得説・経験説・双生児統制法・成熟優位説・レディネス・反射階層理論・行動主義心理学・輻輳説・相互作用説・横断研究・縦断研究・非線形打ち消し効果	齊藤吉人
	第15回	発達理論 複雑系科学・創発・ゲシュタルト心理学・最近接発達領域	齊藤吉人
科目の目的	人間を生涯にわたり発達する存在としてとらえ、生命の誕生から小児期、青年期、成人期(老年期)を経て死に至るまでの量的・質的变化について学ぶ。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】		
到達目標	人間の発達、受胎、胎生期、新生児期、乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老人期、死というライフステージに分けられる。障害のある人への支援を行う専門職には、そうしたライフステージの特徴を踏まえつつ、支援を行うことが求められている。ライフステージの各時期に発現する行動を広く、深く理解し、各時期に生じやすい発達上あるいは健康上の課題を説明できることを目標とする。		
関連科目	臨床心理学, 学習・認知心理学, 心理測定法		

成績評価方法・基準	評価点＝毎回提出する「まとめ」（1点×15回＝15%）＋定期試験成績（85%）。100点満点換算で60点以上を合格とし単位を与える。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業計画に示される授業内容の教科書該当部分を予習する（各回45分程度）。 授業後に配布される「標準的まとめ」を復習する（各回45分程度）。
教科書・参考書	教科書：山田弘幸（編著）：言語聴覚士のための心理学(第2版), 医歯薬出版, 2020. 参考書：鈴木光太郎著：ヒトの心はどう進化したのかー狩猟採集生活が生んだもの, 筑摩書房, 2013
オフィス・アワー	月～金の昼休み
国家試験出題基準	V-4-A-a [~] c V-4-B-a [~] c V-4-C-a [~] c V-4-D-a [~] c V-4-E-a [~] e
履修条件・履修上の注意	1回の「まとめ」の提出に対し1点が与えられる。ただし、正答が60%を超えない場合、「まとめ」とは認めない。毎回の授業終了後、「標準的まとめ」をActive Academyにて配信する。定期試験は「標準的まとめ」から出題される。
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし
実務経験のある教員による授業	
実務経験	齊藤 吉人（言語聴覚士）
授業の概要	人の受胎から老衰・死に至るまでの生涯にわたる心身の発達についての学問である。発達を子どもの成長だけではなく、老化の過程も含めて最新の知見を学習する。連続性のある発達、文脈的・相互的視点、発達のための環境のコントロールという視点から人を理解することを学ぶ。

講義科目名称： 言語学

授業コード： 1S064

英文科目名称： Linguistics

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
白坂 康俊			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 言語学概論。STにとっての言語学の必要性を理解する演習（言語処理過程） AL：アクティブラーニング	白坂 康俊
	第2回 言語学と言語障がいとの具体的な関連 AL	白坂 康俊
	第3回 日本語の特徴、構造を理解する。STが臨床を行うのに改めて日本語を学ぶ必要性 一部AL	白坂 康俊
	第4回 日本語の品詞、形態と役割 一部AL	白坂 康俊
	第5回 日本語の格助詞、形態と役割 一部AL	白坂 康俊
	第6回 日本語のテンス、形態と役割 一部AL	白坂 康俊
	第7回 日本語のボイス、形態と役割 一部AL	白坂 康俊
	第8回 日本語の人称、形態と役割 一部AL	白坂 康俊
	第9回 日本語の統語構造と「は」および従属節での格の標識の消失 一部AL	白坂 康俊
	第10回 障がい者にとっての日本語の習得 一部AL	白坂 康俊
	第11回 日本語の助詞と助詞の消失の習得のための訓練プログラム立案 一部AL	白坂 康俊
	第12回 言語の一般的特徴（音声・文字言語、恣意性、二重分節性など）、言語の種類 一部AL	白坂 康俊
	第13回 言語の一般的特徴（生成文法、共時論、通時論、生産性、線状性） 一部AL	白坂 康俊
	第14回 言語学の研究分野（音韻論、形態論、意味論、統語論、文字論、社会言語学） 一部AL	白坂 康俊
	第15回 言語理論と言語聴覚療法（言語処理過程、失語症）、言語の階層構造と神経科学） AL	白坂 康俊
科目の目的	患者様が習得、再学習する対象としての日本語について、言語聴覚士として評価課題や訓練課題において言語学的知識をどのように活用し、言語学的な分析をどのように行いうるかについて理解する。それにより、障がいを持つ方の発話や書いたものを分析し、必要な習得プログラム構築できるようにする。【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	言語学の基本的な概念を説明できる。日本語の特色、日本語のシンタックス、語彙、表記法（かな、カタカナ、漢字）などの規則と特徴を理解し、言語レベルの障がいの検査・評価・訓練にどのように応用できるかを理解する。	
関連科目	聴覚障害学、失語症学、高次脳機能障害学、言語聴覚障害学概論	
成績評価方法・基準	小レポート20%、ALの参加状況20%、筆記試験、60%とする。筆記試験は、100点満点換算で60点以上を合格とする。小レポートは、内容で評価し、また、出席した授業について未提出の場合は、0点とする。全体で、100点満点換算の60点以上を合格とする。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	毎回事前演習課題を提示するので、回答を準備すること。約1時間の準備を要する。基礎的な学問である言語学と言語障害がどう結びつくかをしっかり考えること。	
教科書・参考書	教科書：野田尚史「はじめての人の日本語文法」くろしお出版 1991年 配布資料	
オフィス・アワー	研究室620 月曜午後～木曜昼までの間の昼休み。	
国家試験出題基準	VI-4-A-a~c VI-4-B-a~b VI-4-C-a~b VI-4-D-a~e VI-4-E-a~d	
履修条件・履修上の注意		

アクティブ・ラーニングの実施	授業内でテーマを設定し、ゼミ単位のディスカッションを行う。
----------------	-------------------------------

講義科目名称： 音声学

授業コード： 1S065

英文科目名称： Phonetics

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
白坂 康俊			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 音を記述する体験（AL）。音声とは。調音とは。音声と言語療法の学問史。	白坂康俊
	第2回 発声発語器官の描画（AL）。発声発語器官を理解する。空気の流れの説明。	白坂康俊
	第3回 発話障がい体験（AL）音声記号での記述と、その他の方法での記述の違い。	白坂康俊
	第4回 母音と子音。アクセント。IPA。母音の三角形の自己観察・記述（AL）	白坂康俊
	第5回 発声発語器官と機能：呼吸器と喉頭。軟口蓋。舌。顎。口唇。	白坂康俊
	第6回 2重分節と音素、有声、無声、鼻音：母音と子音の違い。声道模型提示と説明。	白坂康俊
	第7回 子音の構音点、構音方法、有声無声の観察記述（AT）。有声、無声、鼻音の産生の仕方解説。	白坂康俊
	第8回 閉鎖音・摩擦音：閉鎖音・摩擦音とは何か、その産生の仕方。外国語も含む。	白坂康俊
	第9回 母音：母音の三角形にそって、上下、前後の関係を知る。	白坂康俊
	第10回 国際音声字母。構音検査と調音音声学の関連性を理解する。音声学と音韻論。	白坂康俊
	第11回 音声記号と、他の記号での記述の違い（AL）。プロソディ定義と範囲。外国語も含めて。	白坂康俊
	第12回 プロソディの機能。分析。日本語のプロソディ。プロソディの記述（AL）	白坂康俊
	第13回 音韻の獲得とその順序。	白坂康俊
	第14回 摂食・嚥下運動と構音運動（AL）。	白坂康俊
	第15回 摂食・嚥下の獲得と異常	白坂康俊
科目の目的	音声の産生の仕方について、発声発語の検査や訓練手技に繋がる実用的なレベルでの理解する。 【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	発声発語器官が説明でき、子音と母音の違いが説明できる。 国際音声記号にそって代表的な構音点、構音方法が説明できる。 プロソディとは何か説明できる。 言語障害の記述でなぜ国際音声記号を用いるか説明できる。	
関連科目	病理音声学。言語学。発声発語・嚥下障害評価法。器質性・機能的発話障害支援論。運動性発話障害支援論。非流暢性発話支援論。摂食・嚥下障害支援論。	
成績評価方法・基準	授業に関する小レポート（20%）、ALの参加状況とプレゼン内容（20%）、筆記試験（60%）。授業レポート、AL、筆記試験（各100点満点）の総合点（重み付けは、上記の比率とする）で評価するが、いずれか一つでも60点未満の場合は、不合格。また、小レポートの未提出（欠席時は除く）があれば、不合格とする。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	30分程度の毎回の予習。復習として授業に関する小レポート作成に30分。	
教科書・参考書	教科書 斎藤純男 日本語音声学入門(改訂版) 三省堂 2006年 参考書 広瀬肇他 「言語聴覚士のための運動障害性構音障害学」 医歯薬出版	
オフィス・アワー	火曜日12:10～13:00	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	各回のテーマについて、ゼミ単位でディスカッションし、発表する。	

講義科目名称：音響音声学

授業コード：1S066

英文科目名称：Acoustic Phonetics

対象カリキュラム：2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
米本 清			

授業形態	講義形式	担当者
授業計画	第1回 音の種類と伝搬	米本清
	第2回 音の性質を表現するための単位	米本清
	第3回 音の性質を表現する取り決め①（音の強さ）	米本清
	第4回 音の性質を表現する取り決め②（音の周波数）	米本清
	第5回 波形と周波数スペクトル	米本清
	第6回 共鳴と反射	米本清
	第7回 音声の音響的特性	米本清
	第8回 臨床への応用	米本清
科目の目的	音に関する基礎知識を得た上で、自らの聴覚で音を判断できる能力を養うこと。臨床での検査や評価において、決められた手順や基準の根拠となる物理現象を知ること、様々な臨床場面での応用力をつける。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】	
到達目標	言語聴覚に関わる科目や臨床現場で応用できる最低限必要な基礎知識を得ること。聴覚に関わる検査や評価の手順や基準の根拠を知り、それらの説明ができること。	
関連科目	聴覚心理学	
成績評価方法・基準	筆記試験（期末50%、各講義後のミニテスト50%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1時間程度 初回の講義前までに高校数学で習った「べき乗、対数」にかかわる復習をしておくこと。	
教科書・参考書	教科書：言語聴覚士の音響学入門（海文堂）：聴覚心理学と共通 さらに、必要に応じて資料を配布	
オフィス・アワー	なし	
国家試験出題基準	VI-2-A-a [~] f VI-2-B-a [~] c VI-2-C-a [~] e VI-2-D-a [~] c VI-2-E-a [~] c VI-2-F-a [~] d	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	なし	

講義科目名称： 聴覚心理学

授業コード： 1S067

英文科目名称： Psychology of Hearing

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
米本 清			

授業形態	講義形式	担当者
授業計画	第1回 音の3要素（物理量と感覚量）	米本清
	第2回 音の閾値と弁別（可聴範囲）	米本清
	第3回 音の強さと大きさ、周波数と高さ	米本清
	第4回 音の持続時間と大きさ、高さ	米本清
	第5回 臨界帯域	米本清
	第6回 マスキング	米本清
	第7回 両耳聴と音源定位	米本清
	第8回 臨床への応用	米本清
科目の目的	音の物理的特性と人間の感覚との関係を理解すること。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】	
到達目標	自ら聞いた音の特徴を物理的な特性として説明できる。 さまざまな聴覚特性（現象）を臨床場面で応用できる。	
関連科目	音響音声学	
成績評価方法・基準	筆記試験（期末50%、各授業後のミニテスト50%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1時間程度	
教科書・参考書	教科書：言語聴覚士の音響学入門（海文堂）：音響音声学と共通 さらに、必要に応じて資料を配布必要に応じて資料を配布する。	
オフィス・アワー	なし	
国家試験出題基準	VI-3-A-a [~] f VI-3-B-a [~] b VI-3-C-a [~] b VI-3-D-a [~] c	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	なし	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
齊藤 吉人	遠藤俊介		

授業形態	オムニバス方式／全15回 講義16時間 演習14時間		担当者
授業計画	第1回	音声言語の普遍的特徴とスピーチチェーン 音声言語の普遍的特徴・象徴性・恣意性・線状性・統語性・再帰性・形態素・形態素・音素・二重分節性・カテゴリー知覚・言語の構成要素	齊藤吉人
	第2回	音声言語の普遍的特徴とスピーチチェーン 音声言語の普遍的特徴・象徴性・恣意性・線状性・統語性・再帰性・形態素・音素・二重分節性・カテゴリー知覚・言語の構成要素	齊藤吉人
	第3回	前言語期の発達：コミュニケーション行動の発達、発声行動・言語音知覚の発達、感覚運動的知能の発達 コミュニケーション機能獲得段階・社会的参照・共同注意・喃語・分節化 ピアジェの発達段階論・感覚運動期・前操作期・具体的操作期・形式的操作期	齊藤吉人
	第4回	1～2歳の言語発達：初語の出現・語彙の増加、言語発達を促す大人の関わり、構文の発達、象徴機能の発達 過大汎用・語彙爆発期・即時マッピング・制約理論・発達の最近接領域・インリアル・アプローチ・記号・シグナル・インデックス・シンボル・延滞模倣・ふり遊び・見立て遊び・	齊藤吉人
	第5回	幼児前期の言語発達 語彙・構文の発達、談話能力の発達	遠藤俊介
	第6回	幼児後期の言語発達 文知覚のストラテジー・意味方略・語順方略・助詞方略・ディスコース・ナラティブ・会話の公理・こころの理論・音韻意識・特殊音節	遠藤俊介
	第7回	児童期の言語発達：読み書き能力の発達、読解・作文の発達、比喩・皮肉の発達 プレリテラシー・エマージェントリテラシー・ディスレクシア・尊敬語・謙譲語・比喩・皮肉文・推敲	遠藤俊介
	第8回	言語発達を説明する理論：学習説・生得説・認知説・社会・相互交渉説 学習説・生得説・行動主義心理学・オペラント条件づけ・生成文法・言語獲得装置・ピジン・クレオール・ウィリアムズ症候群・言語機能のモジュール性・領域一般性・外言・内言・発達の最近接領域・足場かけ・フォーマット・言語獲得援助システム	遠藤俊介
	第9回	言語発達を促す大人の関わり A. S.	齊藤吉人・遠藤俊介
	第10回	言語発達を促す大人の関わり A. S.	齊藤吉人・遠藤俊介
	第11回	言語発達を促す大人の関わり A. S.	齊藤吉人・遠藤俊介
	第12回	言語発達を促す大人の関わり A. S.	齊藤吉人・遠藤俊介
	第13回	言語発達を促す大人の関わり A. S.	齊藤吉人・遠藤俊介
	第14回	発表 A. S.	齊藤吉人・遠藤俊介
	第15回	発表 A. S.	齊藤吉人・遠藤俊介
科目の目的	小児の言語発達障害においては評価から診断・支援に至るまで、言語発達の正常と異常、背景にある阻害要因に関する知識を欠かすことはできない。言語発達学はその入門にあたる領域で、言語発達に関する基礎的知識を学ぶことを目的とする。 ディプロマポリシー：【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 各言語期の発達の特徴が説明できる。 言語獲得を説明する理論について、大まかに述べる事が出来る。 言語発達を促す大人の関わりについて具体的に示すことができる。 		
関連科目	言語発達障害学、言語発達障害評価法、言語発達障害支援論、言語聴覚障害診断学		
成績評価方法・基準	成績評価＝毎回提出するまとめ(8%)＋ゼミ活動への貢献度(30%)＋定期試験成績(62%)。100点満点に換算して60点以上を合格とし単位を与える。		

準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	あらかじめ授業計画に示されている講義内容該当部分を教科書で確認しておく（毎回45分程度）。講義後は配布された「標準的まとめ」で復習をする（毎回45分程度）。
教科書・参考書	教科書：深浦順一等編：言語発達障害学, 第3版, 医学書院, 2021 参考書：大森孝一等編：言語聴覚士テキスト, 第3版, 医歯薬出版, 2018
オフィス・アワー	月～金の昼休み
国家試験出題基準	VIAa～d VIBa～c VICa～d VIDa～c VIEa～c
履修条件・履修上の注意	AL=アクティブ・ラーニング AS=アクティブ・ラーニング・ゼミ 毎回の授業の最後に授業の「まとめ」を作成する。1回の「まとめ」の提出に対し1点が与えられる。毎回の授業終了後、講義資料と「標準的まとめ」をActive Academyにて配信する。
アクティブ・ラーニングの実施	「言語発達を促す大人の関わり」をテーマにAL及びASを実施する。
実務経験のある教員による授業	
実務経験	齊藤吉人（言語聴覚士） 遠藤俊介（言語聴覚士）
授業の概要	子供たちは、誕生後数年のうちに、基本的な言語能力のほとんどを身につけてしまう。なぜ子供たちは言語を獲得できるのか、どのように獲得していくのか、言語発達の道筋について理解する。まず「聞く」「話す」しくみと働き、ことばの生物学的基礎を学習する。さらに、前言語期、語彙獲得期、前期構文獲得期、中期構文獲得期、学童期の言語発達を概観する。そして、人間に特有の言語獲得の背景にどのようなメカニズムがあるのか、それを説明する理論を学ぶ。また、講義を踏まえ、言語発達を促す大人の子どもへの適切な関わり方について、ゼミ毎に演習形式で検討し、発表する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
齊藤 吉人	齊藤 吉人		

授業形態	講義8回, AS		担当者
授業計画	第1回	リハビリテーションとは rehabilitationの歴史と思想、定義	齊藤 吉人
	第2回	疾病と障がい 障がいとは何か、ICD, ICIDH, ICF	齊藤 吉人
	第3回	リハビリテーションの領域 医学的リハビリテーションとリハビリテーション関連職種, AS	齊藤 吉人
	第4回	リハビリテーションの領域 職業的リハビリテーション, 教育的リハビリテーション, AS	齊藤 吉人
	第5回	リハビリテーションの過程 疾病と障がい, 急性期～維持期, 医療としてのリハ, AS	齊藤 吉人
	第6回	障がいと社会制度 国際障害者権利条約, 障害者基本法, 身体障害者福祉法, 障害者手帳, 介護保険, AS	齊藤 吉人
	第7回	地域リハビリテーション 地域資源、行政サービス、在宅ケア, AS	齊藤 吉人
	第8回	障がい者と社会参加, まとめとレポート課題解説 バリアフリーとユニバーサルデザイン, 障がい者と地域, AS	齊藤 吉人
科目の目的	ICFでは障害を機能障害、生活制限、参加制約としており、機能障害だけを障害とはしていない。したがって、リハビリテーションの対象は機能障害へのアプローチみならず、生活制限や参加制約へのアプローチも含むものであることを理解する。【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】		
到達目標	ICFの概念を具体例を挙げて説明できる。リハビリテーションの全体的な体系を説明できる。		
関連科目	チーム医療とリハビリテーション		
成績評価方法・基準	ASへの貢献度(30%)、聴講票(10%)、レポート課題(60%)。100点満点換算で60点以上得た者に単位を与える。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前に配布する講義資料の該当部分およびテキストの該当部分を予習する(各回45分程度)。各回の内容と演習を復習する(各回45分程度)		
教科書・参考書	教科書：上田敏著：ICFの理解と活用、きょうされん、2005		
オフィス・アワー	月～金の昼休み		
国家試験出題基準	I-1-A-b ^{~f} II-4-A-a ^{~b} VII-1-A-a ^{~b} VII-1-B-a [~] VII-1-F-a ^{~k} VII-1-G-a ^{~d} VII-2-A-a ^{~b} VII-2-B ^{~F} VIII-1-A-a ^{~c} VIII-1-B-a ^{~b} VIII-1-C-a ^{~e}		
履修条件・履修上の注意	AL=アクティブ・ラーニング AS=アクティブ・ラーニング・ゼミ		
アクティブ・ラーニングの実施	AL及び ASを実施する		
実務経験のある教員による授業			
実務経験	齊藤 吉人 (言語聴覚士)		
授業の概要	リハビリテーションは、医学的リハビリテーションから社会的、職業的リハビリテーションまで広範な概念を含むものである。その実践はさまざまな専門職がチームを組んで実践している。ここでは、領域を超えた包括的な視点に立って、リハビリテーションの概念とその実際について学習する。すなわち、リハビリテーションの定義、国際生活機能分類(ICF)、障害受容、リハビリテーション評価と過程ならびに諸段階、成長と発達及び加齢と老化、疾病と障害に対するアプローチ、リハビリテーションの専門分野と専門職種などについて学ぶ。		

講義科目名称： チーム医療とリハビリテーション

授業コード： 1S073

英文科目名称： Rehabilitation and Team Care

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
神山 政恵	馬場 順子 村田 和香	岡崎 大資 浅田 春美	三浦 康子
	丹下 弥生	岡田 直純	北村 達夫

授業形態	講義（3）、演習（5）		担当者
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 総論（講義） チーム・アプローチの必要性、保健医療チームの特徴、チームのタイプ</p> <p>第2回 リハビリテーション・チームの役割（講義） 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の役割</p> <p>第3回 グループ・ワークについて（講義） グループ課題情報共有、グループ分け</p> <p>第4~7回 グループワーク（演習4回） 下記の課題を担当するグループを決定し、グループでの役割分担、情報収集、分析、ディスカッション、発表準備を行う。 課題① 高崎市問屋町を生活圏とするために 課題② 大学生生活を快適にする方法 課題③ リハビリテーションを地域住民に知ってもらうために 課題④ 高齢者のための生活の工夫を考える 課題⑤ リハビリテーションの将来を考える</p> <p>第8回 グループ発表（演習） グループ・ワークの結果をまとめ、その学習成果をポスター等により発表し、ディスカッションを行う。</p>		<p>村田・岡崎・神山</p> <p>岡崎・馬場・神山</p> <p>神山・岡崎・馬場</p> <p>岡崎・浅田・北村・村田・馬場・岡田・神山・三浦・丹下</p> <p>岡崎・浅田・北村・村田・馬場・岡田・神山・三浦・丹下</p>
科目の目的	リハビリテーション学部のディプロマ・ポリシーで謳われている「多様化する地域社会の諸問題を理解し、多職種と連携してリハビリテーションを実践できる能力」を目指し、リハビリテーション学部の3学科の学生が共に学ぶ機会を得ることにより、お互いを尊重する姿勢を学ぶ。「リハビリテーション概論」の学修に基づき、学科横断的に編成するグループによる課題解決の過程を通して、チームの概念、チームワークの難しさと効果、リーダーシップ、他者理解の上での交流の在り方、組織管理について学修する。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】		
到達目標	<p>①チーム医療の意味を説明できる。</p> <p>②リハビリテーション・チームの役割を説明できる。</p> <p>③グループ・ワークに積極的に参加することができる。</p> <p>④他者の意見を聞くこと、自らの意見を話すことができる。</p>		
関連科目	多職種理解と連携、リハビリテーション概論、作業療法概論、地域リハビリテーション学		
成績評価方法・基準	グループ・ワークの発表（50%）およびディスカッションを含めた課題をレポートにまとめる（50%）。 レポートのフィードバックは学科担当教員が行う。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義内容、およびグループでの作業を理解し、積極的にグループ・ワークに参加すること。 準備学習に必要な時間の目安は30分程度である。		
教科書・参考書	特に定めない。		
オフィス・アワー	グループ担当教員が昼休み（12：10～13：00）に対応。		
国家試験出題基準	<p>I-1-C-b</p> <p>II-4-C-a[~]c</p> <p>VII-1-F-a[~]k</p> <p>VII-1-G-a[~]d</p> <p>VII-2-A-a[~]b</p> <p>VII-2-B[~]F</p> <p>VIII-1-C-d</p>		
履修条件・履修上の注意			
アクティブ・ラーニングの実施	アクティブ・ラーニングを実施する。		
実務経験のある教員による授業			
実務経験	神山政恵（言語聴覚士）		
授業の概要	3学科でグループを編成し、グループごとに課題を解決し、発表する。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
白坂 康俊			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 コミュニケーションにおける言語という記号の役割と機能（スピーチチェーン）講義 グループ分け	白坂 康俊
	第2回 聴覚言語障がいとは 解説30分 テーマについてグループディスカッション（AS）60分 AS:アクティブラーニング・ゼミ	白坂 康俊
	第3回 評価とは 解説30分 テーマについてグループディスカッション（AS）60分 AD AS	白坂 康俊
	第4回 治療・機能訓練とは 解説30分 テーマについてグループディスカッション（AS）60分 AS	白坂 康俊
	第5回 活動制限と支援 解説30分 テーマについてグループディスカッション（AS）60分 AS	白坂 康俊
	第6回 参加制約と支援 解説30分 テーマについてグループディスカッション（AS）60分 AS	白坂 康俊
	第7回 共生の社会とは 解説30分 テーマについてグループディスカッション（AS）60分 AS	白坂 康俊
	第8回 聴覚障害 グループ発表（AS）	白坂 康俊
	第9回 発達障害 グループ発表（AS）	白坂 康俊
	第10回 失語症 グループ発表（AS）	白坂 康俊
	第11回 高次脳機能障害 グループ発表（AS）	白坂 康俊
	第12回 運動障害性構音障害 グループ発表（AS）	白坂 康俊
	第13回 口蓋裂言語 グループ発表（AS）	白坂 康俊
	第14回 吃音 グループ発表（AS）	白坂 康俊
	第15回 音声障害 グループ発表（AS）	白坂 康俊
科目の目的	言語聴覚障害は機能障がいとしてのコミュニケーションの問題だけでなく、日常行動の制限や社会参加の制約をもたらす。体験も通して、これらの困難、不自由さ、苦痛などを、知識ではなく感覚的なレベルで理解し、他者に発信する。障がいのある方の評価と支援は、世界基準であるICF(国際生活機能分類)に基づいてなされることを理解し、それに基づいた言語聴覚障害の種類、特徴、治療・訓練法を学び、それぞれの障害の特徴に沿った生活ならびに地域や社会への参加の制約の実情を把握し、生活支援、社会参加支援を含めた言語聴覚士の役割を理解する。アクティブラーニングでの学習、グループ学習の方法を習得することでチーム医療の基礎能力を身につける。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】	
到達目標	言語聴覚障がいのある方の困難、不自由さ、苦痛を感覚的に理解し、かつ他者に説明できる。コミュニケーションにおける言語という記号の役割と機能（スピーチチェーン）を説明できる。言語聴覚障がいに対する支援（機能回復、生活支援、社会参加支援等）について説明できる。言語聴覚障がいの種類と種類毎の評価（ICF評価を含む）、支援について説明できる。言語聴覚障がい学（資格制度を含む）の歴史と概要を説明できる。	
関連科目	言語聴覚障害学演習、ICFとリハビリテーション、地域リハビリテーション学	

成績評価方法・基準	聴講票20%、ALの内容、発表60%、レポート20%とする。いずれも60点/100点満点以上をとって合格とする。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	担当するテーマについての自己学習、グループ学習、発表のために毎回1時間程度の準備を要する。
教科書・参考書	教科書：言語聴覚士テキスト 第3版、医歯薬出版
オフィス・アワー	研究室620 月曜午後～木曜昼までの間の昼休み
国家試験出題基準	VII-1-A-a [~] c VIII-1-B-a [~] b VIII-1-C-a [~] e
履修条件・履修上の注意	AL=アクティブラーニング、AS=アクティブラーニング・ゼミ
アクティブ・ラーニングの実施	テーマを提示し、ゼミ単位で調査学習を行い、発表する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
神山 政恵	神山政恵	三浦康子	丹下弥生
	白坂康俊、及川翔	斎藤吉人、遠藤俊介	岡野由実、酒井哲郎

授業形態	講義（ 1 ）、演習（ 7 ）	担当者
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 概論（講義） 各障害の基礎知識について教員が講義し、障害に対する疑似体験の必要性を確認する。</p> <p>第2回 演習 グループワーク（グループ分け・テーマを決める、グループ内の役割、情報収集）AL+AS グループ分けを実施し、疑似体験への準備をする。</p> <p>第3回 演習 グループワーク（主に情報収集・教員への質疑応答）AL+AS 疑似体験の準備として、様々な情報収集を実施する。</p> <p>第4回 演習 グループワーク（疑似体験）AL+AS 疑似体験実施</p> <p>第5回 演習 グループワーク（疑似体験）AL+AS 疑似体験実施</p> <p>第6回 演習 グループワーク（疑似体験のまとめ）AL+AS 教員に質問があれば、質問する。</p> <p>第7回 演習 グループワーク（疑似体験のまとめ）AL+AS 教員に質問があれば、質問をする。各グループ内のまとめを行う。</p> <p>第8回 演習 グループワーク発表会 グループワークの内容をまとめる。</p>	<p>神山</p> <p>神山・三浦・丹下・白坂・斎藤・岡野・遠藤・酒井・及川</p> <p>神山・三浦・丹下・白坂・斎藤・岡野・遠藤・酒井・及川</p> <p>神山・三浦・丹下・白坂・斎藤・岡野・遠藤・酒井・及川</p> <p>神山・三浦・丹下・白坂・斎藤・岡野・遠藤・酒井・及川</p> <p>神山・三浦・丹下・白坂・斎藤・遠藤・酒井・及川</p> <p>神山・三浦・丹下・白坂・斎藤・遠藤・酒井・及川</p> <p>神山・三浦・丹下・白坂・斎藤・遠藤・酒井・及川</p> <p>神山・三浦・丹下・白坂・斎藤・遠藤・酒井・及川</p>
科目の目的	<p>授業で学んだことが臨床現場で直ぐに生かせる訳ではない。臨床現場に出た場合に、学生の能力だけではなく、様々な現場による制約が生じるからである。そのためには、社会の中で対象者の苦慮や不自由さを疑似体験し、社会参加の困難さを十分理解すること、さらに対象者のニーズを把握することを学修する。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】</p>	
到達目標	<p>①肢体障害、視覚障害、聴覚障害、言語系の障害、発語障害、摂食・嚥下障害の各障害の概要を理解出来る。②各障害の疑似体験を実施する。③各障害の社会生活上の困難さについて説明することが出来る。④各障害を持つ対象者のニーズについて説明することが出来る。</p>	
関連科目	<p>言語聴覚障害学概論、言語聴覚障害診断学、言語聴覚障害臨床論、地域リハビリテーション学、地域参加支援総論</p>	
成績評価方法・基準	<p>グループ・ワークの貢献度（50%）、毎回のレポート（50%）を基準として100点満点で評価し、総合で60%を合格ラインとする。</p>	

準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義内容、およびグループでの作業を理解し、積極的に疑似体験とグループ・ワークに参加すること。準備学習に必要な時間は30分程度である。
教科書・参考書	参考書：「言語聴覚士のための運動障害性構音障害」医歯薬出版
オフィス・アワー	研究室622 月曜日午後 火曜～金曜日は担当授業のない時間 不在時はメール連絡
国家試験出題基準	VIII-1-B-a [~] b VIII-1-C-a [~] e
履修条件・履修上の注意	AL=アクティブ・ラーニング、AS=アクティブ・ラーニング・ゼミ 資料は1週間前にAAにて配信する。
アクティブ・ラーニングの実施	アクティブ・ラーニングを実施する。
実務経験のある教員による授業	
実務経験	神山 政恵（言語聴覚士）白坂 康俊（言語聴覚士）齊藤 吉人（言語聴覚士）三浦 康子（言語聴覚士）丹下 弥生（言語聴覚士）岡野 由実（言語聴覚士）遠藤俊介（言語聴覚士）酒井哲郎（言語聴覚士）及川翔（言語聴覚士）
授業の概要	肢体障害、視覚障害、聴覚障害、言語系障害、発語障害、摂食・嚥下障害の疑似体験を演習する。日常生活から地域・社会参加の困難を体験し、障害を持つ対象者の苦痛や不自由さについて話を聞き、自ら模擬体験することにより、障害を持つ対象者のニーズを深く理解する。

講義科目名称： 言語聴覚障害診断学

授業コード： 1S078

英文科目名称： Speech-Language-Hearing-Disorder Diagnosis

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
神山 政恵	神山政恵		

授業形態	講義 (8回)	演習 (7回)	担当者
授業計画	第1回	講義 オリエンテーションとモデルプレゼンテーション (失語症)	神山
	第2回	講義 モデルプレゼンテーションの方法と、内容、注意点、診断とICF 診断の流れ SV:白坂・三浦	神山
	第3回	講義 高次脳機能障害の診断の流れ sv:神山	神山
	第4回	講義 知的発達障害の診断の流れ1、 知的発達障害の診断の流れ2 sv:斎藤、遠藤	神山
	第5回	講義 聴覚障害の評価の流れ1 (小児) 聴覚障害の評価の流れ2 (成人) SV:岡野	神山
	第6回	講義 器質性・機能的構音障害の評価の流れ1、器質性・機能的構音障害の評価の流れ2 sv:三浦	神山
	第7回	講義 発声発語・嚥下障害の評価の流れ1、発声発語・嚥下障害の評価の流れ2 sv:丹下	神山
	第8回	講義 非流暢性発話障害の評価の流れ、講義まとめ SV:遠藤	神山
	第9回	グループワーク AS+AL	神山
	第10回	グループワーク AS+AL	神山
	第11回	グループワーク AS+AL	神山
	第12回	グループワーク AS+AL	神山
	第13回	グループワーク (学生によるプレゼンテーション) AS+AL	神山
	第14回	グループワーク (学生によるプレゼンテーション) AS+AL sv:斎藤、及川	神山
	第15回	講義・演習のまとめ、質疑応答	神山
科目の目的	コミュニケーション障害である言語聴覚障害の種類とその原因疾患、各障害の発現メカニズムを理解し、障害の特徴と診断方法を学修し、それらの障害の対象者のQOLの確保や復権に結びつくことを理解する。【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】		
到達目標	①聴覚障害、失語症、高次脳機能障害、器質性・機能的・運動障害性構音障害、音声障害、吃音、脳性麻痺を含む発達性障害の概要を説明できる。②各障害の検査法や診断法について学修する。③単に各障害の類型を記述できるだけでなく、言語処理過程の中での位置づけを正しく認識できる。④最終的には診断・評価はその対象者のQOL確保や復権に結びつくことを理解することが目標となる。		
関連科目	言語聴覚障害学概論、言語聴覚障害学演習、言語聴覚障害臨床論、地域リハビリテーション学、地域参加支援総論		
成績評価方法・基準	グループ・ワークの貢献度 (30%)、レポート：各講義のまとめ (30%)、筆記試験 (40%) で、総合点100点満点で評価し、60点以上を合格とする。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	グループワークの準備に必要な時間は40分程度である。グループワーク内では他者の意見を尊重し、自分からも発信することも大切である。		
教科書・参考書	参考書：「ICF国際生活機能分類改訂版」中央法規出版		
オフィス・アワー	研究室622 月曜日午後、火曜日～金曜日 担当授業のない時間 不在の時はメール連絡		
国家試験出題基準	VIII-2-A-a~c VIII-2-B-a~c		

履修条件・履修上の注意	AL=アクティブ・ラーニング、AS=アクティブ・ラーニング・ゼミ 資料は1週間前にAAにて配信する。
アクティブ・ラーニングの実施	アクティブ・ラーニングを実施する。
実務経験のある教員による授業	
実務経験	神山政恵（言語聴覚士）
授業の概要	グループごとにアクティブ・ラーニングを実施し、言語聴覚障害の診断について調べ、発表する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
齊藤 吉人	齊藤 吉人		

授業形態	講義15回, AS6回, AT1回		担当者
授業計画	第1回	地域リハビリテーションとは 地域リハの定義、歴史、理念を理解する。	齊藤 吉人
	第2回	地域リハビリテーションとICF ICFの理念とそれに基づく地域リハビリテーションの在り方を理解する。	齊藤 吉人
	第3回	インクルージョンとは何か 社会統合のための思想インクルージョンはどのように生み出されたか、その歴史を理解する。	齊藤 吉人
	第4回	障害者権利条約と合理的配慮 21世紀では初の人権条約として障害者権利条約が2006年に第61回国連総会において採択された。日本政府は国内法の整備に時間を要し2014年ようやく批准が承認された。批准に至るまでの経緯とこの条約で義務づけされた合理的配慮の内容を理解する。	齊藤 吉人
	第5回	これからの日本社会 日本はこれから急速な人口減少社会へと向かっていく。そこで予測されている様々な課題について理解する。	齊藤 吉人
	第6回	地域包括ケアシステム 地域包括ケアシステムとは、要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで続けることができるように地域内で助け合う体制のことである。地域包括ケアシステムは、それぞれの地域の実情に合った医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される体制を目指している。群馬県における取組を知り、目指すべきケアシステムの方向性を理解する。	齊藤 吉人
	第7回	地域リハの現状とSTの役割 地域リハビリテーションに完成型はない。一人一人のこれからの問題として捉える必要がある。そこで、地域リハビリテーションの内容と動向を学ぶ。そして、高崎・群馬・北関東の実情を知り、これからの地域リハビリテーションの課題を考える。	齊藤 吉人
	第8回	地域リハ活動への参加 障がい児者を対象とした地域活動に参加する(AT)。	齊藤 吉人
	第9回	社会資源の活用 アクティブラーニングの結果の発表(AS)。地域参加、地域リハビリテーションにおいて活用可能な社会資源(フォーマル・インフォーマル)はなにか。(担当A班 SV:三浦)	齊藤 吉人 +AS
	第10回	群馬、高崎における地域参加の実情 アクティブラーニングの結果の発表(AS)。地域参加の実情を、実際の高崎、群馬の事例で考える。(担当B班 SV:丹下)	齊藤 吉人 +AS
	第11回	バリアフリーとユニバーサルデザイン アクティブラーニングの結果の発表(AS)。バリアフリーとユニバーサルデザインの理念、現状、課題を考える。(担当C班 SV:白坂)	齊藤 吉人 +AS
	第12回	小児の地域参加 アクティブラーニングの結果の発表(AS)。小児の障がい、発達障がいにおける社会参加の課題を考える。(担当D班 SV:齊藤)	齊藤 吉人 +AS
	第13回	就学支援 アクティブラーニングの結果の発表(AS)。地域参加の実際と課題を就学という視点から検討する。(担当E班 SV:岡野)	齊藤 吉人 +AS
	第14回	就労支援 アクティブラーニングの結果の発表(AS)。地域参加の実際と課題を就労という視点から検討する。(担当F班 SV:及川)	齊藤 吉人 +AS
	第15回	まとめ まとめとレポート課題解説	齊藤 吉人
科目の目的	言語聴覚障がい児者の地域参加を実現するためには、それぞれの機能障害へのアプローチと同時に、生活上の制限に対するアプローチや、障がい児者を取り巻く物理的・制度的バリアーや情報・こころのバリアーの解消に向けたアプローチも必要となる。実際の支援では地域資源(人・制度・環		

	境)の利用が重要な要素であり、実践を行いながら、地域資源の調査や実践的な連携も行っていく。担当教員全員で実施する。【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】
到達目標	言語聴覚障がい児者の地域参加を実現するための生活上の制限に対するアプローチや、障がい児者を取り巻く物理的・制度的バリアーや情報・こころのバリアーの解消に向けた方法論を理解し説明できる。
関連科目	ICFとリハビリテーション, チーム医療とリハビリテーション, 言語聴覚障害学概論, 言語聴覚障害学演習, 言語聴覚障害学診断学, 見学実習
成績評価方法・基準	ASへの貢献度(30%)、ATの参加報告書(10%)、レポート課題(60%)。100点満点換算全体で60%以上得た者に単位を与える。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前に配布する講義資料の該当部分およびテキストの該当部分を予習する(各回45分程度) 各回の内容を復習する(各回45分程度) アクティブラーニングでは与えられた課題を事前に準備する(1時間程度)
教科書・参考書	教科書：言語聴覚士テキスト第3版, 医歯薬出版, 2018.
オフィス・アワー	月～金の昼休み
国家試験出題基準	I-1-A-b~f I-1-C-c I-1-H-a I-1-K-a VII-1-A-a~b VII-1-B-a VII-1-F-a~k VII-1-G-a~d VII-2-A-a~b VII-2-B~F VIII-1-C-e
履修条件・履修上の注意	AL=アクティブ・ラーニング AS=アクティブ・ラーニング・ゼミ AT=アクティブ・トレーニング 講義資料は講義の1週間前までにアクティブ・アカデミーにて配信する。講義当日はPCまたはタブレットで閲覧可能な状態で講義に臨むこと。
アクティブ・ラーニングの実施	ASとATを実施する。
実務経験のある教員による授業	
実務経験	齊藤吉人(言語聴覚士)
授業の概要	全ての人々がより良い生活を実践し、安寧で豊かな人生を達成するための関わりをもつリハビリテーションの意義と目的について学習する。地域で生活する高齢者・障がい者の生活上の問題や課題を理解し、特にコミュニケーション障害の意味を考える。それらを解決するための具体的方法について、言語聴覚士の持つ視点・価値観を共有し、地域リハビリテーションの意味について学習する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
三浦 康子			

授業形態	講義と一部演習	担当者
授業計画	<p>第1回 失語症を知る：失語症の定義 DVD症例を通して失語症を概観する。</p> <p>第2回 失語症の神経学的基盤、失語症の原因疾患</p> <p>第3回 失語の言語症状1 (AL+AS) DVDを通して日常生活における言語症状を理解する</p> <p>第4回 失語の言語症状2 (AL+AS) 失語の言語症状と周辺症状、随伴症状</p> <p>第5回 失語のタイプ分類 古典的失語症候群</p> <p>第6回 失語のタイプ分類 その他の失語症候群</p> <p>第7回 失語のタイプ分類 (AL+AS) 典型例をDVD症例を通し観察、記述する。</p> <p>第8回 失語症の評価と診断1 臨床の流れ、情報収集、機能的評価、定型的評価と非定型的評価、総合的失語症検査、ICFによる評価</p> <p>第9回 失語症の評価・診断2 (AL+AS) 掘り下げ検査 関連領域の評価</p> <p>第10回 失語症の訓練と支援1 機能的訓練の理論と技法</p> <p>第11回 失語症の訓練と支援2 (AL+AS) 機能的訓練の実際(ミニ演習)、生活・参加場面での支援を考える(グループワーク)</p> <p>第12回 失語症の訓練と支援3(グループワーク) AL+AS ICFの観点から失語症訓練、支援を考える。ICFのフレームワーク</p> <p>第13回 失語症者を知る：失語症者の支援・活動・社会参加 (AL+AS) ゲストスピーカー(失語症者)</p> <p>第14回 失語症者への支援：地域参加・社会参加・人権擁護 (AL+AS) ゲストスピーカー(当事者団体会長予定)</p> <p>第15回 まとめ (AL+AS) 機能的回復曲線、環境調整、失語症者への地域支援など</p>	<p>三浦</p> <p>三浦</p> <p>三浦</p> <p>三浦</p> <p>三浦</p> <p>三浦</p> <p>三浦</p> <p>三浦</p> <p>三浦</p> <p>三浦</p> <p>三浦</p> <p>三浦</p> <p>三浦</p> <p>三浦</p> <p>三浦</p> <p>三浦</p> <p>三浦</p>
科目の目的	失語症者や家族が直面する困難に対し、言語・コミュニケーションの観点から包括的にアプローチし、問題解決に向けた支援の方法を考えることができる。そのための失語に関する基礎的事項を学ぶ。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 失語症の定義を理解し他の障害と鑑別することができる。 2. 失語症の言語症状を理解し説明することができる。 3. 失語症の評価方法とリハビリテーションについて理解することができる。 4. ICFの観点から失語症者の問題を捉え、機能的側面だけでなく生活面でのコミュニケーション支援、社会参加や環境調整の方法を考えることができる。 	
関連科目	ICFとリハビリテーション、言語学、高次脳機能障害学、局所解剖学、脳神経外科学、神経内科学、リハビリテーション医学、言語系障害演習、失語・高次脳機能障害評価法、失語・高次脳機能障害支援論、AACと教材学	
成績評価方法・基準	毎回の授業のレポート及び小テスト提出と内容評価で40点、筆記試験60点、それぞれで60%以上、全体を100点満点とし、60点以上で合格とする。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前に配布する講義資料及びテキストの該当部分を毎回予習、復習することが望ましい。後期の高次脳機能障害学、また3年、4年次の関連領域の学修や臨床実習にあたっては、基礎となる科目なのでしっかり理解をして欲しい。準備学習に必要な時間は30分である。	
教科書・参考書	<p>教科書：①藤田郁代、立石雅子、菅野倫子編『標準言語聴覚障害学 失語症学第3版』医学書院 ②医療情報科学研究所編『病気がみえるvol.7 脳・神経』メディックメディア</p> <p>参考書：①紺野加奈江著『失語症言語治療の基礎』診断と治療社 ②小島和幸編『失語症の評価と治療』金原出版株式会社</p>	
オフィス・アワー	月～木曜日 但し、講義、会議時を除く。(可能であれば事前確認をして欲しい)	

国家試験出題基準	【言語聴覚士】 IV-1-A、B-a～E-b、2-A-a～K-d
履修条件・履修上の注意	資料はAAにて配信または講義時に配布する。
アクティブ・ラーニングの実施	講義内容に対応させたAS単位でのグループワーク、ディスカッション、発表によるアクティブラーニングを行う。
実務経験のある教員による授業	
実務経験	三浦康子（言語聴覚士）
授業の概要	失語症の原因疾患と基礎的言語症状、神経学的メカニズムとの関連を学ぶ。リハビリテーションでは、低下した機能の改善だけでなく、残存機能を生かすことも重要である。日常生活や社会参加といった視点での支援の重要性を理解する。また、失語症者と対応する周囲の人達が失語症者の特徴を理解し、コミュニケーションスキルを高めることも重要であり、環境調整の方法も学ぶ。ゲストスピーカーを招き、より具体的なお話を伺うとともに失語症者のご家族や当事者との対応を経験する。さらに、周囲の人たちがコミュニケーションのスキルを高めることも重要であること、及び環境調整の方法も学ぶ。

講義科目名称： 高次脳機能障害学

授業コード： 1S083

英文科目名称： Higher Brain Dysfunction

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
神山 政恵	神山政恵		

授業形態	講義（10回）＋演習（5回）		担当者
授業計画	第1回	高次脳機能障害とは AL＋AS	神山政恵
	第2回	中枢神経系の構造・機能1 AL＋AS	神山政恵
	第3回	中枢神経系の構造・機能2 AL＋AS	神山政恵
	第4回	意識障害(評価と訓練を含む) AL＋AS	神山政恵
	第5回	注意障害(評価と訓練含む) AL＋AS	神山政恵
	第6回	記憶障害(評価と訓練含む) AL＋AS	神山政恵
	第7回	視空間認知障害(評価と訓練含む) AL＋AS	神山政恵
	第8回	失認(評価と訓練含む) AL＋AS	神山政恵
	第9回	認知症1(評価と訓練含む) AL＋AS	神山政恵
	第10回	認知症2(評価と訓練含む) AL＋AS	神山政恵
	第11回	行為・動作の障害(評価と訓練含む) AL＋AS	神山政恵
	第12回	前頭葉障害と脳離断症状(評価と訓練含む) AL＋AS	神山政恵
	第13回	高次脳機能障害のICFに沿った評価と支援1 AL＋AS	神山政恵
	第14回	高次脳機能障害のICFに沿った評価と支援2 AL＋AS	神山政恵
	第15回	高次脳機能障害のICFに沿った評価と支援3、まとめと質疑応答 AL＋AS	神山政恵
科目の目的	神経心理学と神経学的視点から高次脳機能障害のメカニズムを学び、さらにICFに基づいた、診断・評価、リハビリテーション・支援の実際を学ぶことを目的とする。【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】		
到達目標	1. 脳の機能には複雑な認知機能、随意性や制御を司る機能があることを理解する。 2. 1の概念を知るためには脳の構造と心の動きがあることを理解する。 3. 大脳の損傷により生じる高次脳機能障害の神経心理学的背景や症候を理解し、そのリハビリテーションを学ぶ。		
関連科目	神経内科学、脳神経外科学、局所解剖学、失語症学、失語・高次脳機能障害評価法、失語・高次脳機能障害支援論、AACと教材学、リハビリテーション医学、ICFとリハビリテーション、地域社会学、地域参加支援総論		
成績評価方法・基準	毎回の聴講票の提出20%。演習時のグループワークの貢献度20%、定期試験を60%とし、それらの総合点で60%以上を合格とする。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	グループワークの準備に必要な時間は30分程度である。		
教科書・参考書	教科書：標準言語聴覚障害学「高次脳機能障害学」第3版、医学書院 参考書：「病気がみえる」vol.7脳・神経、メディックメディア		
オフィス・アワー	研究室622 月曜日午後 水曜日～金曜日担当授業のない時間 不在時はメール連絡。		
国家試験出題基準	X1～X3		
履修条件・履修上の注意	AL=アクティブ・ラーニング AS=アクティブ・ラーニング・ゼミ 資料はAAにて1週間前に配信する。		
アクティブ・ラーニングの実施	演習時はアクティブ・ラーニングとアクティブ・ラーニング・ゼミを実施する。		

実務経験のある教員による授業	
実務経験	神山政恵（言語聴覚士）
授業の概要	言語聴覚士に必要な高次脳機能障害の様々な症状や評価について総合的に学修する。

講義科目名称： 言語発達障害学

授業コード： 1S086

英文科目名称： Language Development Disorders

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
齊藤 吉人	齊藤吉人	遠藤俊介	

授業形態	講義15回 オムニバス形式で実施する。		担当者
授業計画	第1回	先天性聴覚障害 聴覚系・音圧増強作用・周波数分析	齊藤吉人
	第2回	先天性聴覚障害 伝音性難聴・感音性難聴・身体障害者福祉法・語音周波数帯域・早期発見と早期からの聴覚補償	齊藤吉人
	第3回	コミュニケーション障害体験演習・自閉症スペクトラム障害	齊藤吉人
	第4回	自閉症スペクトラム障害 心の理論障害仮説・中枢性統合障害仮説・遂行機能障害仮説・サリーとアンの実験・CARS・PEP-3	齊藤吉人
	第5回	知的障害 比率IQと偏差IQ・ダウン症候群・脳性麻痺・髄膜炎	齊藤吉人
	第6回	知的障害 象徴機能の獲得・スモールステップ・ふるい分け・選択・ウイリアムズ症候群・カクテルパーティ・言語機能のモジュール性	齊藤吉人
	第7回	特異的言語発達障害 言語症・表出性言語障害・受容-表出混合性言語障害・非流暢性障害	齊藤吉人
	第8回	限局性学習障害 学習障害・音韻ルート・意味ルート	齊藤吉人
	第9回	重複障害 脳性麻痺・脳室周囲白質軟化症(PVL)・重症心身障害児(者)	齊藤吉人
	第10回	重複障害 癱直型・アトニー型・低緊張型・失調型・二次障害・学習性無力感	齊藤吉人
	第11回	不適切な育児環境 廃用症候群・誤用症候群・過用症候群・刷り込み・敏感期	齊藤吉人
	第12回	不適切な育児環境 ホスピタリズム・母性的養育の剥奪・アタッチメント・ストレンジ・シチュエーション法・摂食機能獲得段階・INREAL法	齊藤吉人
	第13回	臨床現場最前線 埼玉県立小児医療センターの臨床の実際	遠藤俊介
	第14回	臨床現場最前線 埼玉県立小児医療センターの臨床の実際	遠藤俊介
	第15回	臨床現場最前線 埼玉県立小児医療センターの臨床の実際	遠藤俊介
科目の目的	小児言語聴覚障がい阻害要因を通して、言語発達障がいのタイプ、発生機序、症状、評価・診断・支援の原則と流れについて学ぶ。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】		
到達目標	小児の各言語障がいについて概略が把握できることを到達目標とする。		
関連科目	言語発達学、言語発達障害評価法、言語発達障害支援論、言語聴覚障害診断学		
成績評価方法・基準	評価点＝毎回提出するまとめ(15%)＋定期試験成績(85%)。100点満点換算で60点以上を合格とし単位を与える。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	あらかじめ授業計画に示されている講義内容該当部分を教科書で確認しておく(毎回45分程度)。講義後は配布された「標準的まとめ」で復習をする(毎回45分程度)。		
教科書・参考書	教科書：深浦順一等編：言語発達障害学, 第3版, 医学書院, 2021 参考書：大森孝一等編：言語聴覚士テキスト, 第3版, 医歯薬出版, 2018 山田弘幸編著：言語聴覚士のための心理学, 第2版, 医歯薬出版, 2020		
オフィス・アワー	齊藤吉人 月～金の昼休み 遠藤俊介 月～金の昼休み		
国家試験出題基準	XI-1-A～D XI-2-A～D XI-3-A～D		

履修条件・履修上の注意	毎回の授業の最後に授業の「まとめ」を作成する。1回の「まとめ」の提出に対し1点が与えられる。ただし、正答が60%を超えない場合、「まとめ」とは認めない。毎回の授業終了後、講義資料と「標準的まとめ」をActive Academyにて配信する。定期試験は「標準的まとめ」から出題される。
アクティブ・ラーニングの実施	実施しない。
実務経験のある教員による授業	
実務経験	齊藤古人（言語聴覚士） 遠藤俊介（言語聴覚士）
授業の概要	正常な言語発達と発達の障害について理解する。発達障害の原因疾患と様態、特に知的障害と広汎性障害の違いを理解し、またADHDなどの関連疾患についても理解する。発達障害のリハビリテーションは、正常児に追いつくことではなく、あくまでその個人の中での発達の促進であることを学ぶ。社会や地域への参加、将来の就労の領域での支援を学ぶ。

講義科目名称： 病理音声学

授業コード： 1S089

英文科目名称： Pathological Phonetics

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
白坂 康俊			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第一回 発声発語・摂食・嚥下器官形態（正中断面）、機能、神経支配、音声記号	白坂康俊
	第2回 中枢神経系、抹消神経系の機能。機能性、器質性、運動障害性障がいそれぞれの違い	白坂康俊
	第3回 運動障がいのタイプ別の様態	白坂康俊
	第4回 器質性構障がい(舌癌術後、口蓋裂)と機能性構音障がいの様態	白坂康俊
	第5回 母音子音の構音異常の発現メカニズム	白坂康俊
	第6回 鼻咽腔閉鎖不全の構音異常の発現メカニズム	白坂康俊
	第7回 母音子音の構音異常の発現メカニズム	白坂康俊
	第8回 プロソディの異常の発現メカニズム	白坂康俊
	第9回 摂食・嚥下障がいの様態	白坂康俊
	第10回 構音の障がいと摂食・嚥下障がいの関連性	白坂康俊
	第11回 発声発語器官を用いる発語と摂食以外の動作	白坂康俊
	第12回 発声発語器官の障がいをもたらすアクティビティへの影響	白坂康俊
	第13回 発声発語器官の障がいをもたらす社会参加への影響	白坂康俊
	第14回 定型的評価と非定型的評価	白坂康俊
	第15回 評価から支援へ	白坂康俊
科目の目的	運動系の言語聴覚障害を理解する。運動系の障害の共通の発生メカニズムにそって障害類型の分類を理解する。そして、各障害類型における運動性、器質性、機能性の視点からの評価とその特徴にそって治療訓練を行われることを理解する。【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	発声発語器官の機能が理解でき、それぞれの機能低下によって、どんな症状が起こるか説明できる。症状を与えられた時に、その発現機序がある程度推定できる。機能訓練のプログラムとの関連性を説明できる。	
関連科目	病理音声学。言語学。発声発語・嚥下障害評価法。器質性・機能性発話障害支援論。運動性発話障害支援論。非流暢性発話支援論。摂食・嚥下障害支援論。	
成績評価方法・基準	授業の小レポート（20%）、ALの参加状況とプレゼン内容（20%）、筆記試験（60%）。小レポート、AL、筆記試験（各100点満点）の総合点（重み付けは、上記の比率とする）で評価するが、いずれか一つでも60点未満の場合は、不合格。また、小レポートの未提出（欠席時は除く）があれば、不合格とする。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習ならびに、復習としての授業の小レポートそれぞれに30分を要する。	
教科書・参考書	テキスト 廣瀬肇他「言語聴覚士のための運動障害性構音障害学」 医歯薬出版 2001年 参考書・参考資料等 授業時に配布する	
オフィス・アワー	火曜日12:10分～13:00	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		

アクティブ・ラーニングの実施	一部、テーマを提示してゼミ単位でディスカッション後、発表する。
----------------	---------------------------------

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
三浦 康子	三浦康子	清水充子	

授業形態	講義＋簡易演習 理解を深めるために簡易演習を行いながら、画像・動画などを提供しより具体的に解説する。		担当者
授業計画	第1回	摂食嚥下障がいとは？人にとって食べることの意義。摂食嚥下障がい評価の概要 摂食嚥下障がいをもたらす問題や苦痛。摂食嚥下リハの位置づけ	清水
	第2回	基礎評価の意義とリハ適応、スクリーニングテスト、誤嚥兆候の診方（AL+AS） 嚥下機能のメカニズムを理解し基礎評価の重要性を学ぶ。	清水
	第3回	問診・情報収集、嚥下器官の機能評価、（AL+AS） 基本的な摂食嚥下評価の流れを学ぶ。嚥下器官の機能評価では、視診、触診（喉頭 挙上、舌骨の可動性）などについて演習を行う。	清水
	第4回	水飲みテスト・フードテストの解説と演習、咀嚼評価（AL+AS） 学生同志実際に行うことで手技を確認し、患者役になることでハンドリングや指示 の出し方などの重要性を知る。	清水
	第5回	頸部聴診法（AL+AS） 呼吸と嚥下のメカニズムを学んだ上で頸部聴診法の手順を理解し演習をおこなう。	清水
	第6回	食事場面の観察・食形態の評価、ICF評価から生活支援、地域参加へ（AL+AS） 自験例動画を提示し、食事場面評価のポイント・周辺症状について解説する。症例 を通して摂食嚥下障がいにおけるICF評価演習を行う。	清水
	第7回	VF・VE検査 評価の実際とVF画像読影のコツを解説する。VF画像解剖図記入ワークおよび解説。	清水
	第8回	発声発語障がい ①臨床の流れと評価の概要（AL+AS） 情報の収集、インテークについては、ASごとにディスカッション、発表し、全体で 共有することで理解深める。	三浦
	第9回	②構音の評価 構音検査（AL+AS） 新版 構音検査の内容と実施方法を解説。構音検査実施例（画像）を提供し、単語 検査（音声記号による記述）の演習を行う。	三浦
	第10回	③発声発語・摂食嚥下器官検査（1）（AL+AS） 音声言語医学会編「運動障害性構音障害dysarthriaの検査（第1次試案）」を基に 各器官の評価の方法を解説し、演習を通して手技と解釈を学ぶ。	三浦
	第11回	④発声発語・摂食嚥下器官検査（2）（AL+AS） 構音運動の評価。音声病理学で学んだ訓練開始のレベルや方法を意識した白坂式 （評価表2）評価を用い復習と演習を行う。	三浦
	第12回	⑤音声の評価（AL+AS） 音声障がいを概観する。サンプルテープ聴取による評価演習でその特徴を理解す る。また、気管切開患者、無喉頭者の病態を理解し、急性期の臨床の現場から社会 参加の場でのコミュニケーションを考える。	三浦
	第13回	⑥総合的検査、要素的検査、機器による検査（AL+AS） AMSD、音声言語医学第1次試案版、SLTASTの内容を紹介し一部演習として実施す る。	三浦
	第14回	⑦発話障がいにおける、生活支援、地域参加支援をICFに沿って検討しプログラム策 定する。（AL+AS） ICFのフレームワークを考える。AACの紹介と考え方。	三浦
	第15回	⑧まとめ・評価から全体プログラムの立案へ（AL） 評価の流れ、情報収集、インテーク、検査施行（方法、手順）、診断（鑑別診断、 確定診断、社会的診断、訓練の方法と支援、環境調整、社会への働きかけ	三浦
科目の目的	演習も行いながら、運動系障がいの評価を実践レベルで理解する。発声発語と摂食・嚥下は、ほ ぼ同じ器官を用いながら、動きや機能が異なる。その差異を理解し、共通の評価と異なる評価を学 ぶ。これによって、機能面へのアプローチも、共通のもの、個別のものが区別でき適切な訓練、 支援方法を選択実施できる。また、機能面の評価だけでなく、活動、参加レベルといった視点での 評価についても同様に学ぶ。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】 【人間力と倫理観】		
到達目標	発声発語障がいならびに摂食・嚥下障がいの検査を理解し、正しく実施できる。 検査結果から問題点を抽出し、基本的な目標と支援プログラムを策定できる。		

関連科目	局所解剖学、音声学、病理音声学、器質性・機能的発話障害支援論、摂食嚥下障害支援論、運動性発話障害支援論、運動系障害演習
成績評価方法・基準	毎回のレポート提出と評価40%、定期試験60%、全体を100点満点とし60点で合格とする。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	局所解剖学、耳鼻咽喉科学、音声学、病理音声学が基礎となるので、講義前に復習しておくことが望ましい。特に、音声学・病理音声学で学んだ音声表記については、自在に記述できるようにしておくこと。準備学習に必要な時間は30分程度である。
教科書・参考書	教科書：①廣瀬肇, 柴田貞雄, 白坂康俊著『言語聴覚士のための運動障害性構音障害学』医歯薬出版 ②清水充子編著『言語聴覚療法シリーズ15 改訂 摂食・嚥下障害』建帛社 参考書：①日本音声言語医学会編『新編 声の検査法』医歯薬出版 ②城本修, 原 由紀編集『標準言語聴覚障害学 発声発話障害学第3版』医学書院 ③廣瀬肇監修『STのための音声障害診断マニュアル』インテルナ出版
オフィス・アワー	三浦：月～木曜日 講義中会議中を除く。可能であればmailで確認の上尋ねて欲しい。 質問に対する回答は、講義中あるいはAAで全体に回覧する。 清水：質問、疑問点については、講義時間中が常勤教員をとおし回答する。
国家試験出題基準	【言語聴覚士】 VII-1-C-a～d VII-2-A、B、C、E VII-3-A、B、C、D、E
履修条件・履修上の注意	資料はAAでの配信と講義時に配布する。 一部ミニ演習を行いながら展開するので、事前に指示した用具は購入しておくこと。
アクティブ・ラーニングの実施	評価法の簡易演習及び講義中の項目に対するゼミ毎のディスカッションを通してアクティブラーニングを実施する。
実務経験のある教員による授業	
実務経験	三浦康子（言語聴覚士） 清水充子（言語聴覚士）
授業の概要	病理音声学の学びに基づき、発声発話器官の動きの異常と音声の異常の評価、症状の評価、訓練プログラムの策定を学ぶ。また、摂食・嚥下障害の評価及び活動制限に至る影響を理解する。発声発話と摂食・嚥下の障害の共通性と関連性を理解する。

講義科目名称： 聴覚障害学

授業コード： 1S095

英文科目名称： Study of Hearing Disorders

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
岡野 由実			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 言語聴覚士と聴覚障がい 聴覚臨床における言語聴覚士の役割と現状。	岡野
	第2回 擬似難聴体験 (AL)	岡野
	第3回 耳の構造と難聴の原因 耳の構造、伝音系・感音系の機能、伝音難聴・感音難聴の原因疾患	岡野
	第4回 聴覚検査とオーディオグラム 標準純音聴力検査等の各種聴覚検査とオーディオグラムの解釈	岡野
	第5回 補聴器と人工内耳 各デバイスの特徴と違い	岡野
	第6回 聴覚領域の抱える社会的課題 (1) (AL+AS) グループワーク	岡野
	第7回 聴覚領域の抱える社会的課題 (2) (AL+AS) グループワーク	岡野
	第8回 グループワークの発表 (1) (AL+AS)	岡野
	第9回 グループワークの発表 (2) (AL+AS)	岡野
	第10回 コミュニケーション支援 聴覚障害者のコミュニケーション方法と支援	岡野
	第11回 活動／参加支援と情報保障 情報保障の種類と聴覚障害者の活動／参加支援を考える	岡野
	第12回 先天性聴覚障がい者との対話 (AL) ゲストスピーカーとの対話	岡野
	第13回 対話のまとめ (AS) ゲストスピーカーとの対話をまとめ感想を発表	岡野
	第14回 後天性聴覚障がい者との対話 (AL) ゲストスピーカーとの対話	岡野
	第15回 対話のまとめ (AS) ゲストスピーカーとの対話を体験して学んだことをグループごとに発表する。	岡野
科目の目的	聴覚障がいをもたらす原因疾患、聴覚障害の種類 (感音難聴と伝音難聴) とその様態、聴力型の違いなどについて理解する。こうした疾患の治療法とその限界、補聴器や人工内耳の適応と訓練適応についても理解する。また、発症時期による課題の違いなどを理解し、聴覚障がい者の社会参加についても学ぶ。 【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	聴覚障がいについて理解を深め、聴覚障がい児・者の生活が想像できるようになる。聴覚障がい児・者への支援に携わる言語聴覚士の役割を理解できる。	
関連科目	聴覚検査法、聴覚補償、後天性聴覚障害支援論、先天性聴覚障害支援論、聴覚障害演習	
成績評価方法・基準	中間レポート40%、期末レポート50%、グループワークへの貢献度10%、合計で60%以上得た者に単位を認定する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	擬似難聴体験やグループワークには、講義時間外の時間にも実施することがある。学習時間の目安は約1時間とする。	
教科書・参考書	教科書：なし (講義資料を随時配布) 参考書：城間将江、鈴木恵子、小渕千絵 編集『標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 (第3版)』 (医学書院)	
オフィス・アワー	月曜～木曜 10:00～16:00のうち講義以外の時間	
国家試験出題基準	VII-1～3	
履修条件・履修上の注意	資料はアクティブ・アカデミーにて授業前までに配布 (配布期間は1週間)。 AL=アクティブ・ラーニング AS=アクティブ・ラーニング・ゼミ 講義内で知り得た症例の個人情報については、一切口外しないよう留意のこと。 講義開始前までに講義資料を配布する。配布された講義資料の整理を行うこと。	
アクティブ・ラーニングの実施	障害体験、グループ・ディスカッションを通して課題に取り組む、聴覚障がい当事者との対話など、アクティブ・ラーニングを実施。	

実務経験のある教員による授業	
実務経験	病院（耳鼻咽喉科）、療育施設、福祉施設において、言語聴覚士として聴覚障害児者支援の臨床経験。
授業の概要	

講義科目名称： 聴覚検査法

授業コード： 1S096

英文科目名称： Auditory Assessment Methods

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
岡野 由実			

授業形態	講義 (8) + 演習 (7)		担当者
授業計画	第1回	聴覚検査法の概要と種類 (講義) 各種聴覚検査の目的と概要。自覚的聴覚検査と他覚的聴覚検査。	岡野
	第2回	純音聴力検査 (講義) 検査の目的と内容。マスキング。オーディオグラムの解釈	岡野
	第3回	純音聴力検査 (演習) 標準純音聴力検査の演習。	岡野
	第4回	語音聴力検査 (講義) 語音了解閾値検査と語音明瞭度検査の目的と内容。結果の解釈。	岡野
	第5回	語音聴力検査 (演習) 語音聴力検査の演習。	岡野
	第6回	内耳機能検査、自記オーディオメトリー (講義) SISI検査等の内耳機能検査と自記オーディオメトリーの目的と内容。結果の解釈。	岡野
	第7回	内耳機能検査、自記オーディオメトリー (演習) SISI検査および自記オーディオメトリーの演習。	岡野
	第8回	インピーダンスオーディオメトリー (講義) ティンパノメトリーおよび音響性耳小骨筋反射検査の目的と内容。結果の解釈。	岡野
	第9回	インピーダンスオーディオメトリー (演習) インピーダンスオーディオメトリーの演習。	岡野
	第10回	他覚的聴力検査 (講義) 電気生理学的検査 (ABR、ASSR等) および耳音響放射検査 (OAE) の目的と内容。結果の解釈。	岡野
	第11回	他覚的聴力検査 (演習) 聴性脳幹反応検査 (ABR) と耳音響放射検査 (OAE) の演習。	岡野
	第12回	乳幼児聴力検査 (講義と演習) 乳幼児聴力検査の概要と注意事項。聴性行動反応検査 (BOA)、視覚強化式聴力検査 (VRA)、条件詮索反応検査 (COR)、遊戯聴力検査の対象・目的・内容。機器の紹介	岡野
	第13回	その他の聴覚検査と平衡機能検査 (講義) 耳管機能検査、耳鳴検査の目的と内容。平衡機能障害と平衡機能検査の種類、目的と内容。	岡野
	第14回	検査結果の解釈 (仮想症例による演習) 仮想症例の検査結果から症状を推測する。	岡野
	第15回	標準純音聴力検査 (実技試験) 標準純音聴力検査の実技試験 (個別実施)。	岡野+学科教員
科目の目的	聴覚検査として、自覚的検査法と他覚的検査法、目的による使い分けを学ぶ。耳鼻科疾患の診断から治療目的、訓練の目安、補聴器や人工内耳の装用のための情報を読み取る。また、対象が幼児の場合、自覚的検査法は、幼児特有の工夫や熟練が必要である。検査法の目的、方法を理解し、幅広く方法を習得する。 【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】		
到達目標	各種聴覚検査の目的・内容を把握し、検査結果の解釈と説明ができるようになる。標準純音聴力検査の手技を習得する。		
関連科目	聴覚障害学、聴覚補償、後天性聴覚障害支援論、先天性聴覚障害支援論、聴覚障害演習		
成績評価方法・基準	実技試験50%、筆記試験50%、合計で60%以上得た者に単位を認定する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	演習で扱った検査の手技については、授業時間外でも十分に練習を行うこと。講義の復習 (講義2コマにつき1時間程度が望ましい) を行い、疑問点は次回講義時までに講義担当教員まで質問すること。		
教科書・参考書	教科書：日本聴覚医学会 編集『聴覚検査の実際 改訂4版』 (南山堂)		
オフィス・アワー	月曜～木曜 10:00～16:00のうち講義以外の時間		
国家試験出題基準	Ⅶ-1B a～b Ⅶ-2B a～k		

履修条件・履修上の注意	資料はアクティブ・アカデミーにて授業前までに配布（配布期間は1週間）。配布された講義資料の整理を行うこと。
アクティブ・ラーニングの実施	体験学習によるアクティブ・ラーニングの実施。
実務経験のある教員による授業	
実務経験	病院（耳鼻咽喉科）、療育施設、福祉施設において、言語聴覚士として聴覚障害児者支援の臨床経験。
授業の概要	

講義科目名称： 地域参加支援演習 I

授業コード： 1S100

英文科目名称： Seminar I: Community Participation Support

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
齊藤 吉人	齊藤 吉人	白坂康俊	神山政恵
	三浦康子・丹下弥生	岡野由実・遠藤俊介	酒井哲郎・及川 翔

授業形態	ゼミ単位で、情報収集、企画立案を行い、教員がアドバイザーとして参加する(AS)。		担当者
授業計画	第1回	地域参加と地域参加支援 講義	齊藤吉人
	第2回	ゲストティーチャーによる実践報告 講義	齊藤吉人
	第3回	ゲストティーチャーによる実践報告 講義	齊藤吉人
	第4回	地域参加の現状と課題の理解 講義	齊藤吉人
	第5回	コミュニケーション技術の習得 AS	齊藤吉人
	第6回	コミュニケーション技術の習得 AS	齊藤吉人
	第7回	グループワーク技術の習得 AS	齊藤吉人
	第8回	グループワーク技術の習得 AS	齊藤吉人
	第9回	実践報告・紹介 講義	白坂康俊
	第10回	実践報告・紹介 講義	白坂康俊
	第11回	ワークショップによる課題の抽出 AS	齊藤吉人
	第12回	ワークショップによる課題の抽出 AS	齊藤吉人
	第13回	ワークショップによる課題の抽出 AS	齊藤吉人
	第14回	ワークショップによる課題の抽出 AS	齊藤吉人
	第15回	地域の障がい者あるいは社会的弱者を支援するボランティア活動に参加 AT	齊藤吉人
	第16回	地域の障がい者あるいは社会的弱者を支援するボランティア活動に参加 AT	齊藤吉人
	第17回	地域の障がい者あるいは社会的弱者を支援するボランティア活動に参加 AT	齊藤吉人
	第18回	地域の障がい者あるいは社会的弱者を支援するボランティア活動に参加 AT	齊藤吉人
	第19回	ワークショップによる課題の抽出 AS	齊藤吉人
	第20回	ワークショップによる課題の抽出 AS	齊藤吉人
	第21回	ワークショップによる課題の抽出 AS	齊藤吉人
	第22回	ワークショップによる課題の抽出 AS	齊藤吉人
	第23回	実際の事業テーマの作成 AS	齊藤吉人
	第24回	実際の事業テーマの作成 AS	齊藤吉人
	第25回	実際の事業テーマの作成 AS	齊藤吉人
	第26回	実際の事業テーマの作成 AS	齊藤吉人
	第27回	実際の事業テーマの作成 AS	齊藤吉人
	第28回	実際の事業テーマの発表 AS	齊藤吉人
	第29回	実際の事業テーマの発表 AS	齊藤吉人

	第30回 実際の事業テーマの発表 AS	齊藤吉人
科目の目的	自立ならびに、健常者と同じ地域社会への参加の実現をめざし、受け入れる社会の在り方を考える。言語聴覚士が、コミュニケーションや摂食嚥下についての専門性を生かして地域づくり、街づくりをすることの重要性と方法論を学修する。 ディプロマポリシー：【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】	
到達目標	言語聴覚障害のリハビリテーションにおける地域参加支援の難しさと意義を理解する。 言語聴覚障害のリハビリテーションにおける地域参加支援の方法論を説明できる。	
関連科目	地域参加支援演習II、地域参加支援論	
成績評価方法・基準	AS活動への貢献度(60%)、事業テーマの発表(30%)、AT活動の参加報告(10%)、総合して60%以上の者に単位を与える。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	ワークショップで分担した課題を調査、検討し、事前にグループ内で共有しておく(60分程度)	
教科書・参考書	なし	
オフィス・アワー	月～金の昼休み	
国家試験出題基準	VIII Ca～e	
履修条件・履修上の注意	AL=アクティブ・ラーニング AS=アクティブ・ラーニング・ゼミ 講義資料は講義の1週間前までにアクティブ・アカデミーにて配信する。講義当日はPCまたはタブレットで閲覧可能な状態で講義に臨むこと。	
アクティブ・ラーニングの実施	ALとASとATを実施する。	
実務経験のある教員による授業		
実務経験	齊藤 吉人(言語聴覚士)、白坂 康俊(言語聴覚士)、神山 政恵(言語聴覚士)、三浦 康子(言語聴覚士)、丹下 弥生(言語聴覚士)、岡野 由実(言語聴覚士)、遠藤俊介(言語聴覚士)、酒井哲郎(言語聴覚士)、及川 翔(言語聴覚士)	
授業の概要	自立ならびに、健常者と同じ地域社会への参加の実現をめざし、受け入れる社会の在り方を考える。言語聴覚士が、コミュニケーションや摂食嚥下についての専門性を生かして地域づくり、街づくりをすることの重要性と方法論を学習する。グループ単位で、情報収集、企画立案を行い、教員がアドバイザーとして参加する。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
齊藤 吉人	齊藤 吉人	白坂康俊	神山政恵
	三浦康子・丹下弥生	岡野由実・遠藤俊介	酒井 哲郎・及川 翔
授業形態	実習学内準備：1 日間(学内) 実習施設における実習：3 日間(学外) 実習後総括：1 日間(学内)		担当者
授業計画	<p>事前学習</p> <p>1) オリエンテーション(臨床見学実習の目的、内容、課題、留意すべき点などについて理解する。) 2) 自己のコミュニケーション態度に関する学習 3) 客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination)</p> <p>学外実習</p> <p>【必須内容】</p> <p>1) 言語聴覚療法業務の見学および一部実施 2) 実習記録(観察場面の記録およびデイリーノート)</p> <p>【選択課題】</p> <p>1) カンファレンス見学 2) 教材および道具の作成補助</p> <p>事後学習</p> <p>1) 実習報告会(レジュメ作成・報告) 2) 残された課題の整理</p>		<p>齊藤, 白坂, 神山, 三浦, 丹下, 岡野, 及川</p> <p>齊藤, 白坂, 神山, 三浦, 丹下, 岡野, 及川</p> <p>齊藤, 白坂, 神山, 三浦, 丹下, 岡野, 及川</p>
科目の目的	1年次の前期講義が終了した時期に臨床現場の見学を行い、言語聴覚士として座学で学んだ知識・技術を臨床場面での実践と結びつける。また、臨床における言語聴覚療法の流れを、見学あるいは一部補助的に参加することによって体験する。担当教員全員で実施する。【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人として相応しい態度や行動、コミュニケーションをとることができる ・医療従事者を目指す者として、患者・利用者を中心に据えて常に気遣うことができる ・言語聴覚士を目指す者として、対象者との関わりを通して言語聴覚療法に必要な情報を収集し、記録することができる 		
関連科目	言語聴覚障害学概論、言語聴覚障害学演習、言語聴覚障害学診断学、地域リハビリテーション学		
成績評価方法・基準	学外実習(3日間)の評価80%、事前学習(1日間)とまとめ(1日間)の評価20%として、100点満点換算で60点以上得た者に単位を与える。詳細についてはオリエンテーション時に提示する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前学習：1日間 1) オリエンテーション(臨床見学実習の目的、内容、課題、留意すべき点などについて理解する。) 2) 自己のコミュニケーション態度に関する学習 3) 客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination: OSCE)		
教科書・参考書	参考書：臨床実習マニュアル、学生手帳、実習手帳		
オフィス・アワー	月～金の昼休み		
国家試験出題基準	VIII-1-C-a~c		
履修条件・履修上の注意	AL=アクティブ・ラーニング AS=アクティブ・ラーニング・ゼミ 事前学習・事後学習に使用する資料は前日までにアクティブ・アカデミーにて配信する。当日は各自PCまたはタブレットにて閲覧可能な状態で臨むこと。		
アクティブ・ラーニングの実施	ALとして客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination)を行う。		
実務経験のある教員による授業			
実務経験	齊藤 吉人(言語聴覚士)、白坂 康俊(言語聴覚士) 神山 政恵(言語聴覚士)、三浦 康子(言語聴覚士)、丹下 弥生(言語聴覚士)、岡野 由実(言語聴覚士)、遠藤俊介(言語聴覚士)、酒井 哲郎(言語聴覚士)・及川 翔(言語聴覚士)		
授業の概要	言語聴覚療法対象者がいる施設にて臨床実習指導者の指導・監督の下、臨床実習指導者が行う言語聴覚療法を見学する。言語聴覚療法の実践場面の見学により、言語聴覚士として座学で学んだ知識・技術を臨床場面での実践と結びつけることを目的とする。加えて、社会人としての適切な振舞い以外に、医療従事者としての患者・利用者を中心に据える姿勢・責任感を学ぶ。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	3単位	必修
担当教員	担当者		
齊藤 吉人	齊藤 吉人	白坂康俊	神山政恵
	三浦康子・丹下弥生	岡野由実・遠藤俊介	酒井哲郎・及川 翔

授業形態	実習学内準備：2日間(学内) 実習施設における実習：2週間(学外) 実習後総括：3日間(学内)		担当者
授業計画	<p>事前学習</p> <p>1) オリエンテーション(臨床見学実習の目的、内容、課題、留意すべき点などについて理解する。)</p> <p>2) 自己のコミュニケーション態度に関する学習</p> <p>3) 客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination: OSCE)</p> <p>学外実習</p> <p>【必須内容】</p> <p>1) 言語聴覚療法業務の観察および一部実施</p> <p>2) 実習記録(観察場面の記録およびデイリーノート)</p> <p>【選択課題】</p> <p>1) カンファレンス見学</p> <p>2) 教材および道具の作成補助</p> <p>事後学習</p> <p>1) 実習報告会(レジュメ作成・報告)</p> <p>2) 残された課題の整理</p>	<p>齊藤, 白坂, 神山, 三浦, 丹下, 岡野, 遠藤, 及川</p> <p>齊藤, 白坂, 神山, 三浦, 丹下, 岡野, 遠藤, 及川</p> <p>齊藤, 白坂, 神山, 三浦, 丹下, 岡野, 遠藤, 及川</p>	
科目の目的	2年次の後期講義が終了した時期に、臨床現場にて対象者の心身の状態や行動を観察することにより、疾患による言語聴覚や摂食・嚥下への影響(病態)を適切な表現で記述し、考察する。対象者の情報と観察で得た情報をICFに沿って統合することにより、対象者に対して行われているリハビリテーションの全体像を把握する。担当教員全員で実施する。【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人として相応しい態度や行動、コミュニケーションをとることができる ・医療従事者を目指す者として、患者・利用者を中心に据えて常に気遣うことができる ・言語聴覚士を目指す者として、見学内容を正しく観察し、記録することができる 		
関連科目	言語聴覚障害学概論、言語聴覚障害学演習、言語聴覚障害診断学、地域リハビリテーション学、見学実習、評価実習、統合実習		
成績評価方法・基準	学外実習(2週間)の評価60%、事前学習(2日間)と実習後総括(3日間)の評価40%として、100点満点換算で60点以上得た者に単位を与える。詳細についてはオリエンテーション時に提示する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前学習：2日間 1) オリエンテーション(臨床見学実習の目的、内容、課題、留意すべき点などについて理解する。) 2) 自己のコミュニケーション態度に関する学習 3) 客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination: OSCE)		
教科書・参考書	参考書：臨床実習マニュアル、学生手帳、実習手帳		
オフィス・アワー	月～金の昼休み		
国家試験出題基準	VIII-1-C-a~c		
履修条件・履修上の注意	事前学習・事後学習に使用する資料は前日までにアクティブ・アカデミーにて配信する。当日は各自PCまたはタブレットで閲覧可能な状態で臨むこと。		
アクティブ・ラーニングの実施	実施しない。		
実務経験のある教員による授業			
実務経験	齊藤 吉人(言語聴覚士)、白坂 康俊(言語聴覚士) 神山 政恵(言語聴覚士)、三浦 康子(言語聴覚士)、丹下 弥生(言語聴覚士)、岡野 由実(言語聴覚士)、遠藤俊介(言語聴覚士)、酒井哲郎(言語聴覚士)、及川 翔(言語聴覚士)		
授業の概要	言語聴覚療法対象者がいる施設にて臨床実習指導者の指導・監督の下、臨床実習指導者が行う言語聴覚療法を観察あるいは一部実施する。対象者の情報と心身の状態や行動の観察を行い、疾患による言語聴覚や摂食嚥下への影響(病態)を考え、病歴(障害歴)を適切な表現を用いて記述できるようになることを目的とする。さらに、対象者との会話を通して、対象者の全体像を把握する。		